Endeavor

NT2500

ユーザーズマニュアル

ご使用の前に

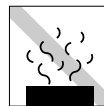
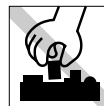
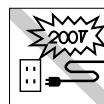
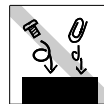
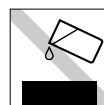
- ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

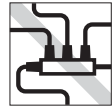
安全にお使いいただくために

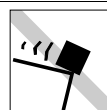
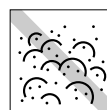
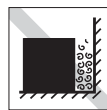
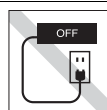
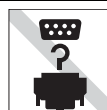
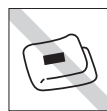
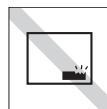
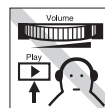
このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。
その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警 告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠警 告	
煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。 **感電・火災の原因となります。** **すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。** **お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。**	
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。 **けがや感電・火災の原因となります。**	
電源は、交流100V以外では使用しないでください。 **交流100V以外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。**	
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 **感電の原因となります。**	
通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。 **感電・火災の原因となります。**	
異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。 **感電・火災の原因となります。** **すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。**	

⚠警告

破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。 電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。 ・ 電源コードを加工しない。 ・ 無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない。 ・ 電源コードの上に重いものを載せない。 ・ 発熱器具の近くに配線しない。 電源コードが破損したら、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。	
電源コードのたこ足配線はしないでください。 発熱し、火災の原因となります。 家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。	
電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。 取り扱いを誤ると、火災の原因となります。 ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。 ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。	
 本体や付属のバッテリパック類を火中に入れたり、加熱しないでください。 破裂などで火傷の原因となります。	
バッテリパックの端子をショートさせないでください。 火傷の原因となります。	
付属のACアダプタやバッテリパックの分解や改造をしないでください。 火傷や、化学物質による被害の原因となります。	
小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。	
バッテリパックは指定されている以外の充電方法で充電しないでください。 発熱、発火や液漏れによる被害の原因となります。	
電源コンセントに電源プラグを接続、あるいはバッテリパックを装着したまま本製品を分解しないでください。感電や火傷の原因となります。	
雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。 感電の原因となります。	

⚠ 注 意

小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。	
不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。	
湿気やホコリの多い場所に置かないでください。 感電・火災の危険があります。	
本製品の通風孔をふさがないでください。 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。 設置する際は、次の点を守ってください。 ・ 押し入れや本箱など風通しの悪いところには設置しない。 ・ じゅうたんや布団の上には設置しない。 ・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。	
連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ずコンピュータ本体からバッテリパックを抜き、電源プラグをコンセントから抜いてください。	
各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。 配線を誤ると、火災の危険があります。	
本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。	
バッテリパックは、落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。 破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。	
ACアダプタやバッテリパックは、本製品以外には使用しないでください。 火傷・火災の危険があります。	
ACアダプタの温度の高い部分に、長時間直接触れないでください。 低温火傷の原因になります。	
ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。 火傷・火災の危険があります。	
破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。 火傷・火災の危険があります。	

⚠ 注 意

ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。 ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。	
長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。 肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの危険があります。	
メモリの増設・交換は本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。	
液晶ディスプレイが破損して、内部の液体が漏れた場合は、液体をなめたり、触ったりしないでください。 火傷や化学物質による被害の原因となります。 万一、液体が皮膚に付着したり、目に入った場合は流水で十分に洗い、医師に相談してください。	
ひざの上で長時間使用しないでくだい。本体底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。	

● 使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

● コンピュータの基本操作

キーボードやタッチパッド、CD-ROMドライブの使い方など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

● システムの拡張

メモリの増設方法やコンピュータに接続できる装置について説明します。

● BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

● ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

● こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

● 付録

お手入れ方法やHDD領域の作成方法、仕様などについて説明します。

目　次

使い始めるまでの準備

コンピュータの基本操作

システムの拡張

BIOSの設定

ソフトウェアの再インストール

こんなときは

付　録

マニュアル中の表記について

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号

制限事項です。
機能または操作上の制限事項を記載しています。

参考事項です。
覚えておくと便利なことを記載しています。

•••▶

説明文が次ページに続くことを示します。

参照ページを示します。

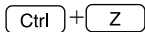
1 2

操作手順です。
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。

Ctrl

□で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。

↵ はEnterキーを表します。また、N は Nみ のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、実際のキートップの表示とは異なる場合があります。

Ctrl + Z

＋の前のキーを押したまま＋の後のキーを押します。
この例では、Ctrl を押したまま Z を押します。

名称の表記

本書ではコンピュータに関連する製品の名称を次のように略して表記します。

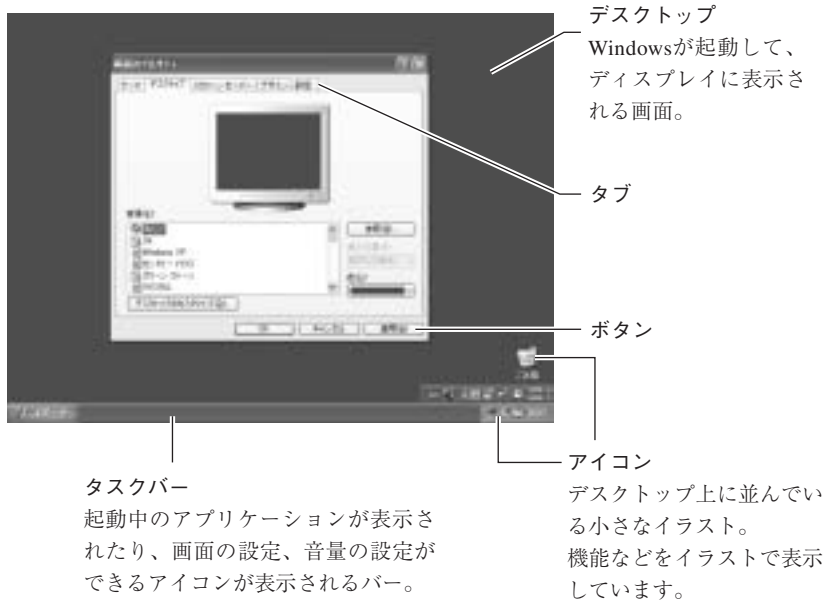
HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ

オペレーティングシステムに関する記述

本書ではオペレーティングシステムの名称を次のように略して表記します。

Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional Microsoft® Windows® XP Home Edition
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional
MS-DOS	Microsoft® MS-DOS® Operating system

Windowsの画面表示に関する記載方法(Windows XP)

本書では、Windows XP画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

ボタンは[ ]で囲んで記載します。

例 スタート :[スタート]、 OK :[OK]

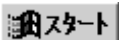
Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

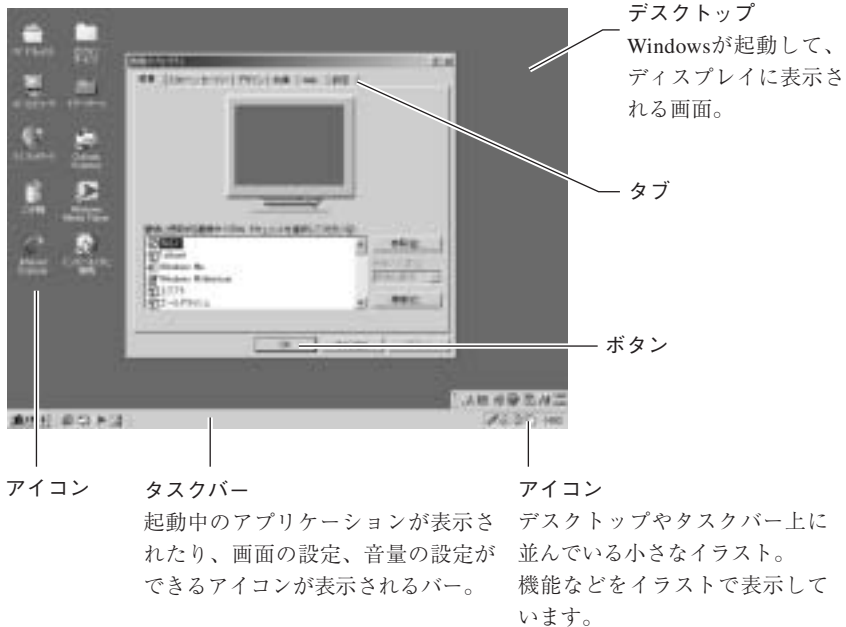
記載例 :[スタート]－「すべてのプログラム」－「Internet Explorer」をクリックします。

実際の操作 : ① [スタート]をクリックします。

② 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

③ 横に表示されるサブメニューから「Internet Explorer」をクリックします。

Windowsの画面表示に関する記載方法（Windows 2000）

本書では、Windows 2000画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

※マニュアル中で採用している画面は、主にWindows XPのものです。Windows 2000で表示される画面とデザインが異なりますが、基本的な機能は同じです。

ボタンは、[　]で囲んで記載します。

例 スタート ：[スタート]、 OK ：[OK]

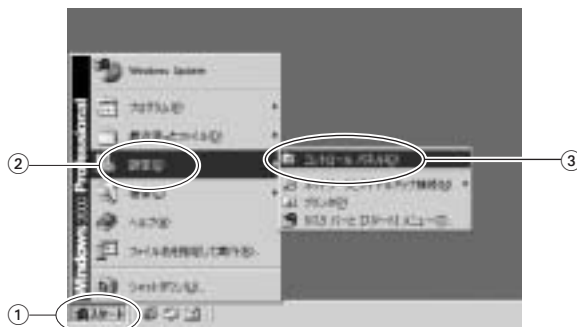
Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

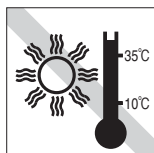
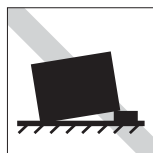
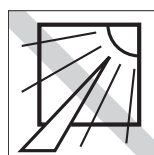
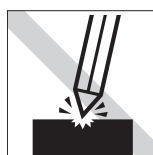
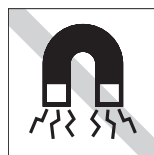
記載例　　：[スタート]－「設定」－「コントロールパネル」をクリックします。

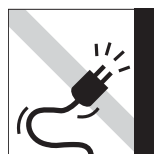
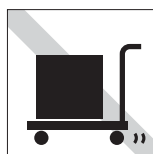
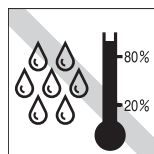
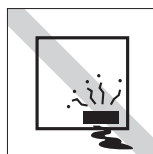
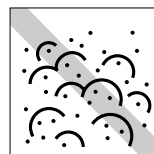
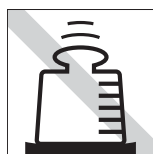
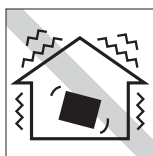
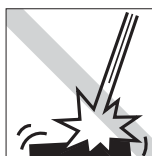
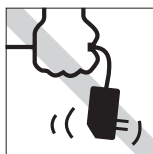
実際の操作：① [**スタート**]をクリックします。

② 表示されたメニューから「**設定**」をクリックします。

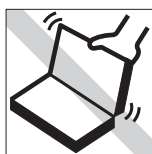
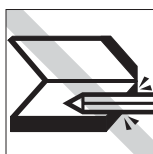
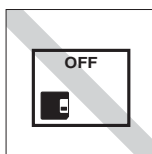
③ 横に表示されるサブメニューから「**コントロールパネル**」をクリックします。

製品保護上の注意

使用・保管時の注意

コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱ってください。

温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。

不安定な所には設置しないでください。
落下したり、振動したり、倒れたりすると、コンピュータが壊れ、故障することがあります。

直射日光の当たる所や、発熱器具(暖房器具や調理用器具など)の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。

LCD画面の表面を先のとがったもので引っかいたり、無理な力を加えたりしないでください。
LCD画面の表面はアクリル製ですので、キズが付いたり、割れたりすることがあります。

テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、FDなどのデータが破壊されることがあります。
逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。

本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤をしたたらない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

電源コードが抜けやすい所(コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など)にコンピュータを置かないでください。バッテリパックの状態により、電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えることがあります。

遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。

湿度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。適切な湿度の目安は20%～80%です。

本製品を長期間使用しないときは、バッテリパックをコンピュータにセットしたままにしないでください。
液もれを起こすことがあります。

ホコリの多い所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。

本製品の上に重い物を載せたり、カバーを強く押さえつけたりしないでください。
LCDやバックライトが破損したり、表示異常となることがあります。

他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。

本製品を落としたり、ぶつけたりして、ショックを与えないでください。持ち運ぶときは、バッグに入れるなどしてショックから守るようにしてください。

ACアダプタはコードを持って抜き差ししないでください。
コードの断線や接触不良の原因となります。

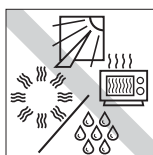
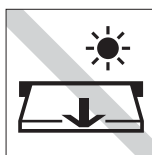
コンピュータ・バッテリパックは一般ゴミとして廃棄しないでください。廃棄するときは、お住まいの市区町村の条例または規則に従って、適切に処分してください。

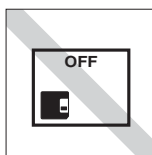
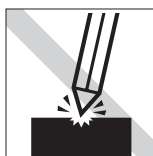
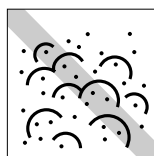
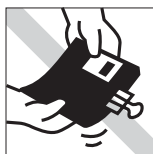
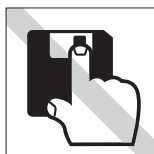
ACアダプタの上に乗ったり、踏みつけたり、重い物を載せるなどして、ケースを破壊しないでください。

本製品のカバー(液晶ディスプレイ)を開けた状態で、カバー部分を持って移動しないでください。

キーボードの上などに、物(ボールペンなど)を挟んだまま、カバー(液晶ディスプレイ)を閉じないでください。

本製品を持ち運ぶときはFDを抜いてください。FDDイジェクトボタンに無理な力がかかり破損の原因になります。

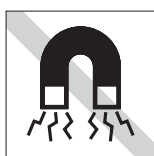
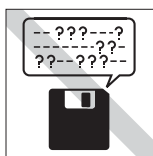
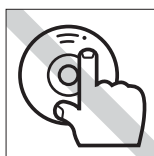
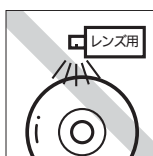
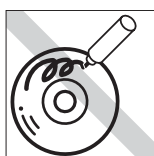
記録メディア

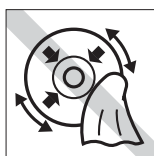
以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。
記録メディアの種類は、次のとおりです。

- FD　FD
- CD-ROM・CD-R・CD-RW・DVD-ROMなど　CD

記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。

直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。

アクセス LED が点灯中は、記録メディアを取り出したり、コンピュータの電源を切ったり、再起動しないでください。

上に物を載せないでください。

使用後は、コンピュータにセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。
専用のケースに入れて保管してください。

キズを付けないでください。

ゴミやホコリの多いところでは使用しないでください。また、そのような場所に記録メディアを保管しないでください。

クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

アクセスカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。FD

磁性面にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。FD

テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。FD

何度も読み書きしたFDは使わないでください。
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。FD

信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。CD

レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。CD

信号面(文字などが印刷されていない面)に文字などを書き込まないでください。CD

CD-ROMドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。CD

レコードのように回転させて拭かないでください。
CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。CD

シールを貼らないでください。CD

使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

ご使用の前に

コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後に初めて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。

手順	内容
梱包品の確認	まず、梱包品に不足や不良がないかを確認します。 『梱包品の確認』

手順	内容
安全にお使いいただくために	正しく安全にお使いいただくための情報を確認します。必ずお読みください。 表紙裏面

手順	内容
製品保護上の注意	正しく取り扱っていただくための情報を確認します。 必ずお読みください。 p.16「製品保護上の注意」

手順	内容
ご使用の前に	本機を使用する前に必要な情報を確認します。 p.20「ご使用の前に」

手順	内容
各部の名称と働き	本機の各部の名称と働きを確認します。 p.25「各部の名称と働き」

手順	内容
ハードウェアを セットアップしましょう	各機器の接続を行い、本機を使用可能な状態にします。 p.31「ハードウェアをセットアップしましょう」

手順	内容
電源の入れ方とWindowsの セットアップ	電源を入れ、Windowsを初めて起動したときに実行される Windowsのセットアップを行います。 p.36「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」

手順	内容
電源の切り方	Windowsを終了し、本機の電源を切ります。 p.50「電源の切り方」

ご使用前の確認事項

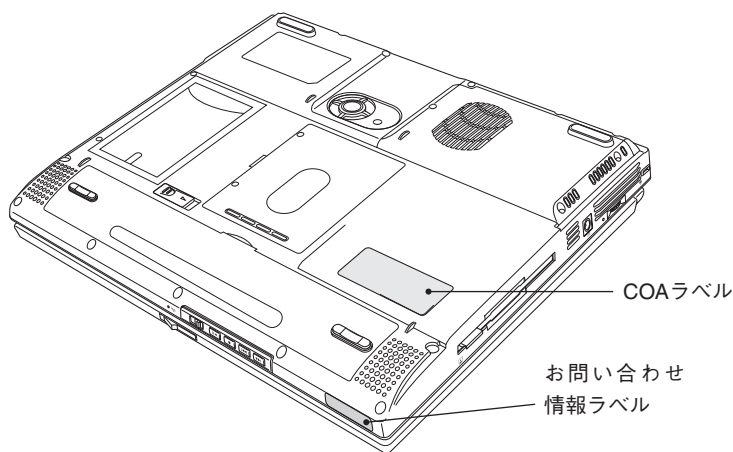
本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。また、ラベルは絶対にはがさないでください。

● お問い合わせ情報ラベル

お問い合わせ情報ラベルには、型番や製造番号などが記載されています。弊社へサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

製品のサポート・サービスについては、『サポート・サービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

● COAラベル

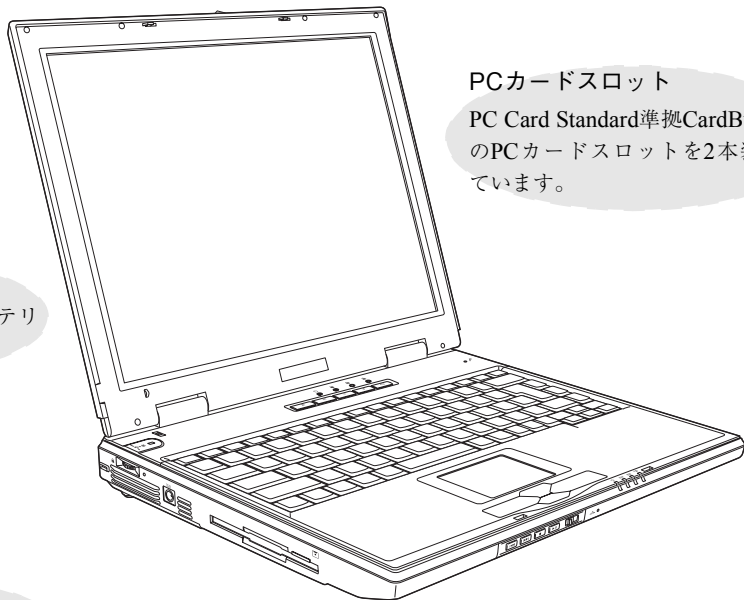
「COAラベル(Windows Certificate of Authenticityラベル)」は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。万一COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。絶対にはがさないでください。

本機の特長

メモリ容量
DDR対応のSDRAMを装着して、最大1GBまで増設が可能です。

CPU性能
モバイルインテルPentium4プロセッサ-Mまたは、モバイルインテルCeleronプロセッサを搭載しています。

表示装置
14.1型または15型TFT XGA液晶ディスプレイを搭載しています。外付けディスプレイやテレビを接続することもできます。

PCカードスロット
PC Card Standard準拠CardBus対応のPCカードスロットを2本装備しています。

電源
ACアダプタ、またはバッテリパックを使用します。

FDD
3.5型FDDを内蔵しています。

ポインティングデバイス
スクロールボタン付きタッチパッドを搭載しています。

CD-ROMドライブ
ATAPI CD-ROMドライブを装備しています。
CD-ROMドライブの代わりにCD-R/RWドライブまたはコンボドライブが装備されたモデルもあります。

そのほか
- 光デジタルオーディオ出力を装備しています。
- ネットワーク機能を搭載しています。
- USB2.0機能を搭載しています。

オペレーティングシステム
Windows XP、またはWindows 2000をインストール済みです。

添付されているソフトウェア

本機に標準で添付されているソフトウェアは、次のとおりです。購入時のシステム構成によってはこのほかにも添付されているソフトウェアがあります。

表中記号の見方

✓ :購入時には、HDDにインストールされています。

□ :購入時には、インストールされていません。必要に応じてインストールしてください。

リカバリCDに登録されているソフトウェア

ソフトウェア	Windows XP インストールモデル	Windows 2000 インストールモデル
● Windows Windowsは、最新のものがインストールされています。	✓	✓

ドライバCDに登録されているソフトウェア

ソフトウェア	Windows XP インストールモデル	Windows 2000 インストールモデル
● ディスプレイドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。	✓	✓
● サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。	✓	✓
● ネットワークドライバ ネットワーク機能を使用するためのドライバです。	✓	✓
● タッチパッドドライバ タッチパッドを使用するためのドライバです。	✓	✓
● インスタントキードライバ Fn キーと組み合わせて使用する機能キーや、インスタントキーを使用するためのドライバです。	✓	✓
● USB2.0ドライバ USB2.0機能を使用するためのドライバです。	※1	✓
● メールユーティリティ メールLEDを機能させるためのユーティリティです。	□	□

※1 Windows XPが標準で機能を持っています。

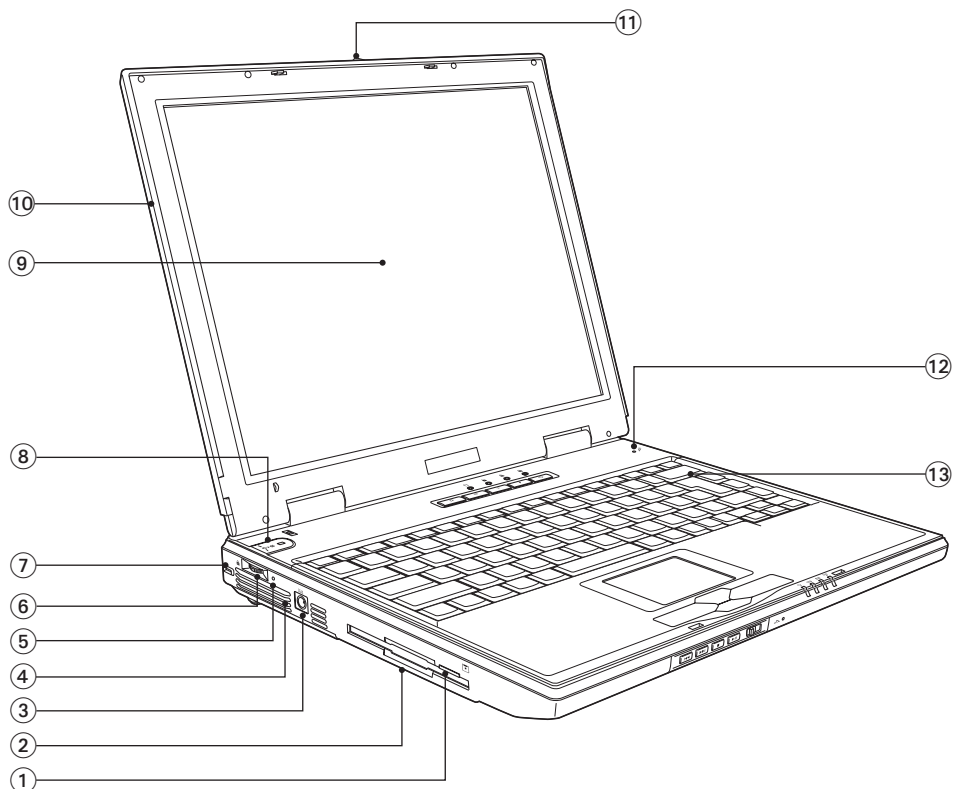
ドライバCDに登録されているソフトウェア（前ページのつづき）

ソフトウェア	Windows XP インストールモデル	Windows 2000 インストールモデル
● Power Gear（パワーギア）ユーティリティ CPU 速度や LCD 輝度を調整して消費電力を抑えるためのユーティリティです。		
● スピードステップユーティリティ （モバイルインテルPentium4プロセッサ-M搭載モデルのみ） 使用電源（バッテリなど）に合わせて、自動的にCPUの処理速度を調整するユーティリティです。	※1	※2
● Windows Media Player7 Windows 2000を起動した状態で、音楽CD再生機能を使用するためのソフトウェアです。		
● Norton AntiVirus2003 最新マクロウィルスに対応し、ウィルス駆除もできる高機能なウィルス対策プログラムです。		
● Adobe Acrobat Reader PDF（Portable Document Format）形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。		

※1 Windows XPが標準で機能を持っています。モバイルインテルCeleronプロセッサ搭載モデルでは、機能しません。

※2 モバイルインテル Celeron プロセッサ搭載モデルでは、スピードステップユーティリティが機能しないため、プリインストールされていません。

各部の名称と働き

正面・左側面

① FDDイジェクトボタン
FDDにセットしたFDを取り出すときに押します。

② 3.5型FDD
3.5型FDの読み出し、書き込みを行います。

③ ACアダプタコネクタ DC IN
付属のACアダプタを接続します。

④ 通風孔
コンピュータ内部で発生する熱を逃がしたり、冷したりします。

⑤ リセットホール
コンピュータを強制終了させるときに使用します。

⑥ ボリューム調節ダイヤル
スピーカの音量を調節します。

⑦ セキュリティロックスロット K
市販の盗難防止用ケーブル（ワイヤー）を接続します（ケンジントン社製セキュリティロックに対応しています）。

⑧ ミュートLED
スピーカのONとOFFの状態を示します。

緑点灯	スピーカOFF
消　灯	スピーカON

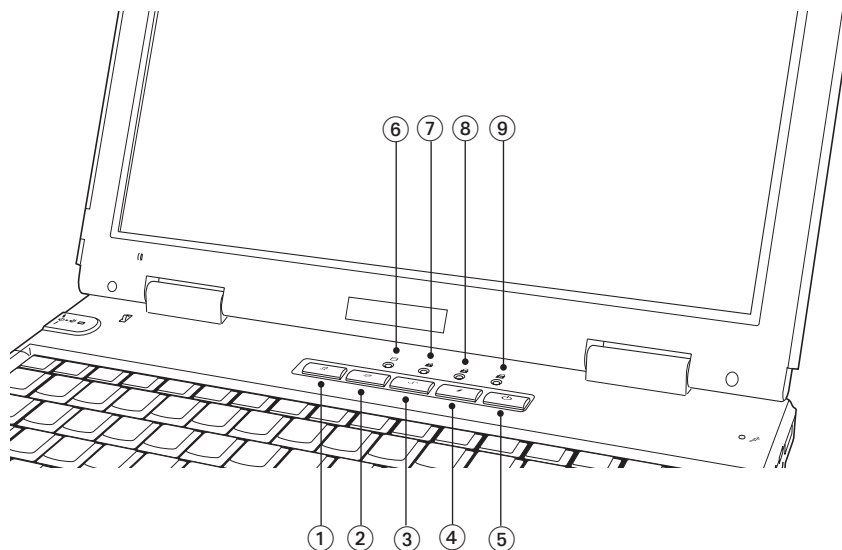
⑨ LCD画面
入力した文字や、作業内容を表示します。

⑩ LCDユニット
LCD画面やLCDラッチを含めた画面部分の総称です。

⑪ LCDラッチ
LCDユニットを開くときにスライドします。

⑫ 内蔵マイク
音声をコンピュータに取り込むときに使用します。

⑬ キーボード
文字の入力やアプリケーションの操作などを行います。

インスタントキー／ステータスLED

① Power Gearキー
4段階のモードに設定されたパフォーマンス(処理速度)を切り替えて、消費電力を低減します。使用するには、Power Gearユーティリティのインストールが必要です。

② メールキー
「Outlook Express」を起動します。

③ インターネットキー
「Internet Explorer」を起動します。

④ アプリケーションキー
「マイドキュメント」を開きます。

⑤ 電源スイッチ
本機の電源の入/切を行います。また、スタンバイや休止状態からの復帰にも使用できます。

⑥ アクセスLED
HDDアクセス中に緑色に点灯します。

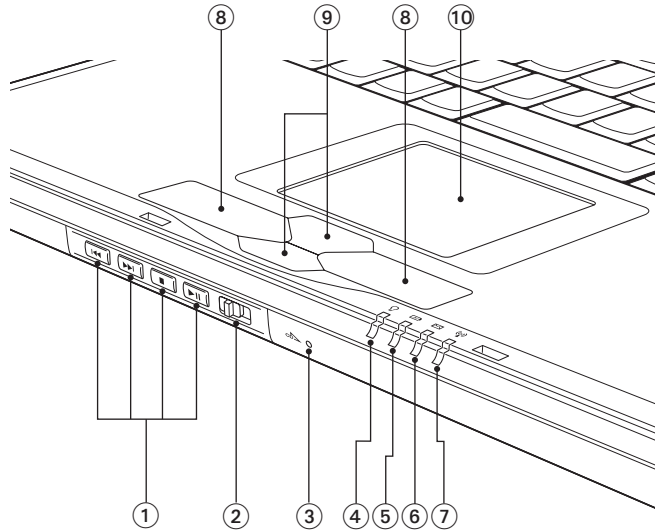
⑦ NumLock LED
NumLockキーの設定状態を表示します。緑色に点灯しているときは、数値キーモードに設定されています。

⑧ Caps Lock LED
Caps Lockキーの設定状態を表示します。緑色に点灯しているときは、Shiftキーを押さずにアルファベットの大文字を入力することができます。

⑨ Scroll Lock LED
Scroll Lockキーの設定状態を表示します。

制限

アクセスLEDが点灯しているときに電源を切ったり、コンピュータをリセットしないでください。データが破壊されるおそれがあります。

音楽CD再生ボタン／タッチパッド／ステータスLED

① 音楽CD再生ボタン
音楽CDの再生などを操作します。

② CD電源ボタン
コンピュータの電源が切れた状態で、音楽CDを再生するための電源スイッチです。

③ CD LED
CD電源ボタンで電源を入れると点灯します。

④ 電源LED
電源状態を示します。

緑点灯	通常モード
緑点滅	スタンバイモード
消　灯	電源切断時または休止状態

⑤ バッテリ充電LED
バッテリの充電状態を示します。

橙点灯	充電中
消　灯	満充電

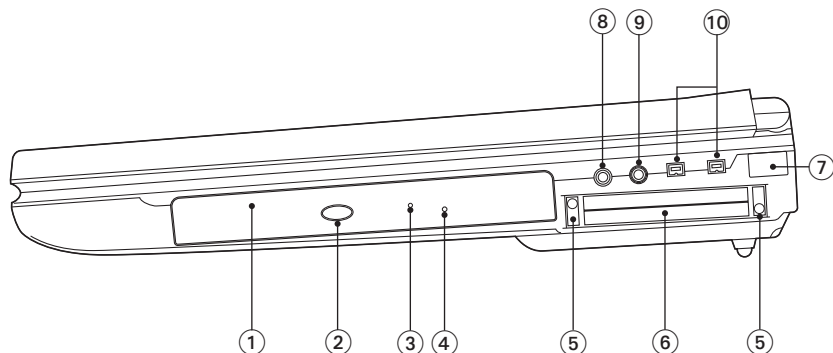
⑥ メールLED
「Outlook Express」または「Outlook」使用時に未開封メールがあると青色に点灯します。使用するにはメールユーティリティのインストールが必要です。

⑦ 使用しません。

⑧ クリックボタン
マウスの左右ボタンに相当します。

⑨ スクロールボタン
「画面をスクロールさせる」など、特定の機能を実行します。

⑩ タッチパッド
指を軽く乗せて操作することにより、画面上のポインタを操作します。

右側面

① CD-ROMドライブ（CD-ROMドライブモデルの場合）＊
CD-ROMの読み出しを行います。

② CD-ROMイジェクトボタン
ディスクトレイの開閉を行います。

③ CD-ROMアクセスランプ
データのアクセス中やオーディオCD再生中に点滅します。

④ CD-ROMイジェクトホール
ディスクトレイが開かなくなったときに使用します。

⑤ PCカードイジェクトボタン
PCカードを取り出すときに押します。

⑥ PCカードスロット
PC Card Standard 規格準拠のPCカードをセットして使用します。

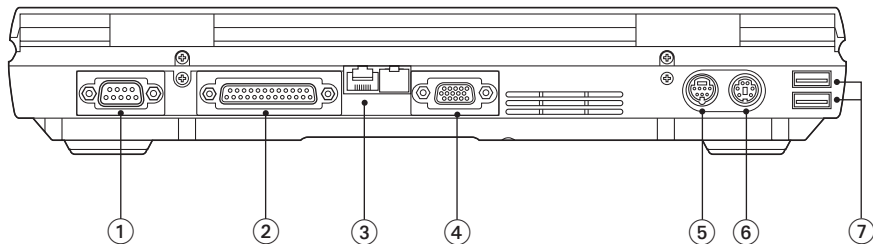
⑦ 赤外線ポート
赤外線通信を行うときに赤外線の送受信を行います。

⑧ ヘッドフォン出力/光デジタルオーディオ出力（S/P DIF）コネクタ
スピーカ、ヘッドホンなどを接続するほかにMDデッキなどのデジタルオーディオ機器を接続します。

⑨ マイク入力コネクタ
マイクを接続します。

⑩ IEEE1394コネクタ 1394
IEEE1394機器を接続します（4ピン）。

＊①②③④の名称および位置はお使いのドライブによって異なります。
各ドライブ装置のPDFマニュアルをご覧ください（CD-ROMを除く）。
PDFマニュアルは、デスクトップ上に登録されています。

背面

① シリアルコネクタ
モデムなどのRS-232Cインタフェースに対応した装置を接続します。

② パラレルコネクタ
プリンタやスキャナなどを接続します。

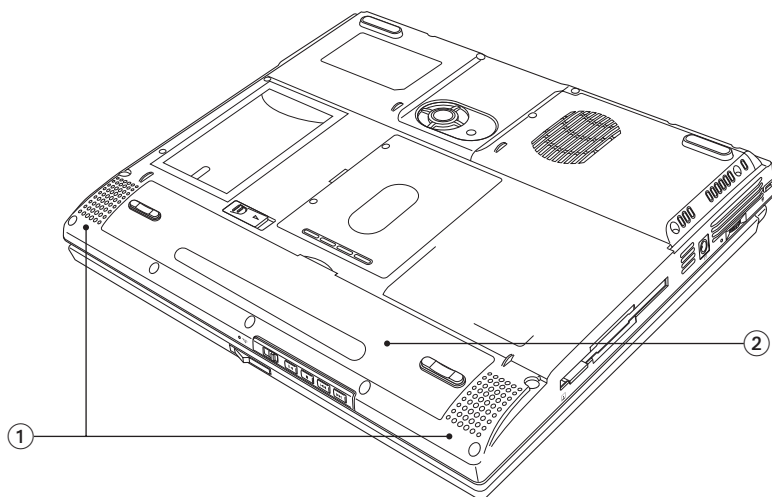
③ LANコネクタ
ネットワークを接続します。

④ VGAコネクタ
CRTディスプレイなど外付けディスプレイ（アナログタイプ）を接続します。

⑤ ビデオ出力ジャック
テレビのS端子と接続します。

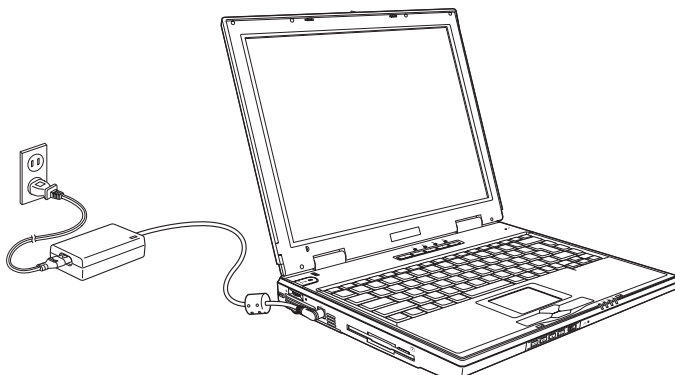
⑥ キーボード／マウスコネクタ /
PS/2の外付けキーボードやマウスを接続します。

⑦ USB2.0コネクタ
USB対応機器を接続します。

底面

① 内蔵ステレオスピーカ
警告音や音声などを鳴らします。

② バッテリパック
バッテリパックが装着されています。

ハードウェアをセットアップしましょう

本機を、基本的なシステム構成でセットアップする手順を説明します。プリンタなどの周辺機器を接続する場合はWindowsのセットアップ終了後に周辺機器のマニュアルを参照して接続とセットアップを行ってください。

設置における注意

注意

- 本機の底面は熱くなるため、ひざの上に置いて長時間使用しないでください。熱による火傷の危険があります。
- 不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置の際は次の点を守ってください。
  - ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところには設置しない。
  - ・じゅうたんや布団の上には設置しない。
  - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

各種コードやバッテリパック装着時の注意

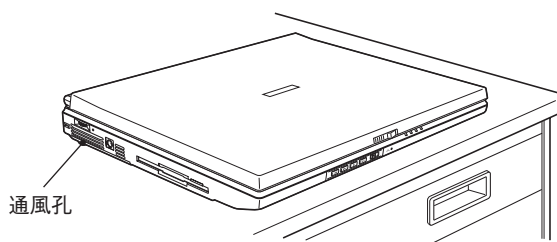
警告

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
  - ・電源プラグは、ホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
  - ・電源プラグは刃の先まで確実に差し込む。

● 各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

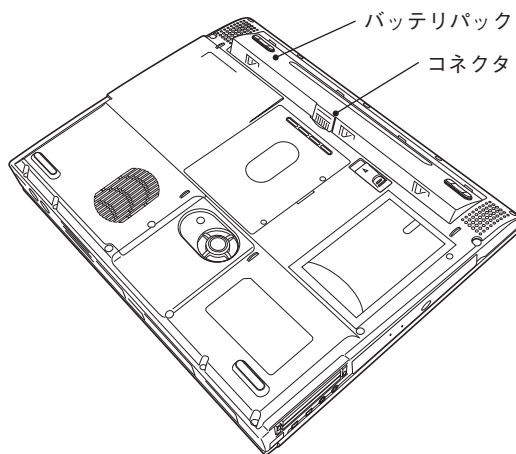
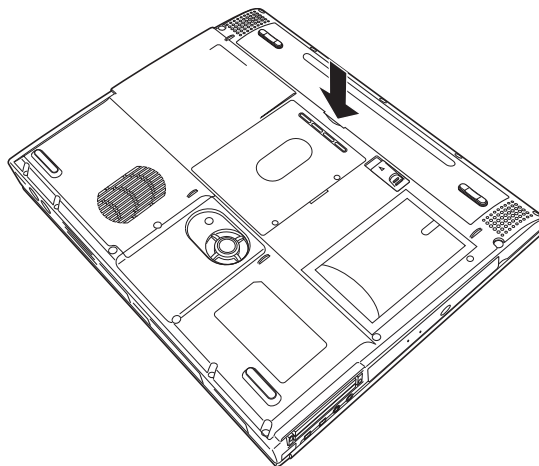
設置する

1 本機を設置場所(机などの丈夫で水平な台の上)に置きます。

左側の通風孔をふさがないようにしてください。

バッテリパックを装着する

2 バッテリパックを装着します。

❶ コンピュータの底面部を上にして置きます。

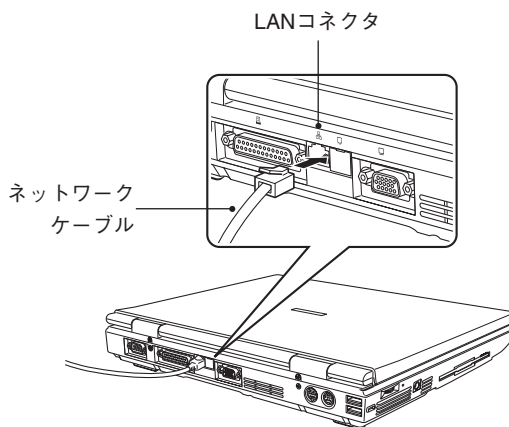
❷ 下図のとおりバッテリパックをコンピュータに合わせます。

❸ バッテリパックをカチッと音がするまで押し込みます。バッテリパックが固定されます。

本機はバッテリパックだけで使用できます。ただし、出荷時にバッテリパックは満充電状態ではありません。バッテリパックだけで使用する場合は、使用前に充電が必要です。

p.56「ACアダプタ/バッテリパックを使う」

ネットワークへの接続をする

3 ネットワーク機能を使用する場合は、市販のネットワークケーブルでネットワークと接続します。

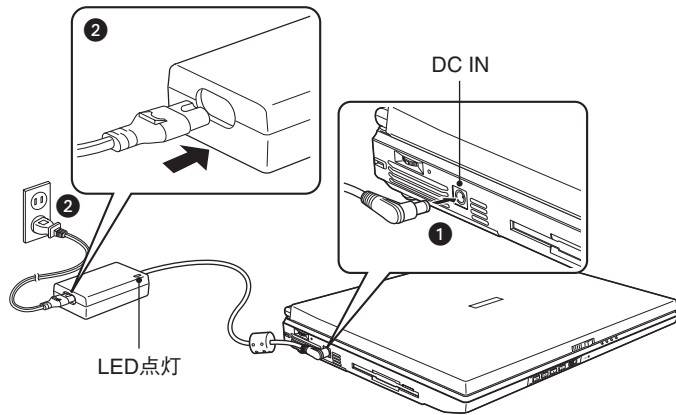
LANコネクタにカチッと音がするまで差し込みます。

ネットワークの詳細は、ネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方に確認してください。

ACアダプタを接続する

本機を持ち運ぶ必要がない場合は、通常ACアダプタを接続して使用します。

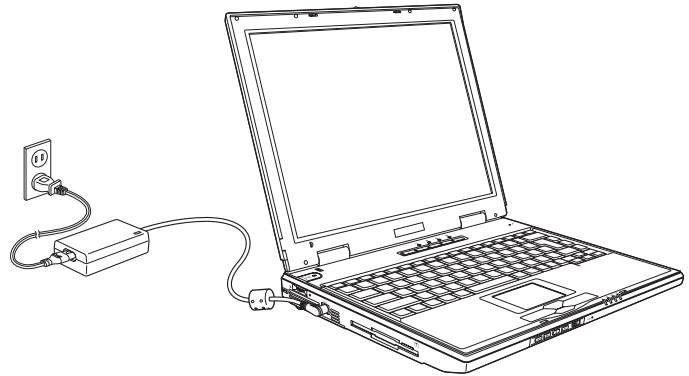
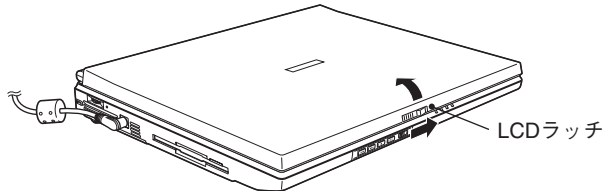
4 ACアダプタをコンピュータと家庭用電源コンセントに接続します。

❶ ACアダプタのプラグ部を本体左側面のACアダプタコネクタ(DC IN)に接続します。

❷ 電源コードをACアダプタと家庭用電源コンセントに接続します。

ACアダプタを接続して使うときも、必ずバッテリパックをセットした状態で使ってください。

LCDユニットを開ける

5 前面のLCDラッチを矢印方向にスライドさせて、LCDユニットを開きます。

LCDユニットは、見やすい角度に調節してください。

これでハードウェアのセットアップは終了です。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、電源の入れ方と購入後に初めて電源を入れたときに行うWindowsのセットアップについて説明します。

Windowsを使用できるようになるまでの作業

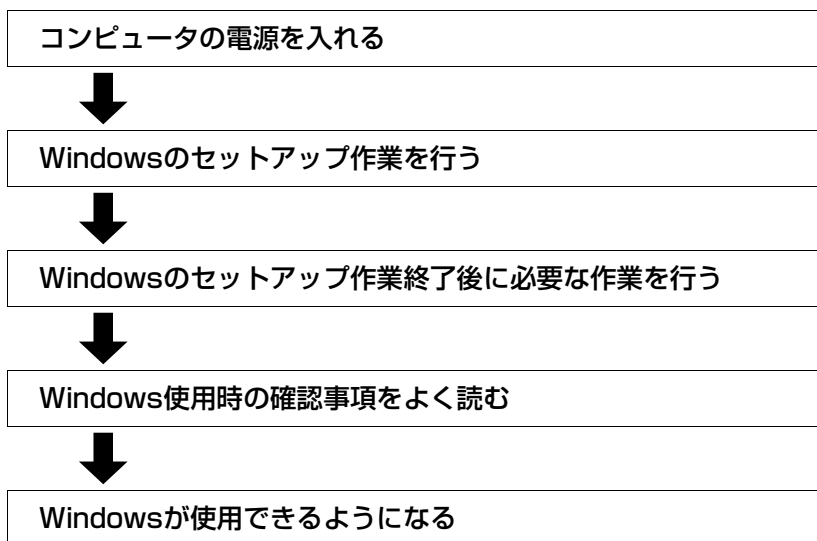
作業の流れは、次のとおりです。次ページからの手順に従って作業を行ってください。

コンピュータの電源を入れる

Windowsのセットアップ作業を行う

Windowsのセットアップ作業終了後に必要な作業を行う

Windows使用時の確認事項をよく読む

Windowsが使用できるようになる

電源を入れる前に

Windowsのセットアップ

「Windowsセットアップ」は、コンピュータが届いてから、初めて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って簡単に行うことができます。

セットアップ中に入力する項目について

Windowsのセットアップでは、次の項目の入力が必要です。

● コンピュータ名

「コンピュータ名」は、本機をネットワークに接続して使用する場合などに必要です。セットアップ時は、すでに任意のコンピュータ名が入力されています。

・ネットワークに接続しない場合：セットアップ時のコンピュータ名を変更する必要はありません。

・ネットワークに接続する場合　：ネットワーク上にあるほかのコンピュータ名と重複しないように、コンピュータ名を入力します。詳しくは、ネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方の指示に従ってください。

● パスワード

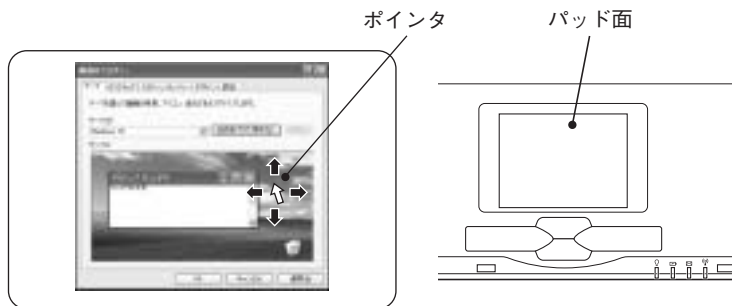
本機を個人で使用/管理する場合は、任意のパスワードを設定します（設定しなくても問題ありません）。企業など、使用者とは別に本機を管理する方がいる場合は、管理する方の指示に従って入力します。パスワードを設定した場合は、忘れないようにしてください。

このパスワードは、Administratorのパスワードです。Administratorとは、すべての機能にアクセスできるシステム管理用のユーザーアカウント権限のことです。

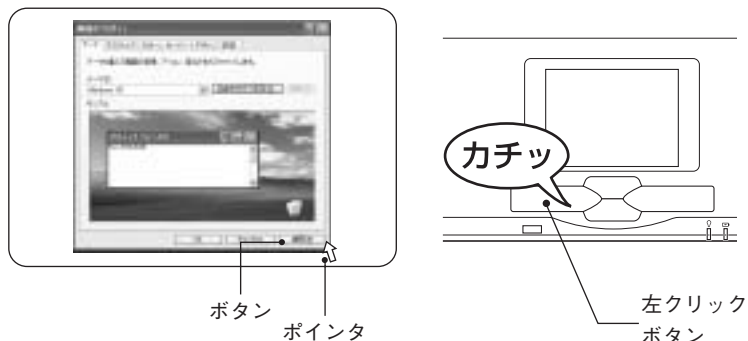
タッチパッドの使い方

Windowsのセットアップは、タッチパッドの操作で行います。セットアップで必要なタッチパッドの基本操作は、次のとおりです。

● **ポインタを動かす**

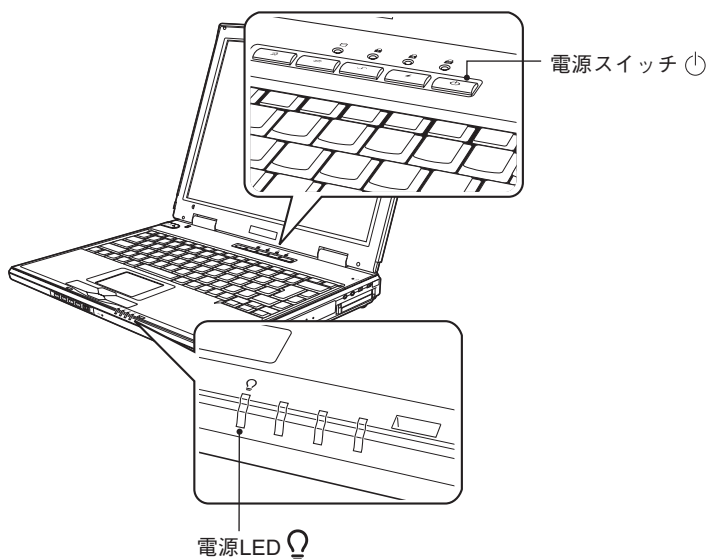
人差し指をタッチパッドのパッド面に触れたまま前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているポインタも指と同じ動きをします。

● **ボタンをクリックする**

❶ 指を動かして、ポインタを画面のボタンの上に重ねます。

❷ 左クリックボタンを、1回「カチッ」と押して離します。
この動作を「クリック」と言います。
ボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。

電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は次のとおりです。

1 **電源スイッチを押して、本機の電源を入れます。電源LEDが点灯します。**

電源を入れたときに電源LEDが点灯しない場合は、ACアダプタやバッテリパックが正しく接続されているか確認し、正しく接続し直してください。

2 **黒い画面の中央にロゴが表示され、しばらくするとWindowsが起動します。**

次の調節をして画面を見やすくします。

- 角度　LCDパネルを前後に動かします。
- 画面の明るさ　Fn+F6：明るくなります。
  Fn+F5：暗くなります。

続いてWindowsのセットアップを行います。

- Windows XPインストールモデル
  p.40「Windows XPのセットアップ」
- Windows 2000インストールモデル
  p.42「Windows 2000のセットアップ」

Windowsのセットアップ

Windows XPのセットアップ

Windows XPインストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1 **電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows XPセットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。**

Microsoft Windowsへようこそ

↓ セットアップを続行するには、[次へ]をクリックします。

使用許諾契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
※「同意しません」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

コンピュータ名

↓ 「このコンピュータの名前」を入力します。
p.37「セットアップ中に入力する項目について」

パスワードの設定

↓ Windows XP Professionalをお使いの場合は、Administratorのパスワードを入力します。

インターネットへの接続

↓ ここでは接続を行いませんので[省略]をクリックします。

ユーザー登録

↓ ここでは登録を行いませんので、「いいえ、今回はユーザー登録しません」を選択します。

コンピュータを使用するユーザーの指定

少なくともユーザー名を1つ入力します。ここで入力するユーザーの名前にはAdministratorと同等の権限(コンピュータの管理者)が与えられます。

インストールの完了

Windows XPが正常にインストールされました。[完了]をクリックするとコンピュータが自動的に再起動します。

2 **Windows XPが再起動すると、Windowsのデスクトップが表示されます。これで「Windows XPセットアップ」は終了です。**

セットアップの際にユーザー名を2つ以上入力した場合は、Windows XPの再起動後に「ようこそ」画面が表示されます。ユーザー名をクリックすると上記の画面が表示されます。

続けてp.44「セットアップ終了後の作業」に移ります。

ユーザー登録とライセンス認証(アクティベーション)について

- セットアップ中にスキップした、ユーザー登録を行う場合は、[スタート]-「ファイル名を指定して実行」-「REGWIZ □/R」(□はスペース)を実行し、ウィザード画面の指示に従ってください。ユーザー登録は、Microsoft社からWindowsに関するサポートを受けるためのものではありません。本機のサポートは弊社で行っています。
- 弊社より提供されたWindows XP(購入時にコンピュータにインストールされているもの、および「リカバリCD」より再インストールを行ったもの)は、ライセンス認証を行う必要はありません。

Windows 2000のセットアップ

Windows 2000インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1　電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows 2000 セットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Windows 2000セットアップウィザードの開始

ライセンス契約

画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。

※「同意しない」を選択すると Windows のセットアップが中止されます。

ソフトウェアの個人用設定

ユーザー情報として名前と組織名を入力します。

※ 名前を入力後 Tab を押すと組織名の欄にポインタが移動します。

コンピュータ名とAdministratorのパスワード

「コンピュータ名」、「Administratorのパスワード」を入力します。

p.37「セットアップ中に入力する項目について」

日付と時刻の設定

「日付と時刻」で現在の日時を設定し、「タイムゾーン」で地域を指定します。

Windows 2000セットアップウィザードの完了

Windowsが正常にインストールされました。[再起動]をクリックするとコンピュータが再起動します。

2 Windows 2000が再起動し、Administratorのパスワードを入力すると、次の画面が表示されます。これで「Windows 2000セットアップ」は終了です。

続けてp.44「セットアップ終了後の作業」に移ります。

セットアップ終了後の作業

Windowsのセットアップが終了したら、次の作業を行います。

バックアップディスクの作成

制限

● バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしてしまうと、バックアップディスクは作成できません。
● バックアップディスクを作成しないと、ドライバやソフトウェアを再インストールすることができません。必ず作成してください。

バックアップディスクの作成は、「バックアップFD作成ユーティリティ」で行います。
「バックアップFD作成ユーティリティ」では、次のようなソフトウェアのバックアップディスクを作成します。

● 添付のディスク類に登録されているデバイスドライバの最新版
● 添付のディスク類に登録されていないデバイスドライバ

バックアップFD作成ユーティリティを起動して、バックアップディスクを作成する必要があるかどうかを確認してください。バックアップディスクの作成が必要な場合は、ユーティリティ画面内に作成が必要なディスクセット名が表示されます。

バックアップFD作成ユーティリティの起動

次の方法で、バックアップFD作成ユーティリティを起動します。

Windows XP　：［スタート］－「すべてのプログラム」－「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。

Windows 2000：［スタート］－「プログラム」－「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。

ディスクセットの確認

バックアップFD作成ユーティリティを起動したら、ユーティリティ画面内の表示を確認してください。

- ディスクセット名とFDの枚数が表示されている
  表示されているディスクセット名とFDの枚数は、バックアップディスクの作成が必要なドライバまたはソフトウェアと、作成に必要なFDの枚数です。表示されているすべてのディスクセットのバックアップディスクを作成します。
  フォーマット済みのFDを必要枚数用意してください。
  p.77「FDのフォーマット」

- なにも表示されていない
  バックアップディスクを作成する必要はありません。

バックアップディスクの作成方法

バックアップディスクの作成方法は、次のとおりです。

1. **ユーティリティ画面内に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、[次へ]をクリックします。**

2. **画面の指示に従ってバックアップディスクを作成します。**

3. **同様にしてユーティリティ画面内に表示されているすべてのディスクセットを作成します。**
   作成したディスクにはディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管してください。
   p.79「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

Norton AntiVirus2003のインストール

「Norton AntiVirus2003」は、コンピュータウィルスを検索し駆除するためのソフトウェアです。購入時には、「Norton AntiVirus2003」がインストールされていません。必ず「Norton AntiVirus2003」のインストールを行ってください。

『Norton AntiVirus2003をご使用の前に』

ネットワークに接続する

ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。お使いのネットワーク機器に添付のマニュアルや、ネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方の指示に従ってください。

p.118「ネットワーク機能を使う」

Power Gearユーティリティのインストール

Power Gearユーティリティをインストールすると、4段階のパフォーマンス（CPU速度とLCD輝度）を切り替えて、本機の処理能力を上げたり下げたりできます。購入時には、Power Gearユーティリティはインストールされていません。必要に応じてインストールしてください。

p.170「Power Gearユーティリティのインストール」

メールユーティリティのインストール

メールユーティリティをインストールすると、「Outlook Express」または「Outlook」を起動している間、未開封メールがあるとメールLED（✉）が点灯します。購入時にはメールユーティリティはインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

p.171「メールユーティリティのインストール」

赤外線通信の設定

赤外線通信機能を使用する場合は、赤外線デバイスの設定をする必要があります。

p.88「赤外線通信を使う」

Windows使用時の確認事項

「セットアップ終了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用の前に次の事項の確認を行ってください。

2回目以降に電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータの電源を入れるときには、次の点に注意してください。

- 電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。
  Windowsが省電力モードに移行すると、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまわないように注意してください。
  p.109「省電力機能を使う」
- 電源を入れ直すときは、20秒程度の間隔を開けてから電源を入れる。
  電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。
- 周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。
  コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

音量の調節

Windows起動時に音が鳴らない、または大きすぎるといった場合には次のように音量を調節します。

- ボリューム調節ダイヤル
  手前側に回すと音量が小さくなります。
  奥に回すと音量が大きくなります。
  真横に押すとミュートになり、ミュートLEDが点灯します。もう一度押すとミュートが解除されます。

- ファンクションキー
  Fn+F10を押すとミュートになり、もう一度押すとミュートが解除されます。
  Fn+F11を押すと音量が小さくなります。
  Fn+F12を押すと音量が大きくなります。

省電力機能

本機では、一定時間タッチパッドやキーボードの操作をしないと、Windowsが省電力モードに移行して画面表示が消えます。この場合、キーボードの操作でもとに戻ります。

p.109「省電力機能を使う」

デバイスドライバをインストールするときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」が要求されることがあります。このような場合は、添付の「リカバリCD Disc1（Windows 2000はリカバリCD）」をセットしてください。

SBSIの実行について（Windows XPのみ）

「SBSI（ステップバイステップインタラクティブ）」を実行すると、Windows XPの使い方の詳細をデスクトップ上で見ることができます。「ステップバイステップインタラクティブ」を実行するには、[スタート]－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「Microsoftインタラクティブトレーニング」－「Microsoftインタラクティブトレーニング」をクリックします。

コントロールパネルの表示（Windows XPのみ）

Windows XPのコントロールパネルの表示には、項目をカテゴリごとにまとめて表示する「カテゴリの表示」形式と、項目をすべて表示する「クラシック表示」形式の2種類があります。

Windows XPで、初めてコントロールパネルを開くと、「カテゴリの表示」形式で表示されます。本書では、コントロールパネルを開いて設定を行う手順を、「カテゴリの表示」形式から行うことを前提に記載しています。

2種類の表示形式は、それぞれの画面の左側にある「クラシック表示に切り替える」、「カテゴリの表示に切り替える」をクリックすることで、切り替えることができます。

電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。

- 電源を切ってから、もう一度入れ直す場合には、HDD などの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。
- HDD のアクセス LED 点灯中に電源を切ると、登録されているデータが破壊されるおそれがあります。
- 本機は電源を切っていても、バッテリパックが装着されていたり、コンセントに接続されていると、コンピュータ内部には微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜き、バッテリパックを取り外してください。

Windows XPの終了と電源の切り方

必ずWindows XPを終了させてから電源を切ります。

1 **[スタート]－「終了オプション」をクリックします。**

2 **「コンピュータの電源を切る」画面で[電源を切る]をクリックします。**

Windows XPが終了し、自動的に電源が切れます。

3 **接続している周辺機器の電源を切ります。**

Windows XP終了時の注意

Windows XPを複数のユーザーが使用している場合に、[終了オプション]－[電源を切る]を選択して電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、画面を切り替えて、ログオンしているすべてのユーザーのログオフを行ってください。

Windows 2000の終了と電源の切り方

必ずWindows 2000を終了させてから電源を切ります。

1. **[スタート]－「シャットダウン」をクリックします。**

2. **「Windowsのシャットダウン」画面で「シャットダウン」を選択し、[OK]をクリックします。**
   Windows 2000が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。

3. **接続している周辺機器の電源を切ります。**

再起動

次のような場合には、コンピュータを再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

ハードウェアを完全に初期化する場合には、コンピュータの電源を切ってください。

Windowsの再起動方法

Windowsの再起動方法は、次のとおりです。

Windows XP　：［スタート］－［終了オプション］－「再起動」をクリック

Windows 2000：［スタート］－「シャットダウン」－「再起動」を選択

ハングアップしたときは

プログラムがハングアップ（キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態）した場合は、Ctrl＋Alt＋Deleteを押して応答のないプログラムを終了してから、コンピュータを再起動します。

 p.178「コンピュータ本体の不具合」

Ctrl＋Alt＋Deleteを押しても反応がない場合は、Windowsを強制終了します。

Windowsの強制終了

Ctrl＋Alt＋Deleteを押しても反応がない場合は、あわてず次のように対処します。

コンピュータの電源スイッチを押す

↓ コンピュータの電源が切れないときは...

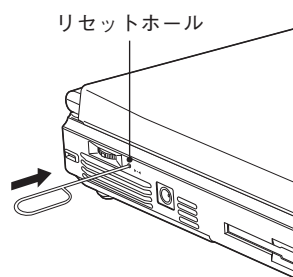
コンピュータの電源スイッチを５秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。

リセットホールを使用してWindowsを強制終了する

本機左側面にあるリセットホールを使用して、Windowsを強制終了することもできます。

リセットホール（⊳o⊲）に丈夫な先の細いもの（ゼムクリップを引きのばしたようなもの）を差し込みます。

リセットホールはプログラムがハングアップして Ctrl + Alt + Delete を押しても反応がない場合に使用してください。

コンピュータの基本操作

キーボードやタッチパッド、CD-ROMドライブの使い方など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

ACアダプタ/バッテリパックを使う

本機はACアダプタまたはバッテリパックを使って使用することができます。

- ACアダプタや、バッテリパックの分解や改造をしないでください。火傷や、化学物質による被害の原因となります。
- バッテリパックの端子をショートさせないでください。火傷の原因となります。
- バッテリパックを火中に入れたり、加熱しないでください。破裂などで火傷の原因となります。
- 小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。
- バッテリパックは指定されている以外の充電方法で充電しないでください。発熱、発火や液漏れによる被害の原因となります。

- 連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは安全のため必ずコンピュータ本体からバッテリパックを抜き、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- AC アダプタやバッテリパックは本機以外には使用しないでください。火傷・火災の危険があります。
- AC アダプタを毛布や布団で覆わないでください。火傷・火災の危険があります。
- 破損したAC アダプタやバッテリパックを使用しないでください。火傷・火災の危険があります。
- ひざの上で長時間使用しないでください。バッテリパックの熱で本体底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。
- バッテリパックは落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。破損すると、火傷や化学物質による被害の原因となります。

- ACアダプタを使用するときも、必ずバッテリパックを装着して本機を使用してください。
- バッテリパックを使用しているときは、電源が入っている状態でACアダプタを抜き差しすることができますが、動作中はなるべくACアダプタを抜かないでください。電源が切れている状態で抜いてください。
- ACアダプタを頻繁に抜き差しすることは避けてください。
- ACアダプタを長時間接続して使用すると、ACアダプタ本体が少し熱を持ちますが、故障ではありません。

ACアダプタの接続方法は、p.34「ハードウェアをセットアップしましょう 手順4」をご覧ください。

バッテリパックを使う

バッテリパック（以降バッテリ）は着脱可能な充電式の電池です。バッテリを使用すれば、電源コンセントのない場所や、停電時にも本機を使用することができます。本機では、リチウムイオン（Li-ion）バッテリを使用します。

使用可能時間

バッテリだけで使用できる時間は次のとおりです。ただし本機の使用環境や状態などによって変化します。

使用可能時間（満充電の場合）	連続約2.5時間*

* JEITA（電子情報技術産業協会）の測定方法Ver1.0に基づいています。

バッテリだけで使用している場合は、使用可能時間が制限されます。省電力モードに移行したりCPUパフォーマンスなどを調整して消費電力を抑えると、使用可能時間を延ばすことができます。

p.109「省電力機能を使う」
p.115「スピードステップ機能（モバイルインテルPentium4プロセッサ-M搭載モデル）」
p.116「Power Gear（パワーギア）機能」

バッテリ使用時の注意

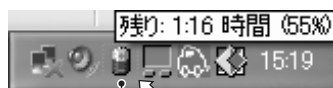
- Windowsが省電力モードに入っている状態で長時間使用しない場合は、完全放電しないように気をつけてください。省電力モードに入っているときも電力が消費されています。
  p.109「省電力機能を使う」
- バッテリは本機の電源を切っていても自然放電によって電力が消費されています。長期間使用していない場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。バッテリだけで本機を使用するときは必ず充電してから使用してください。
- バッテリは温度が10～30℃の環境で使用すると使用時間や寿命を延ばすことができます。10℃以下の場所に放置していたバッテリは性能が低下しています。10～30℃の温度範囲の場所でしばらく慣らしてから使用することをおすすめします。
- バッテリの特性上、残量が正しく表示されず、使用中に急激に残量が減ってしまうことがあります。バッテリが急に終わって困らないようにバッテリ使用後は常に充電をすることをおすすめします。

バッテリ残量の確認

バッテリの特性上、残量が正しく表示されないことがあります。

p.63「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

本機ではバッテリ残量の確認を次の2とおりの方法で行うことができます。

- タスクバーの「バッテリ」アイコンの上にマウスポインタをあわせる。

バッテリアイコン

- プロパティ画面を開いて確認する。

Windows XP　：［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「電源メーター」タブ

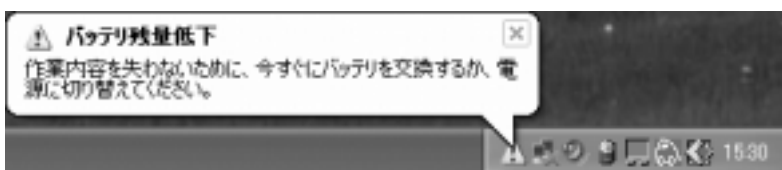
Windows 2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電源オプション」－「電源メーター」タブ

〈Windows XPの場合〉

バッテリ残量が少なくなったら

低バッテリの通知

バッテリ残量が少なくなると、本機は次のように通知（警告）します。直ちに下記の対処を行ってください。完全放電してシャットダウン（電源切断）してしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

バッテリ残量が約10%*になるとバッテリ低下メッセージが表示されます。

〈Windows XPの場合〉

そのまま放置すると、残量約3%*でスタンバイモードに入ります。スタンバイモード中も電力を消費しています。

*この設定は、次ページの「バッテリアラームの設定」で変更することができます。

対処方法

バッテリ残量の低下が通知されたら、直ちに次のいずれかの処置を行ってください。

- **ACアダプタを接続する**

  電源を入れたままACアダプタを接続します。バッテリ充電LED（）が点灯します。

- **電源を切る**

  作業中のデータをHDDやFDに保存して、実行中のソフトウェアを終了させたあと、本機の電源を切ります。

  交換用のバッテリがある場合も、必ず電源を切ってからバッテリを交換してください。

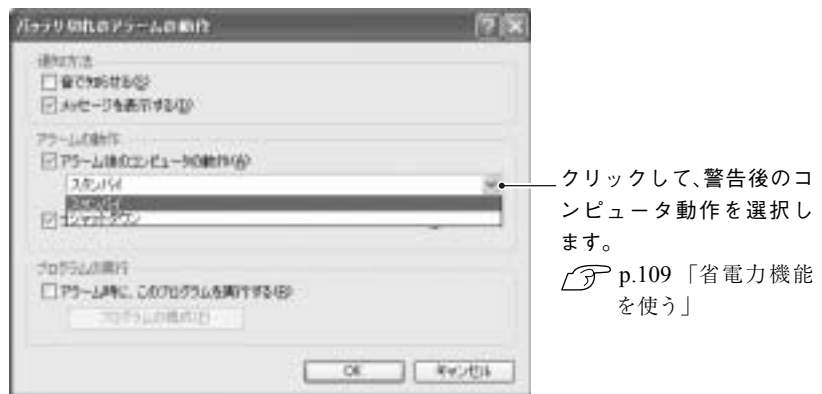
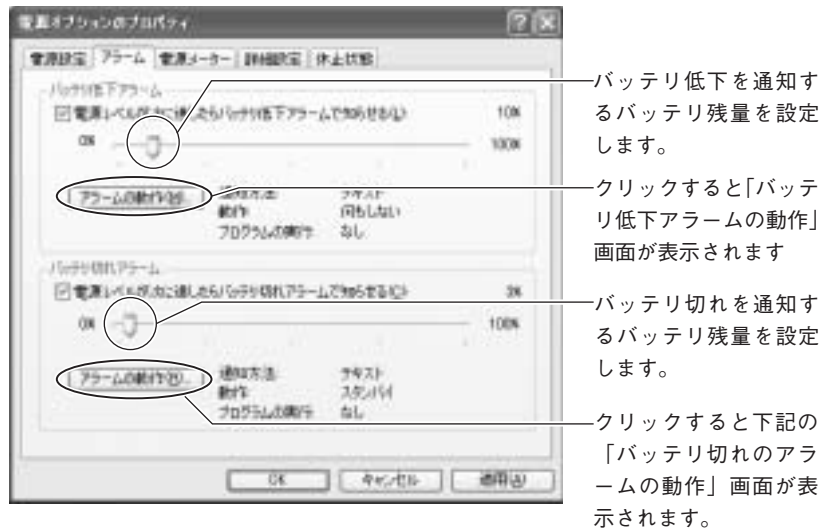
制限

ACアダプタを接続しない場合は、直ちに作業中のデータを保存してください。コンピュータがシャットダウンしてしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

バッテリアラームの設定

バッテリ残量が低下したときの通知方法を次のプロパティ画面から変更できます。

Windows XP　：［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「アラーム」タブ

Windows 2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電源オプション」－「アラーム」タブ

〈Windows XPの場合〉

バッテリの充電

ACアダプタが接続されているときは、本機の電源が入/切どちらの状態でも自動的に充電が行われます。

バッテリ充電LED（ ）の表示は、次のとおりです。

充電状態	LEDの表示
充電中	橙点灯
満充電	消灯

低バッテリ状態からバッテリの充電完了までの時間は、次のとおりです。

コンピュータの動作状態	充電時間
電源切断時	約3時間
電源が入っている状態	約4時間（使用状態により差があります）

バッテリは、化学反応を利用した電池です。このため、温度条件によっては正常な充電ができない場合があります。
温度が10～30℃の環境で充電すると、最も効率のよい充電ができます。

充電後の処理

バッテリが満充電状態になったあと、本機を使用しない場合は安全のためにACアダプタを外しておきます。

バッテリ残量が正しく表示されないときは

バッテリの特性上、充電を繰り返すと、残量が正しく表示されなくなることがあります。
満充電にしてもバッテリ容量がすぐに低下するような場合は、バッテリのリフレッシュを行ってみてください。

バッテリのリフレッシュ

バッテリのリフレッシュは、次の手順で行います。

1 **ACアダプタが接続されていることを確認します。**

2 **コンピュータの電源を入れて、F2を押し、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。**

p.135「BIOS Setupユーティリティの起動」

3 **「Power」メニュー画面－「Start Battery Refreshing」を選択し、Enterを押すと「Battery refresh utility」が起動します。**

4 **画面のメッセージの最終行に「Please wait while the battery is charging･･･」と表示されたら、バッテリの充電が開始されます。**

バッテリを完全に充電するまで、最大で約4時間かかります。
途中で中止したい場合は、電源スイッチを押してコンピュータの電源を切ります。

5 **画面のメッセージの最終行に「Please remove AC adapter and wait the machine shutdown!」と表示されたら、ACアダプタを抜いてそのまま放置します。**

バッテリを完全に放電するまで、約2.5時間かかります。

6 **バッテリの放電が完了すると、自動的に電源が切れます。**

これでバッテリ残量のリフレッシュは終了です。
バッテリの充電をする場合は、ACアダプタを接続してください。

バッテリの寿命

バッテリは、消耗品です。バッテリのリフレッシュを行っても、バッテリ容量がすぐに低下する場合は、バッテリの寿命が考えられます。新しいバッテリに交換してください。

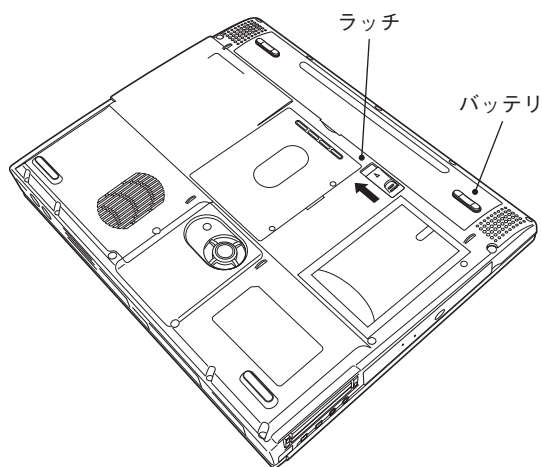
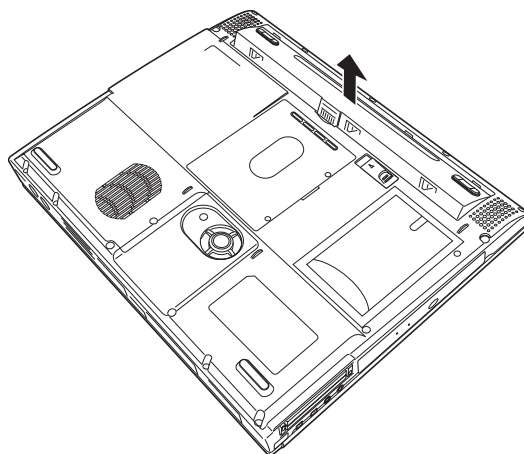
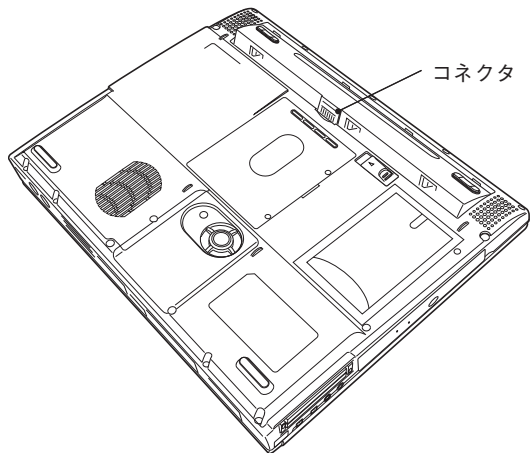
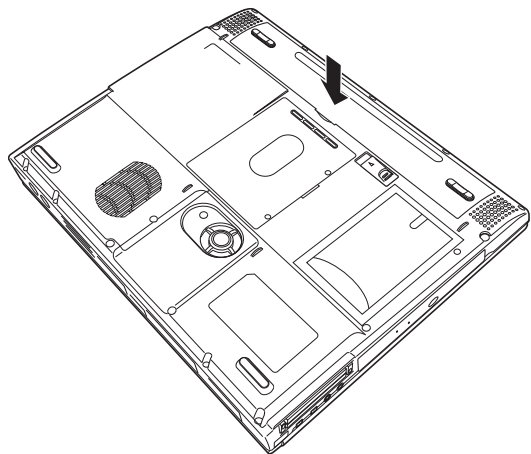
バッテリの交換

複数のバッテリを交換して長時間使用する場合や、バッテリが寿命に達した場合は、バッテリを交換します。

バッテリの交換は次の手順で行います。

1. **本機の電源を切ります。ACアダプタが接続されている場合は外します。**

2. **本機の底面部を上にして置きます。**

3. **ラッチを矢印の方向にスライドさせます。**

4. **バッテリが本機から浮き上がったら、バッテリを取り外します。**

5 新しいバッテリを下図のとおり本機に合わせます。

6 バッテリを「カチッ」と音がするまで押し込みます。バッテリが固定されます。

バッテリ保管上の注意

- 小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。

バッテリを保管するときは、バッテリの端子部が金属類に触れないように布などの絶縁物に包み、高温・多湿の場所をさけてください。保管したバッテリは、自然放電していることがあります。次回使用するときは、必ず充電してから使用してください。
コンピュータを保管するときは、必ずコンピュータ本体からバッテリを取り外してください。取り付けたままで長期間放置すると、バッテリが液もれしたり、バッテリと本体の接点が腐食することがあります。

使用済みバッテリの取り扱い

使用済みのリチウムイオン(Li-ion)バッテリは、再利用可能な貴重な資源です。有効資源のリサイクルにご協力ください。

バッテリリサイクル時の注意

使用済みのバッテリは、バッテリがショートしないように、端子部にテープを貼るかポリ袋などに入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収ボックスに入れてください。
不要なバッテリは、燃やしたり埋めたり一般ゴミに混ぜて捨てたりしないでください。環境破壊の原因となります。

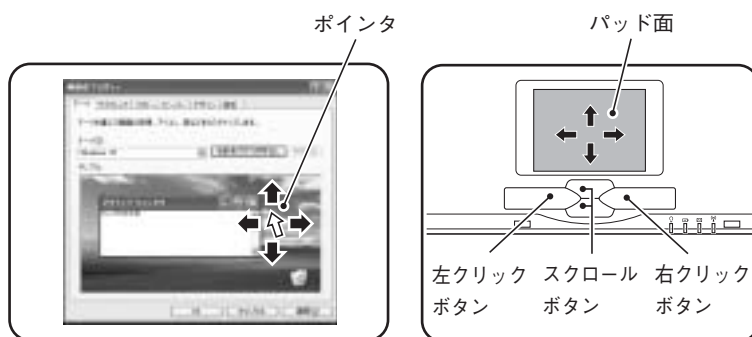
タッチパッドを使う

本機には、マウスと同じ働きをするタッチパッドが装備されています。

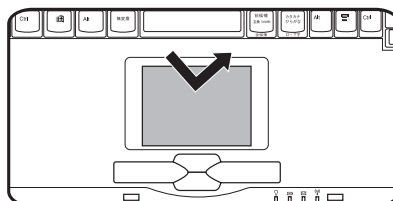
タッチパッドの操作

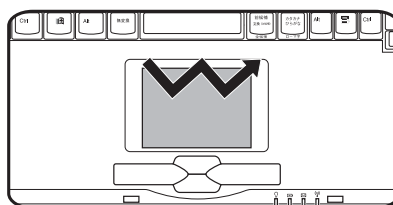
タッチパッドは、パッド面とクリックボタン、スクロールボタンから構成されています。
パッド面は、ポインタを移動させる働きのほかに、左クリックボタンの働きもします。ボタンを押す代わりにパッド面を軽くたたくことにより左ボタンに割り当てられた処理を行うことができます。

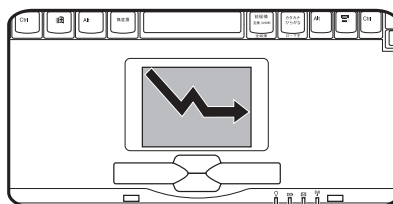
ポインタの移動

人差し指をパッド面の上で前後左右に動かすと、動かした方向に画面上のポインタが移動します。

- パッド面には指で触れてください。ペンなどで触れると、ポインタの操作ができないだけでなく、パッド面が破損するおそれがあります。
- パッド面は、1本の指で操作してください。一度に2本以上の指で操作すると、ポインタが正常に動作しません。
- 手がぬれていたり、汗ばんでいると、ポインタの操作が正しくできないことがあります。
- キーボードを操作しているときにパッド面に手が触れると、ポインタが移動してしまうことがあります。
- 起動時の温度や湿度により、正常に動作しない場合があります。この場合は電源を一度切って入れ直すことにより正常に動作することがあります。
- 電源を入れたままLCDユニットを閉じていたり、使用中に本機の温度が上がってくると、正常に動作しない場合があります。この場合は、電源を一度切って入れ直すことにより正常に動作することがあります。

クリック

クリックは、機能や項目を選択するときによく使われる方法です。
ポインタを画面上の対象に合わせて、パッド面を軽く1回たたきます。
左クリックボタンを「カチッ」と押すのと同じ操作です。

ダブルクリック

ダブルクリックは、プログラムを起動するときによく使われる方法です。
ポインタを画面上の対象に合わせて、パッド面を軽く2回たたきます。
左クリックボタンを「カチカチッ」と2回押すのと同じ操作です。

ドラッグアンドドロップ

ドラッグアンドドロップは、アイコンを移動したり、ウィンドウの位置や大きさを変えるときなどによく使われる方法です。
ポインタを画面上の対象に合わせて、ダブルクリックの2回目のクリック時に、指をパッド面に触れたまま移動させます。
左クリックボタンを押したままの状態でポインタを移動し、離すのと同じ操作です。

スクロール

スクロールバーのある画面を操作しているときに、上下のスクロールボタンを押すと、それぞれの方向にスクロールします。

タッチパッドユーティリティを使う

タッチパッドユーティリティで各種設定を行うとタッチパッドがより操作しやすくなります。

タッチパッドユーティリティの各種設定は次の場所から実行します。

Windows XP　：［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「マウス」

Windows 2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「マウス」

「マウスのプロパティ」画面の「デバイス設定」タブをクリックして［設定］ボタンをクリックすると次の画面が表示されます。

〈Windows XPの場合〉

マウスの接続

PS/2マウス

本機背面のキーボード/マウスコネクタ（ / ）にPS/2マウスを接続できます。PS/2マウスを接続するときは、本機の電源が切れている状態で行ってください。詳しい使用方法はPS/2マウスに添付のマニュアルをご覧ください。

本機にPS/2マウスを接続して使用する場合は、タッチパッド機能を無効にすることをおすすめします。タッチパッド機能を無効にするにはBIOS Setupユーティリティを起動後、「Advanced」メニューの「Internal Touchpad」を「Disabled」に変更します。

p.136「BIOS Setupユーティリティの操作」

USBマウス

本機背面のUSBコネクタ（ ）にUSBマウスを接続できます。USBマウスを接続するときは、本機の電源が入っている状態でも行うことができます。
詳しい使用方法はUSBマウスに添付のマニュアルをご覧ください。

キーボードを使う

本機のキーボードは、日本語対応90キーボードです。また、4個のインスタントキーも搭載しています。

キーの種類と役割

入力キー

90個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。

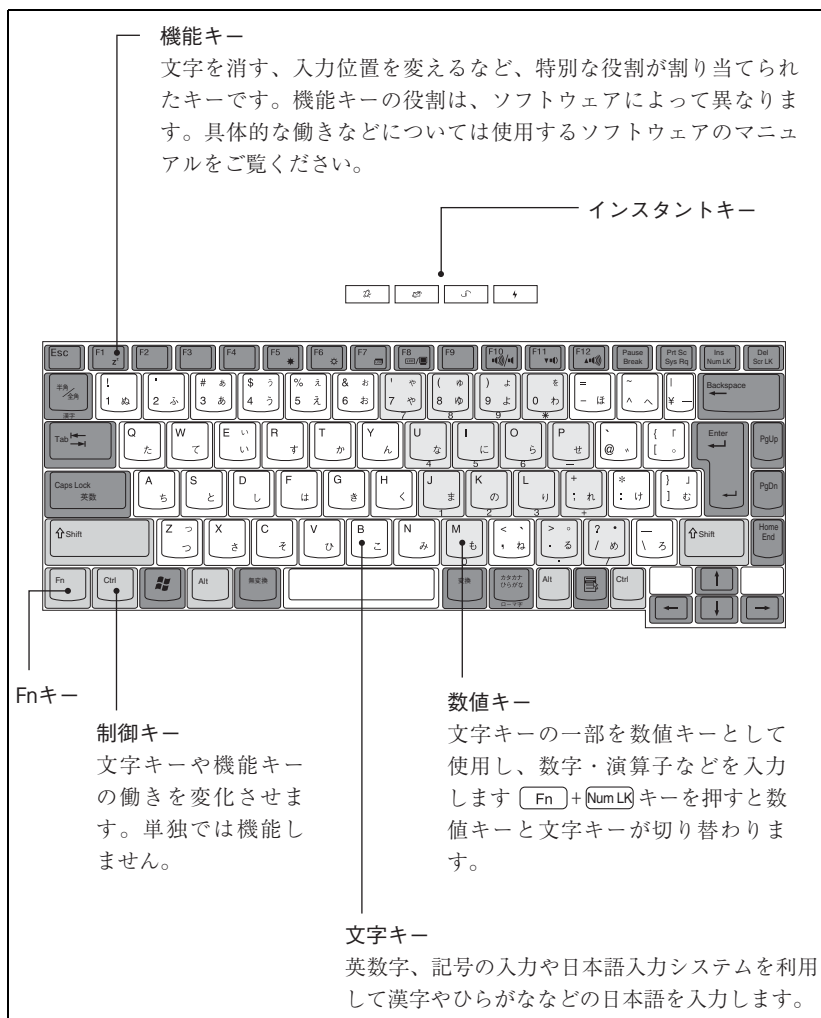
機能キー
文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割は、ソフトウェアによって異なります。具体的な働きなどについては使用するソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

インスタントキー

Fnキー

制御キー
文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

数値キー
文字キーの一部を数値キーとして使用し、数字・演算子などを入力します Fn + Num LK キーを押すと数値キーと文字キーが切り替わります。

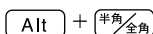
文字キー
英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して漢字やひらがななどの日本語を入力します。

文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ(キーの上面)に印字された文字が入力されます。入力モードによって入力される文字が異なります。

- **直接入力モード**：キートップのアルファベットをそのまま入力します。
- **日本語入力モード**
  - **ローマ字入力**：キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
  - **かな入力**：キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やひらがなに変換します。

入力モードの切り替え

直接入力モードと日本語入力モードの切り替えは、次のキー操作で行います。

Alt ＋ 半角/全角

日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は、日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行います。

<Windows XPの場合>

<Windows 2000の場合>

① **入力モード**
入力モード(ひらがな、カタカナ、英数字など)を選択します。

② **ヘルプ**
日本語入力の方法が詳しく説明されているので参照してください。

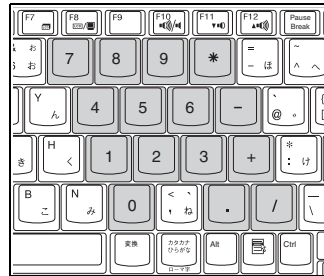
③ **かなキーロック**
日本語入力モードの切り替えを行います。
ボタンが押されていない状態：ローマ字入力
ボタンが押されている状態　：かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

数値やアルファベットの入力

数値キー入力モード

Fn + Num LK を押すと、NumLock LED が点灯して、文字キーの一部が数値キーとして使用できます。

数値キーモード

アルファベット入力モード

Shift + Caps Lock を押すと、CapsLock LED が点灯して、アルファベットが大文字で入力できます。この状態で小文字で入力するには Shift を押しながら入力します。

コンピュータの基本操作

Fnキーと組み合わせて使うキー

キートップに青色で印字されている機能キーは Fn キーと組み合わせて実行します。

キーの組み合わせ	機　能
Fn + F1	省電力モードに移行します。購入時の状態では、スタンバイモードに移行します。 p.112「実行方法」
Fn + F5	LCD画面を暗くします。 p.91「明るさの調整」
Fn + F6	LCD画面を明るくします。 p.91「明るさの調整」
Fn + F7	LCD画面のバックライトのON/OFFを切り替えます。 p.92「バックライトの消灯」
Fn + F8	表示装置を切り替えます。キーを押すたびにLCD、CRT、TVまたはそれらの組み合わせで表示装置が切り替わります。 p.94「ドライバーモードの切り替え方法」
Fn + F10	スピーカのミュートのON/OFFを切り替えます。 p.104「音量の調節」
Fn + F11	スピーカ音声のボリュームを小さくします。 p.104「音量の調節」
Fn + F12	スピーカ音声のボリュームを大きくします。 p.104「音量の調節」
Fn + Num LK	数値キー入力モードに切り替えます。 p.73「数値キー入力モード」
Fn + Scr Lk	ソフトウェアによって機能が異なります。詳しい内容は、ご使用のソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
Fn + End	行の最後に移動します。

Windowsキー

Windowsキー、アプリケーションキーを使うことにより、Windowsをより効率的に使用することができます。

キー名	機　能
(Windowsキー)	画面左下の[スタート]をクリックするのと同じ働きをします。
(アプリケーションキー)	マウスの右クリックと同じ働きをします。ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。

インスタントキー

本機には、4個のインスタントキーが搭載されています。インスタントキーには、Internet Explorerを起動するなどの機能が割り付けられています。インスタントキーを押すとキーに割り当てられた機能を実行します。

各インスタントキーの機能は、次のとおりです。

インスタントキー	機　能
アプリケーションキー	「マイドキュメント」を開きます。
インターネットキー	Internet Explorerを起動します。
メールキー	Outlook Expressを起動します。
Power Gearキー	4段階のモードに設定されたパフォーマンス(処理速度)を切り替えて、消費電力を低減します。 p.116「Power Gear(パワーギア)機能」

これらのキーに割り当てられた機能を変更することはできません。

外付けキーボードの接続

本機背面のキーボード/マウスコネクタ(/)に、PS/2互換のキーボードを接続することができます。接続は、電源が切れている状態で行ってください。

FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う

本機の左側面には、FDDが内蔵されています。

FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。本機のFDDでは次のFDを使用できます。

- 3.5型2HD　:1. 44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。
- 3.5型2DD　:720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。

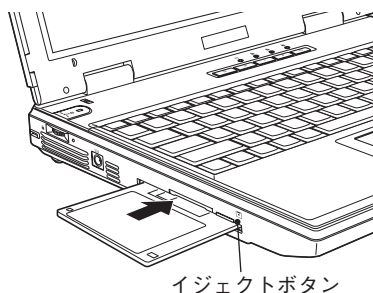
FDは消耗品です。読み書きを繰り返すと、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

FDのセットと取り出し

- FDにアクセス中にFDを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動しないでください。データが破壊されるおそれがあります。
- FDDにFDをセットしたまま本機を使用し続けると、FDが高温になりますが故障ではありません。FDを使用しないときは、FDDから取り出し、専用のケースに入れて保管してください。
- 本機の電源を切る場合や再起動する場合は、必ず FD を取り出してください。

セット方法

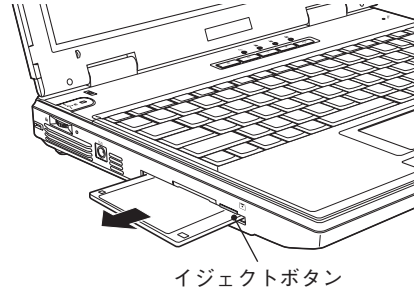
1 **ラベル面を上にして、アクセスカバー側からFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。**

2 **正しくセットされると、イジェクトボタンが飛び出します。**

FDDにFDをセットしたまま、本機を持ち運ばないでください。

p.79「コンピュータ持ち運び時の注意」

取り出し方法

1 FDにアクセスしていない状態で、イジェクトボタンを押します。

2 FDが押し出されたら、静かに引き抜きます。

FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合や、登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。メディアの種類にあったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。

- FDをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。
- Windows XPでは720KBのFDをフォーマットできません。

フォーマット方法

Windowsのフォーマットユーティリティを使ったFDのフォーマットは、次の方法で行います。

> Windows 2000ではWindowsのフォーマットユーティリティを起動したまま、未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットする場合は、FDを入れかえて下記手順3〜6を繰り返してください。

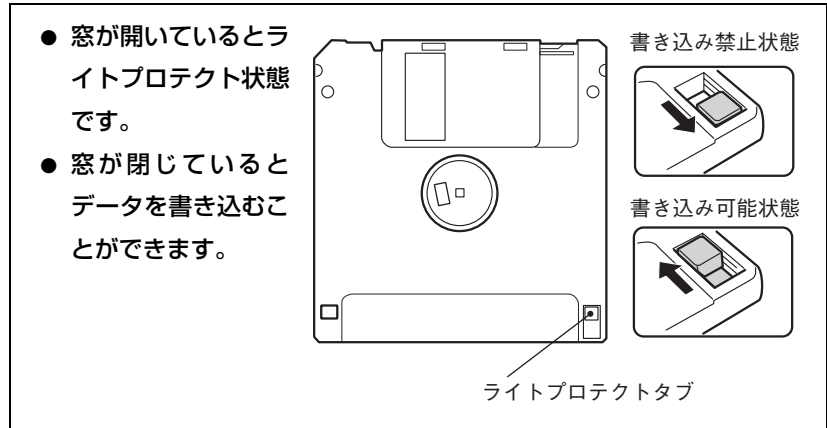
1. **FDDにFDをセットします。**
2. **[スタート]−「マイコンピュータ」をダブルクリックします。(Windows 2000では、「マイコンピュータ」をダブルクリックします。)**
3. **「3.5インチFD」を右クリックし「フォーマット」をクリックします。**
4. **フォーマットの種類などを設定して[開始]をクリックします。「警告」が表示された場合は[OK]をクリックします。**
5. **「フォーマットが完了しました」と表示されたら、[OK]をクリックします。**

   続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順4〜5をくり返します。
6. **[閉じる]をクリックし、フォーマットユーティリティを閉じます。**

データのバックアップ

大切なデータは別のFDに登録して予備を作成(バックアップ)しておきます。万一データを消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複写して使用できるので安心です。

ライトプロテクト(書き込み禁止)

ライトプロテクトは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDには、データの書き込み、削除、フォーマットができません。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておくと安心です。

コンピュータ持ち運び時の注意

本機を持ち運ぶときはFDを取り出してください。
FDがFDDにセットされているときは、イジェクトボタンが本体よりも突き出ています。この状態のまま、本機をバッグなどに入れて持ち運ぶと、イジェクトボタンに無理な力がかかり、破損するおそれがあります。

HDD(ハードディスクドライブ)を使う

HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。

- 誤った操作で重要なデータを破壊しないように次の点に注意してください。
  - ・HDDを分解しないでください。
  - ・HDD のアクセス LED 点灯中に、本機の電源を切ったり、再起動しないでください。アクセスLED点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破壊されるおそれがあります。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えると HDD が破壊されるおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。また、持ち運ぶときは専用バッグに入れるなどして、ショックから守るようにしてください。

データのバックアップ

HDDの重要なデータは、別のメディアに予備を作成(バックアップ)しておきます。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。バックアップには、次のような方法があります。

- 重要なファイルを作成したら、必ずFDなど別のメディアにも登録しておく。
- 専用のバックアップソフトウェアを使用して複数のファイルを一度にバックアップする。

購入時のHDD領域について

購入時には、HDDのすべての容量を1つの領域として確保し、NTFSでフォーマットしています。

HDD領域の構成を変更したい場合は、Windowsの再インストールが必要です。

p.149「ソフトウェアの 再インストール」

CD-ROMドライブを使う

本機の右側面にはCD-ROMドライブが内蔵されています。CD-ROMドライブはデータの入ったデータCDのほかに音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどを使用するための装置です。これらのCD-ROMの中には別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

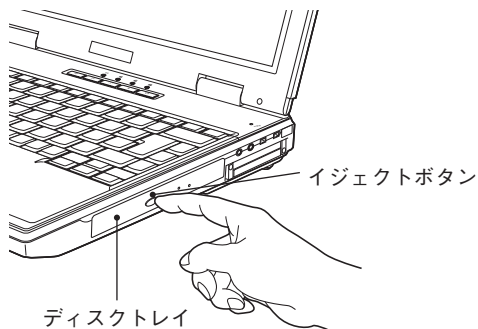
- 本機に装着されているCD-ROMドライブは、メディアの認識に時間がかかることがありますが、故障ではありません。
- メディアの種類によっては、再生中に振動することがありますが、故障ではありません。

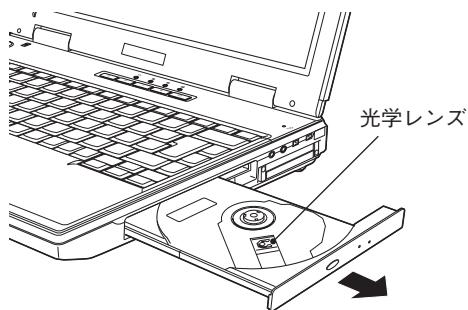
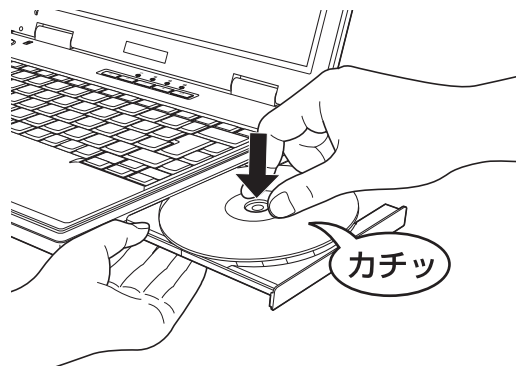
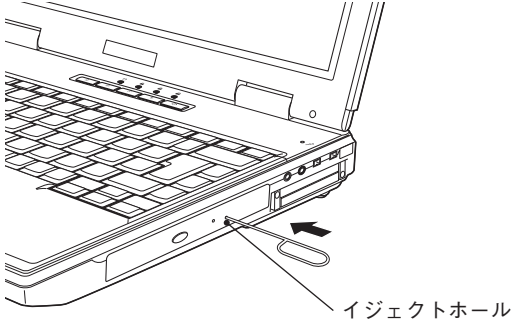
本機にはCD-ROMドライブの代わりに、CD-R/RWドライブまたはコンボドライブが装着されているモデルがあります。メディアのセットや取り出しなどの基本的な操作方法はCD-ROMドライブと同じです。各ドライブの詳しい使用方法はPDFマニュアルをご覧ください。PDFマニュアルは、デスクトップ上に登録されています。

CD-ROMのセットと取り出し

- CD-ROMドライブアクセス中（CD-ROMアクセスランプ点滅・点灯中）にメディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動しないでください。
- ディスクトレイ上の光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。メディアのデータが読めなくなります。
- 必要な場合以外は、ディスクトレイは閉じておいてください。

セット方法

1 **CD-ROMアクセスランプが点滅していないことを確認して、イジェクトボタンを押します。ディスクトレイが少し飛び出します。**

2 **ディスクトレイを静かに引き出します。**

光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。メディアのデータが読めなくなります。

3 **印刷面を上にしてメディアをディスクトレイに載せ、カチッと音がするまではめ込みます。**

4 **ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。**

取り出し方法

1 CD-ROMアクセスランプが点滅していないことを確認して、イジェクトボタンを押します。ディスクトレイが少し飛び出します。

2 ディスクトレイを静かに引き出し、メディアをディスクトレイから取り出します。

3 ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。

強制的なメディアの取り出し

次のような場合には、強制的にCD-ROMを取り出すことができます。

- CD-ROMドライブが故障して、CD-ROMが取り出せない場合
- CD-ROMをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合

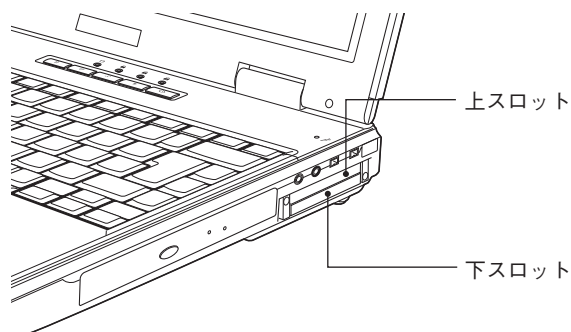
1 本機の電源が入っている場合は、電源を切ります。

p.50「電源の切り方」

2 イジェクトホールに、先が細く丈夫なもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。

3 ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐ引き出し、メディアをディスクトレイから取り出します。

PCカードを使う

本機の右側面には、PCカードスロットが、2スロット装備されています。本機では、PC Card Standardに準拠したTypeIIおよびIIIのPCカードを装着することができます。同時に装着可能なPCカードは、TypeII×2枚またはTypeIII×1枚です。各スロットの仕様は次のとおりです。

スロット	装着可能なサイズ	仕様
上スロット	TypeII	CardBus対応
下スロット	TypeIIまたはTypeIII	CardBus対応

- PCカードによっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。
- FAXモデムカードや、ネットワークカードなどは、使用途中に、電源の供給が停止されると、不具合が発生する可能性があります。これらのカードを使用するときは、省電力モードを無効にしてください。

  p.109「省電力機能を使う」
- PCカードスロットにFAXモデムカードを取り付けて使用する場合には、回線の呼び出し音が鳴らないFAXモデムカードもあります。これは、CardBusの仕様によるもので故障ではありません。
- PCカードの形状によっては、TypeIIでも2枚同時に装着できない場合があります。

PCカードのセットと取り外し

●PCカードを取り扱うときは、あらかじめ金属製のものに触れて、静電気を逃がしてください。PCカードやコネクタ部に静電気が流れると、故障することがあります。

●PCカードは、電源を切らずに抜き差しすることができます。ただし、省電力モード時はPCカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。

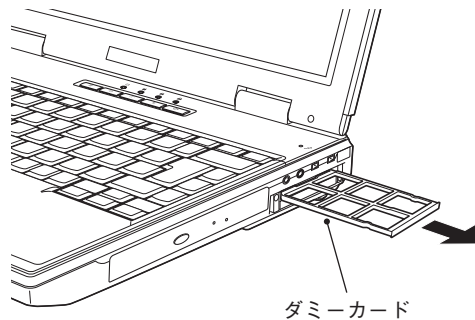
コンピュータの基本操作

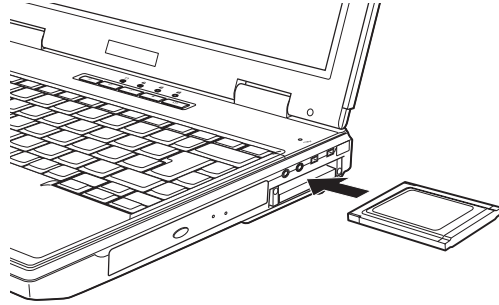
PCカードのセット

PCカードは、次の手順でセットします。

1 **使用するPCカードが、どのスロットで使用可能か確認します。**

2 **使用するスロットにダミーカードがセットされている場合は、****p.87「PCカードの取り外し」****の手順2〜3を参照してダミーカードを取り外します。**

ダミーカードはPCカードを使用しないときに、スロットにセットしておきます。

3 PCカードをPCカードスロットに挿入します。

PCカードの表面を上にして、奥までしっかりと押し込みます。

4 コンピュータの電源が切れている場合は、電源を入れます。

5 認識されるとPCカードが使用できます。

正しくPCカードがセットされると認識音が鳴り、タスクバーに「PCカード」アイコンが表示されます。

＜Windows XP＞

＜Windows 2000＞

PCカードによっては「新しいハードウェアの追加ウィザード」または「デバイスドライバウィザード」が起動します。メッセージに従ってデバイスドライバを選択、またはインストールしてください。インストール中に「Windows CD-ROM」を要求された場合は、添付の「リカバリCD Disc1（Windows 2000はリカバリCD）」をセットしてください。

PCカードの内容の確認

タスクバーにある「PCカード」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェアの（安全な）取り外し」画面で［プロパティ］をクリックすると、PCカードの内容を確認することができます。

PCカードの取り外し

PCカードは、次の手順で取り外します。

本機にセットされていたPCカードは、高温になっている可能性があります。火傷に注意して取り外してください。

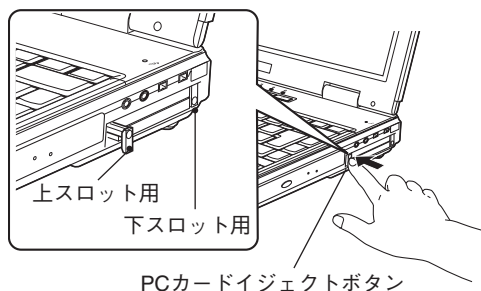
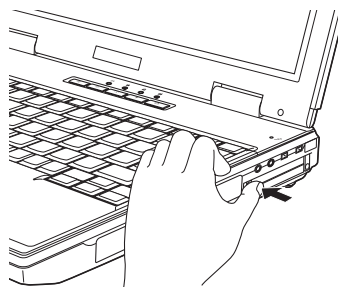
1 **「PCカードの終了処理」を行うか、またはコンピュータの電源を切ります。**

PCカードの終了処理

❶ タスクバーの「PCカード」アイコンをダブルクリックします。

❷ 取り外すPCカードを選択して[停止]をクリックします。

❸ 画面の指示にしたがいます。「安全に取り外すことができます。」と表示されたら、PCカードの終了処理は完了です。

2 **取り外すPCカードスロットイジェクトボタンを押すと、イジェクトボタンが出ます。**

3 **再びPCカードイジェクトボタンを押します。**

4 **PCカードが出てきたら、まっすぐに引き抜きます。**

取り外したPCカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。PCカードをセットしない場合はダミーカードをセットしておきます。

赤外線通信を使う

本機の右側面には赤外線通信ポートが装備されています。本機の赤外線通信ポートと赤外線通信機能を持つ機器の間で、データのやり取りができます。赤外線通信はケーブルの接続をせずに、簡単にデータの通信を行うことができます。
赤外線通信を行うためには、通信用のソフトウェアが必要です。また通信を行うコンピュータ同士では、お互いに同じソフトウェアを使用する必要があります。本機では、Windows標準の「ワイヤレスリンク」を使用します。

本機の赤外線通信機能は、次の仕様に対応しています。

仕様(通信モード)	特　長
FIR (Fast InfraRed)	通信速度4Mbps
SIR (Serial InfraRed)	通信速度115.2Kbps

本機は、通常FIRモードで通信を行います。通信を行う相手の機器がSIRモードのときは、本機の通信モードもSIRモードに自動で切り替わります。

赤外線デバイスの設定

本機で赤外線通信を行うためには、赤外線デバイスの設定が必要です。購入時には設定されていませんので設定を行ってください。

Windows XPの場合

Windows XPの赤外線デバイスの設定は、次の手順で行います。

1 [スタート]－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「システム」をクリックします。

2 「ハードウェア」タブ－[デバイスマネージャ]をクリックします。

3 「赤外線デバイス」－「IrDA高速赤外線ポート」をダブルクリックします。

4 「詳細設定」タブをクリックします。

5 「プロパティ」欄より「赤外線トランシーバA」を選択し、「値」から「HP HSDL-2300/3600」を選択して[OK]をクリックします。

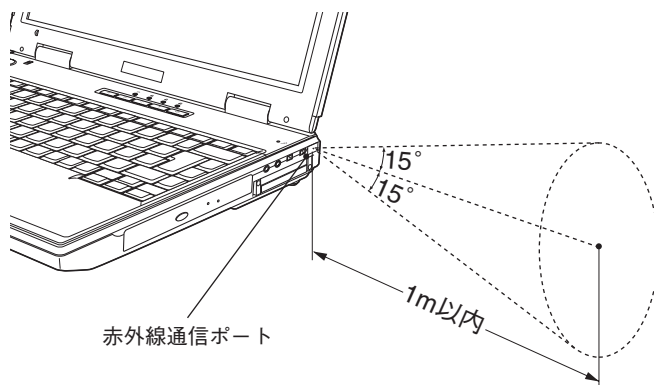
Windows 2000の場合

Windows 2000の赤外線デバイスの設定は、次の手順で行います。

1. [スタート]ー「設定」ー「コントロールパネル」ー「システム」をダブルクリックします。
2. 「ハードウェア」タブー[デバイスマネージャ]をクリックします。
3. 「赤外線デバイス」ー「IrDA高速赤外線ポート」をダブルクリックします。
4. 「詳細設定」タブをクリックします。
5. 「プロパティ」欄より「赤外線トランシーバA」を選択し、「値」から「HP HSDL-2300/3600」を選択して[OK]をクリックします。

赤外線通信の実行

通信可能範囲

赤外線通信を行うときは、お互いの赤外線通信ポートが真正面に向い合うように設置して、通信してください。2つの赤外線通信ポートの位置は1m以内で、角度は垂直水平共に15度以内に設置します。

通信時の注意

- 赤外線通信機器の間に障害物を置かないでください。
- 赤外線通信中は、赤外線通信機器を動かさないでください。通信が切断されることがあります。
- 直射日光や蛍光灯などの強い光が赤外線通信ポートに当たらないようにしてください。誤動作をすることがあります。
- オーディオ機器のリモコンやワイヤレスヘッドホンなどを赤外線通信ポートに向けないでください。誤動作をすることがあります。

赤外線通信の実行

Windowsの「ワイヤレスリンク」を使った赤外線通信は、次の手順で行います。

1 **2台の赤外線通信ポートを通信可能範囲に設置します。**

p.89「通信可能範囲」

2 **赤外線ポートを検出すると、デスクトップに「ワイヤレスリンク」アイコンが表示されます。(Windows XPの場合はタスクバーに表示されます。)**

3 **送信側の「ワイヤレスリンク」をダブルクリックします。**

4 **送信するファイルを指定して[送信]をクリックします。**

5 **受信側に、「このファイルを受信しますか?」と表示されたら[はい]をクリックします。**

6 **「・・・正常にファイルを受信しました。」と表示されたら[閉じる]クリックします。**

受信されたファイルは、デスクトップ上に保存されます。

表示装置を使う

本章では、使用可能な表示装置とその切り替え方法について説明します。
本機で使用可能な表示装置は次のとおりです。

- LCDユニット（本体）
- 外付けディスプレイ（アナログタイプのみ）
- テレビ（S端子が搭載されていないテレビでは表示できません。）

LCDユニット

本機には次のいずれかのLCD（液晶ディスプレイ）を搭載しています。

・14.1型　XGA　最大解像度　1024×768ドット
・15型　XGA　最大解像度　1024×768ドット

LCDの表示中に、次の現象が起きることがあります。これは、カラーLCDの特性で起きるもので、故障ではありません。

- 液晶ディスプレイは、高精度な技術を駆使して230万以上の画素から作られていますが、画面の一部に常時点灯あるいは常時消灯する画素が存在することがあります。
- 色の境界線上に筋のようなものが現れることがあります。
- Windows の背景の模様や色、壁紙などによってちらついてみえることがあります。この現象は、背景の模様が市松模様や横縞模様といった特殊なパターンで、背景の色が中間色の場合に発生しやすくなります。

明るさの調整

画面の明るさの調整は次のキーで行います。

キー操作	状態
Fn + F6 ☼	明るくなる
Fn + F5 ✹	暗くなる

バックライトの消灯

本機を使用していない間、バックライトを消灯することで消費電力を抑えることができます。バックライトの消灯は次の方法で行います。

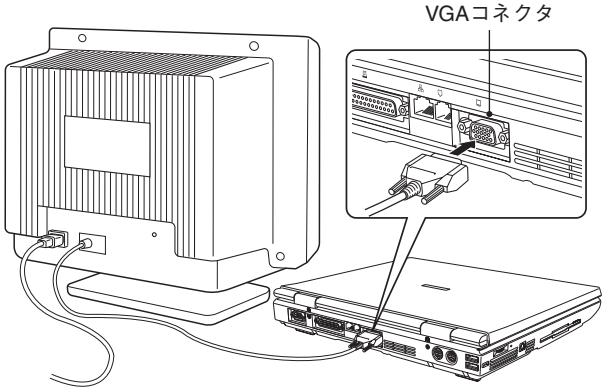
● Fn ＋ F7 を押す ：もう一度押すとバックライトが点灯します。

● LCDユニットを閉じる ：再び LCD ユニットを開くとバックライトが点灯します。本機ではLCDユニットを閉じたときの動作を設定できます。

LCDユニットを閉じたときの動作

LCDユニットを閉じたときにスタンバイモードや休止状態に移るなどの動作を設定できます。初期値は「何もしない（なし）」（バックライトを消す）です。設定は次のプロパティ画面から行います。

Windows XP ：［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「詳細設定」タブ

Windows 2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電源オプション」－「詳細」タブ

〈Windows XPの場合〉

外付けディスプレイ

ディスプレイの接続

本機では、外付けディスプレイ（アナログタイプのみ）を接続して使用できます。ディスプレイの接続は、次の手順で行います。

1. **本機と外付けディスプレイの電源を切ります。**
2. **外付けデイスプレイの接続コードを本機背面のVGAコネクタ（ ）に接続します。**

3. **外付けディスプレイと本機の電源を入れます。**

参考

ビデオプロジェクタの接続

ビデオプロジェクタは本機のVGAコネクタに接続して表示することができます。

外付けディスプレイに表示するには

本機では、外付けディスプレイが接続されているときに、次のようなドライバーモードで表示することができます。

● シングルモード
LCD画面と外付けディスプレイのどちらか一方に表示します。

● ミラーモード
LCD画面と外付けディスプレイに同じ画面を表示します。

● マルチモニターモード(Windows XPのみ)
大きな一つの画面をLCD画面と外付けディスプレイで分割して仮想的に並べた表示ができます。2つのアプリケーションを別々の画面で表示したりすることができます。

ドライバーモードの切り替え方法

ドライバモードの切り替えは、次の2とおりの方法があります。

● キーボードで操作する
Fn + F8(LCD/■)を押すたびに表示装置が切り替わります。表示は次の組み合わせで行うことができますが、接続している表示装置を自動的に認識するため、接続していない表示装置には切り替わりません。

表示装置の組み合わせ

・LCD Only(LCDのみに表示)
・CRT Only(外付けディスプレイのみに表示)
・CRT + LCD(外付けディスプレイとLCDに表示)
・TV Only(テレビのみに表示)
・CRT + TV(外付けディスプレイとテレビに表示)

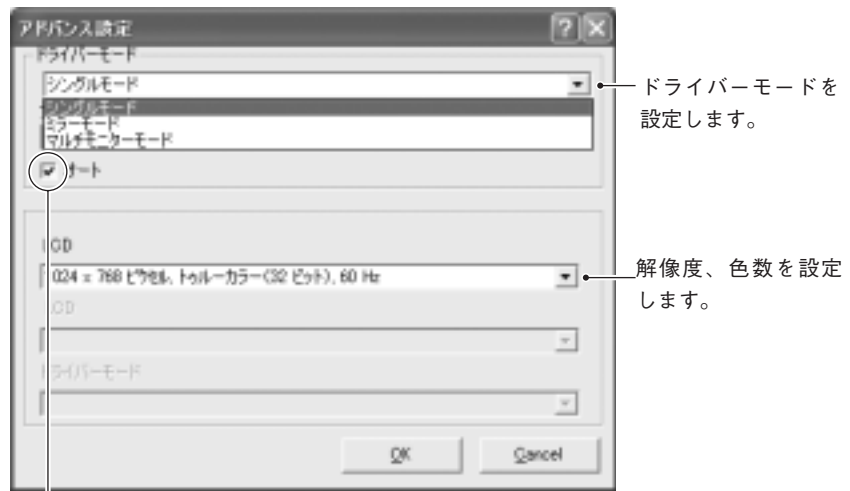
マルチモニターモード(Windows XPのみ)への切り替えはキーボード操作では行えません。

p.96「マルチモニターモード(Windows XPのみ)」

● 画面で操作する

ドライバーモードの選択と設定は「アドバンス設定」画面で行います。「アドバンス設定」画面は、次の手順で表示します。

Windows XP　：［スタート］－「コントロールパネル」－「デスクトップの表示とテーマ」－「画面」－「設定」タブ－［詳細設定］－「ユーティリティマネージャ」タブ－［ドライバモードの設定］

Windows 2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「画面」－「設定」タブ－［詳細］－「ユーティリティマネージャ」タブ－［ドライバモードの設定］

〈Windows XPの場合〉

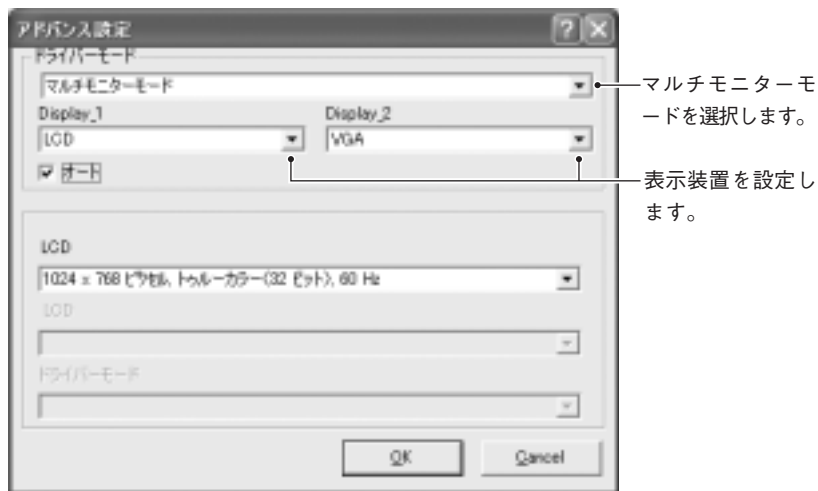
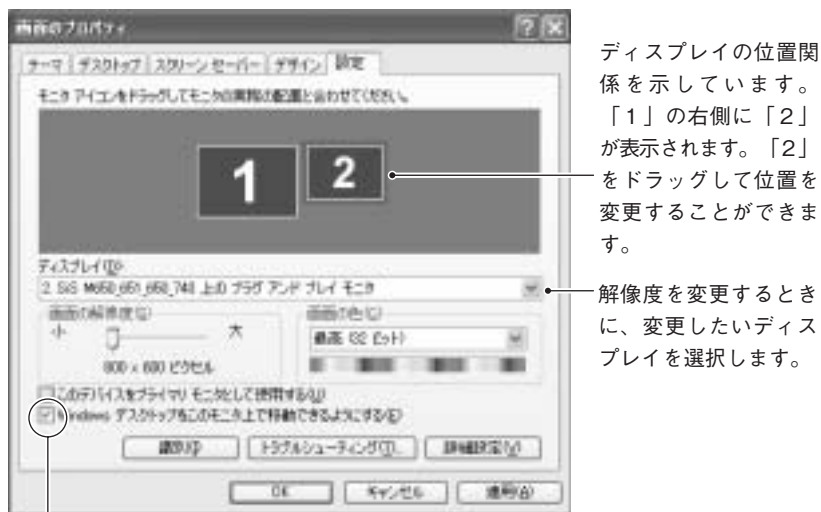
チェックが付いていると、接続状態を自動的に認識します。外付けディスプレイが接続されていない場合は、「シングルモード」のみの表示となります。
このチェックは外さないでください。

セーフモードでの起動

接続しているディスプレイと異なったディスプレイを選択すると、解像度によってはWindowsの画面が正常に表示されないことがあります。このようなときには、セーフモードでコンピュータを起動して、正しく設定し直してください。

p.185「LCDユニットの不具合」

マルチモニターモード（Windows XPのみ）

マルチモニターモードで表示する場合には、「アドバンス設定」画面で「マルチモニターモード」を選択します。画面の指示に従ってWindowsを再起動します。

Windowsを再起動したあと、「画面のプロパティ」－「設定」タブを開きます。「2」を選択すると、次の画面が表示されます。

チェックマークが付いているとマルチモニターモードが有効です。「2」を選択してチェックを付けます。

マルチモニターモードの解除方法

マルチモニターモードを解除するには、「アドバンス設定」画面で「シングルモード」または「ミラーモード」を選択します。画面の指示に従ってWindowsを再起動します。

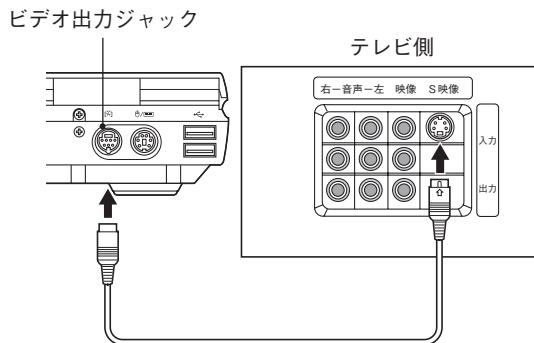
テレビ

S端子ケーブルを使用して、本機とテレビを接続すると、テレビに表示できます。S端子ケーブルは市販のものをご利用ください。

ビデオ出力ジャックから出力される信号は、一般のテレビで表示可能に変換したNTSC信号です。NTSC信号では、コンピュータ用のディスプレイに使用されるアナログRGB信号ほどきめ細かい表示を行うことはできません。

接続

1 **テレビと本機の電源を切ります。**

2 **市販のS端子ケーブルを使用して、テレビのビデオ入力コネクタ(S端子)と、本機のビデオ出力ジャック(TV)を接続します。**

3 **テレビと本機の電源を入れます。**

表示の切り替え方法

Fn + F8（LCD/■）を押すたびに表示装置の組み合わせが切り替わります。接続している表示装置を自動的に認識するため、テレビが接続されている場合にはテレビに表示できます。テレビは次の表示装置の組み合わせで表示できます。

・ TV Only（テレビのみに表示）
・ CRT + TV（外付けディスプレイとテレビに表示）

● テレビの組み合わせで設定できる表示色は、16 ビットまでです。テレビ以外の表示装置で32ビットを設定していた場合に、テレビに切り替えると16ビットの表示色が設定されます。
● テレビに表示を切り替えて表示色が変更された場合に、再びテレビ以外に表示を戻しても、表示色は自動的にもとに戻りません。
● コンボドライブ搭載モデルでDVD VIDEOを再生中は、「LCD Only」、「CRT Only」、「CRT+LCD」から「TV Only」、「CRT+TV」に表示装置を切り替えることができません。

解像度や表示色を変更する

本機の画面の解像度や表示色数の変更や、そのほか表示に関する設定について説明します。変更時には、Windowsのヘルプも参照してください。

セーフモードでの起動

本機のディスプレイ機能で表示できない解像度を選択すると、Windowsを再起動したときに、画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで起動して再設定を行ってください。

p.185「LCDユニットの不具合」

解像度や表示色の変更方法

Windows XPの場合

1 [スタート]－「コントロールパネル」－「デスクトップの表示とテーマ」－「画面解像度を変更する」をクリックします。

2 「画面の解像度」、「画面の色」などの項目を設定したい内容に変更します。

解像度を設定します。

表示色を設定します。

3 項目を変更したら、[適用]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

Windows 2000の場合

1 [スタート]−「設定」−「コントロールパネル」−「画面」アイコンをダブルクリックします。

2 「設定」タブをクリックします。

3 「画面の色」、「画面の領域」などの項目を設定したい内容に変更します。

4 項目を変更したら、[適用]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

表示できる解像度と表示色

本機で表示可能な解像度と表示色は次のとおりです。

ミラーモードでは、LCDユニットと外付けディスプレイは同じ設定でのみ表示できます。

マルチモニターモードでは、LCDユニットと外付けディスプレイは別の解像度で表示できます。

p.94「外付けディスプレイに表示するには」

制限

- 下記以外の設定を選択することもできますが、それらの設定に関しては動作保証していません。
- 接続する外付けディスプレイの仕様により、下記の解像度や表示色を設定できない場合があります。
- 解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトなどを再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

Windows XPの場合

シングルモード/マルチモニターモード

表示装置		表示色 / 解像度	中（16ビット）	最高（32ビット）
外付けディスプレイ	LCDユニット	800×600ドット	○	○
		1024×768ドット	○	○
		1280×1024ドット	○	○
		1600×1200ドット	○	○

ミラーモード

表示装置	表示色 / 解像度	中（16ビット）	最高（32ビット）
LCDユニット/外付けディスプレイ	800×600ドット	○	○
	1024×768ドット	○	○

Windows 2000の場合

シングルモード

表示装置		表示色／解像度	256色	HighColor（16ビット）	TrueColor（32ビット）
外付けディスプレイ	LCDユニット	640×480ドット	○	○	○
		800×600ドット	○	○	○
		1024×768ドット	○	○	○
		1280×1024ドット	○	○	○
		1600×1200ドット	○	○	○

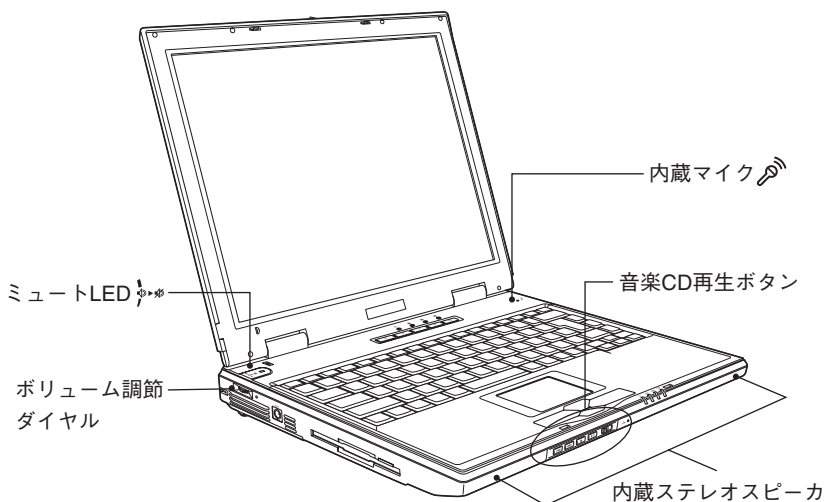
ミラーモード

表示装置	表示色／解像度	256色	HighColor（16ビット）	TrueColor（32ビット）
LCDユニット/外付けディスプレイ	640×480ドット	○	○	○
	800×600ドット	○	○	○
	1024×768ドット	○	○	○

サウンド機能を使う

本機には、サウンド機能が搭載されています。

注意

● ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。

内蔵マイク

本機のLCDユニットの画面下には、マイク（モノラル）が内蔵されています。この内蔵マイクを使って、音声を録音することができます。

内蔵ステレオスピーカ

本機の底面には、ステレオスピーカが内蔵されています。この内蔵スピーカを使って、音源からの音声を出力することができます。

音量の調節

スピーカの音量の調節は次の方法で行います。

- ボリューム調節ダイヤル

  ダイヤル手前側に回すと音量が小さくなります。

  奥に回すと音量が大きくなります。

  真横に押すとミュート(消音)になり、ミュートLEDが点灯します。もう一度押すと、ミュートが解除されます。

- ファンクションキー

  Fn + F10 ( )を押すとミュートになり、もう一度押すとミュートが解除されます。

  Fn + F11 ( )を押すと音量が小さくなります。

  Fn + F12 ( )を押すと音量が大きくなります。

- ボリューム調節ダイヤルによる音量の調節と、ファンクションキーによる音量の調節は連動していません。
- PC カードやアプリケーションによっては、上記の方法では音量調節ができないものがあります。詳しくはPCカードや、アプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。

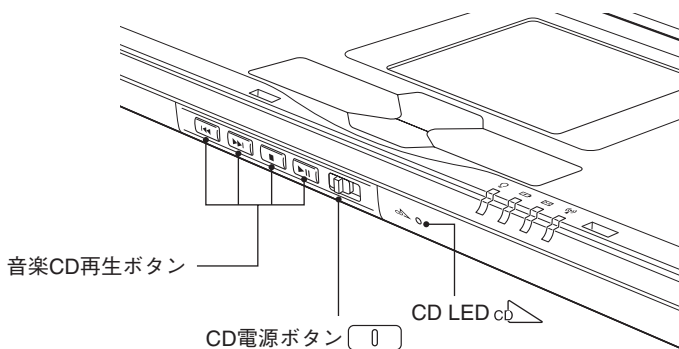
音を鳴らしたり、録音したりするには

Windows標準のサウンドユーティリティを使用します。音楽CD、WAVEファイル、MIDIファイルの再生や、WAVEファイルの作成なども可能です。
サウンドユーティリティは[スタート]-「(すべての)プログラム」-「アクセサリ」-「エンターテイメント」フォルダに登録されています。

音楽CD再生機能

本機前面の音楽CD再生ボタンで、音楽CDの再生ができます。
この機能は、コンピュータの電源が切れているときでも、ACアダプタやバッテリから電源供給がされていれば使用することができます。

ボタンの機能

音楽CD再生ボタンの機能は次のとおりです。

音楽CD再生ボタン	機　能
CD電源ボタン	コンピュータの電源が切れているときに、CD電源の入/切を行います。
再生ボタン	再生/一時停止をします。
停止ボタン	再生を停止します。 コンピュータの電源が切れている場合は、停止中に押すと、ディスクトレイを開きます。
早送りボタン	次のトラックへ進みます。
巻き戻しボタン	前のトラックへ戻ります。

音楽CD再生機能を無効にする

音楽CD再生機能を使用しない場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で音楽CD再生機能を無効にすることができます。

p.142「Advancedメニュー画面」-「Audio DJ Function」

コンピュータの電源が切れている状態での使い方

音楽CD再生を行う手順は、次のとおりです。

1. **CD電源ボタン(0)を右にスライドして電源を入れます。**

   電源が入ると、CD LED(CD)が点灯します。

2. **音楽CDをCD-ROMドライブにセットして、音楽CD再生ボタンで操作します。**

   音楽CDをセットすると、自動再生します。

3. **音楽CDの再生を終了するときは、(■)ボタンを押してCDの再生を停止します。**

4. **もう一度(■)ボタンを押します。CD-ROMドライブのディスクトレイが少し飛び出します。**

   メディアを取り出してください。

5. **CD電源ボタン(0)を右にスライドさせて、電源を切ります。**

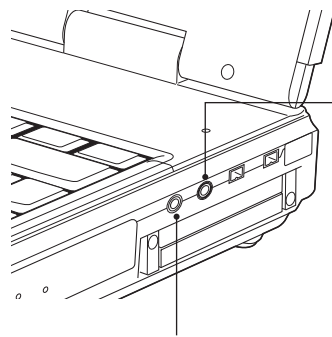
音楽CD再生中の音量調節

音楽CD再生中の音量調節は、本体左側面にあるボリューム調節ダイヤルで行います。

外部オーディオ機器などの接続

本機の右側には、カセットデッキなどのオーディオ機器、外部スピーカやマイクなどを接続するためのコネクタが標準で装備されています。各コネクタの位置と使い方は、次のとおりです。

スピーカやマイクの接続

スピーカやマイクを接続すると内蔵スピーカや内蔵マイクの機能は自動的に無効になります。

マイク入力コネクタ

マイクと接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能により録音、再生を行うことができます。

ヘッドフォン出力/光デジタルオーディオ出力（S/P DIF）コネクタ

ヘッドフォンやスピーカを接続した場合はヘッドフォンコネクタとして機能します。MDデッキなどデジタルオーディオ機器と接続した場合は光デジタルオーディオ出力コネクタとして機能します。

光デジタルオーディオ機器との接続

光デジタルオーディオ出力(S/P DIF)コネクタには、デジタルオーディオ機器のデジタル入力端子を接続します。本機からの音声をMD に録音することができます。またコンボドライブ搭載モデルでは、DVD VIDEO再生時の音声を5.1 チャンネルサラウンドスピーカシステムで出力することもできます。

デジタルオーディオ機器との接続には市販の「光デジタル接続ケーブル(丸型)」を使用します。

本機から出力されるサンプリングレートは48KHz固定のため、サンプリングレート変換機能が搭載されていないデジタルオーディオ機器では、本機から出力される音声データを録音できません。

- S/P DIFの設定(Windows 2000のみ)

  Windows 2000で光デジタルオーディオ出力(S/P DIF)コネクタを使用して、音声を再生･録音する場合は、S/P DIFの設定が必要です。

  p.176「S/P DIFの設定(Windows 2000のみ)」

省電力機能を使う

省電力機能(省電力モード)を使うと消費電力を抑えることができます。特にバッテリだけで使用する場合は、省電力機能を使うことで使用可能時間を延ばすことができます。

省電力モードの種類

省電力機能には、次の省電力モードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

- **HDD/ディスプレイの電源を切る**
  HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。
- **スタンバイ**
  作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが緑色に点滅します。通常モードへは、数十秒で復帰できます(使用環境により復帰時間は異なります)。
- **休止状態**
  作業内容をHDDに保存して電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。

ローバッテリ省電力機能

本機はローバッテリ省電力機能により、バッテリ残量が低下したときに上記の省電力モードに移行します。

初期値は、次のとおり設定されています。

バッテリ残量低下を通知するバッテリ残量	10%
バッテリ切れを通知するバッテリ残量	3%
バッテリ切れのコンピュータの動作	スタンバイモードに移行する

バッテリ残量低下時の通知方法や、通知する残量の設定を変更することができます。

p.61「バッテリアラームの設定」

電源ランプの表示

省電力モードの状態は、電源ランプの点灯または点滅によって確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード	緑点灯
HDD/ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイ	緑点滅
休止状態	消　灯
電源切断時	消　灯

休止状態を有効にする

「休止状態」タブの「休止状態をサポートする」にチェックを付けると休止状態が有効になります。

休止状態の設定は、次の画面で行います。

Windows XP　：[スタート]ー「コントロールパネル」ー「パフォーマンスとメンテナンス」ー「電源オプション」ー「休止状態」タブ

Windows 2000：[スタート]ー「設定」ー「コントロールパネル」ー「電源オプション」ー「休止状態」タブ

〈Windows XPの場合〉

省電力モード使用時の制限

省電力モードを使用する際には、次のような制限事項があります。使用する前に、必ず確認してください。

- 周辺機器を接続している場合やアプリケーションを起動している場合などに、省電力モードが動作しないことがあります。
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。
- NetWareサーバを利用している場合やNetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに移行すると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。
  ・切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
  ・再起動する。
  ・省電力モードを無効にする。
- 省電力モードに移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書やデータなど)は保存しておいてください。
- 赤外線通信やFAXモデム、ネットワークなどのPCカードを使って通信を行っている場合は、省電力モードに移行しないでください。通信が切断されることがあります。
- サウンド機能を使って録音･再生している場合に、省電力モードに移行するとサウンド機能が正常に動作しない可能性があります。
- 省電力モード時にPCカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。

実行方法

省電力モードを実行するには、大きく分けて2つの方法があります。実行する場合は、万一正常に復帰できない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書など)は保存しておいてください。

① **時間経過で実行**
　設定した時間を超えてコンピュータを使用しないとディスプレイの電源が切れたり、省電力モードに移行したりします。

② **直ちに実行**
　席を外すときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

省電力モードに関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

Windows XP　：[スタート]－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」

Windows 2000：[スタート]－「設定」－「コントロールパネル」－「電源オプション」

時間経過で実行

省電力モードに移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。

〈Windows XPの場合〉

直ちに実行

次の方法でスタンバイ、または休止状態に移行します。

- ［スタート］－「終了オプション（シャットダウン）」から選択、実行する。
- LCDユニットを閉じる。
- 電源スイッチを押す。
- Fn＋F1（z^z）を押す。

「LCDユニットを閉じる」、「電源スイッチを押す」、「Fn＋F1を押す」方法で、どのモードに移行するかの設定は、「詳細設定（設定）」タブで行います。

購入時の設定は、次のとおりです。

・ LCDユニットを閉じる：何もしない*（バックライトの消灯）
　　*Windows 2000では「なし」
・ 電源スイッチを押す：シャットダウン
・ Fn＋F1を押す：スタンバイ

〈Windows XPの場合〉

復帰方法

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

省電力モード	電源ランプ	復帰方法
HDD、モニタの電源が切れている状態	緑点灯	● タッチパッド、キーボードを操作する(誤って電源スイッチを押さないでください)。
スタンバイ	緑点滅	● 電源スイッチを押す。 ● キーボードを操作する。
休止状態	消　灯	● 電源スイッチを押す。

そのほかの機能

スピードステップ機能(モバイルインテルPentium4プロセッサ-M搭載モデル)

モバイルインテルPentium4プロセッサ-M搭載モデルをお使いの場合は、スピードステップ機能が自動的に機能します。スピードステップ機能とは、使用電源にあわせて、自動的にCPUの処理速度を調整する機能です。
バッテリのみで使用しているときは、CPUの処理速度を抑えて、本機の使用可能時間を延ばします。また、ACアダプタ使用時は、搭載しているCPUの最大パフォーマンスで処理を行います。

Windows XPの場合

Windows XPの場合は、現在のCPUの処理速度を次の画面で確認できます。
[スタート]–「コントロールパネル」–「パフォーマンスとメンテナンス」–「システム」–「システムのプロパティ」画面

Windows 2000の場合

Windows 2000では、タスクバーに「スピードステップ」アイコンが表示されていると、スピードステップ機能がCPUの処理速度を自動的に調整しています。

Power Gear（パワーギア）機能

Power Gear機能は、使用環境に応じて、あらかじめ設定されたパフォーマンス（CPU処理速度およびLCD輝度）に切り替えることにより、本機の処理能力を上げたり下げたりする機能です。パフォーマンスは、4種類のモードに区別されています。4種類のモードの切り替えは、インスタントキーのPower Gearキー（ ）で行います。
Power Gear 機能を有効にするためのPower Gearユーティリティは購入時にインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。
p.170「Power Gearユーティリティのインストール」

Power Gear（パワーギア）機能は、Administrator権限以外のユーザーアカウントでは使用することができません。

モードの種類

4種類のモードは次のとおりです。現在のモードはタスクバーにアイコンで表示されます。アイコンが表示されていない場合は、Power Gearユーティリティは起動していません。[スタート]-「(すべての)プログラム」-「Power Gear」-「Power Gear」を選択してください。

モード	使用電源	パフォーマンス	消費電力
	ACアダプタ	■■■■(最大)	■■■■(最大)
	ACアダプタ/バッテリ	■■■	■■■
	バッテリ	■■	■■
	バッテリ	■(最小)	■(最小)

＊パフォーマンスと消費電力は使用環境によって異なります。

本機を、ACアダプタを接続して使用しているときと、バッテリのみで使用しているときでは、使用できるモードが異なります。また、パフォーマンスが大きいモードほど消費電力も大きくなります。

モードの切替方法

モードは、Power Gearキー( )を押すごとに切り替わります。

省電力モードへの移行

Power Gearユーティリティをインストールすると、Windows電源管理のプロパティの「電源設定」タブの「電源設定」に「Power 4 Gear」が追加され、Power Gearのモードに合わせて省電力モードへの移行時間が設定されます。この設定はタスクバーのPower Gearアイコンを右クリックして「Configuration」でも表示できます。

p.112「時間経過で実行」

ネットワーク機能を使う

本機背面には、10Base-T/100Base-TXに対応したネットワーク機能を標準で搭載しています。標準で搭載しているネットワーク機能を使用してネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、ネットワークケーブルやハブ(サーバ)などが必要です。そのほかに、Windows上で、ネットワーク接続に必要なプロトコルの設定なども必要になります。
ネットワークの構築は、ネットワーク機器に添付のマニュアルや、ネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方の指示に従って行ってください。

- NetWareサーバを利用している場合やNetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  - ・切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
  - ・再起動する。
  - ・省電力モードを無効にする。
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力モードに移行すると、通常モードへ復帰できない場合があります。

リモートブート

リモートブートを使用すると、コンピュータ側のHDDにOSがインストールされていなくても、ネットワークを介して、サーバー上からOSをインストールすることができます。
リモートブートを行う場合は、ネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方の指示に従ってください。

パラレルコネクタを使う

本機背面にはパラレルコネクタが1個用意されています。パラレルコネクタには、プリンタなどを接続します。本機ではパラレルポートの動作モードを変更することができます。使用する周辺機器で指定がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

p.142「Advancedメニュー画面」

シリアルコネクタを使う

本機背面にはシリアルコネクタが1個用意されています。シリアルコネクタには、TA(ターミナルアダプタ)などを接続します。

USBコネクタを使う

本機背面にはUSB2.0に対応したUSBコネクタが2個用意されています。USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。2個のコネクタは同じ機能ですので、どちらのコネクタを使用してもかまいません。接続する機器によっては、デバイスドライバが必要な場合があります。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。

転送速度

USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、USB2.0コントローラに接続するすべての周辺機器で共用します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。

接続と取り外し

USB機器の接続、取り外しは電源が入った状態で行うことができます。ただし、タスクバーにアイコン(「PCカード」アイコンなど)が表示される場合は、Windows上で終了処理が必要です。詳しくは、接続する機器のマニュアルをご覧ください。

コンピュータの電源コードが接続されている状態では、常にUSBポートに5Vの電力が供給されています。お使いのUSB機器などによっては、コンピュータの電源を切った状態でも、USB機器のランプが光り続けます。これは、お使いのUSB機器の仕様で、故障ではありません。

IEEE1394コネクタを使う

本機右側面にはIEEE1394コネクタ(4ピン)が2個用意されています。IEEE1394コネクタには、IEEE1394ケーブルを介してIEEE1394対応の機器を接続します。

接続と取り外し

IEEE1394機器の接続、取り外しは電源が入った状態で行うことができます。ただし、タスクバーにアイコン(「PCカード」アイコンなど)が表示される場合は、Windows上で終了処理が必要です。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。

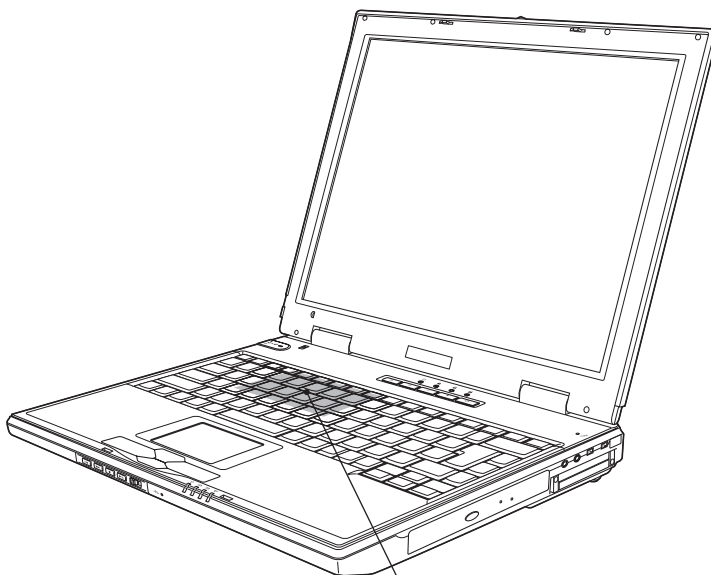
コンピュータウィルスの検索・駆除

本機には、コンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「Norton AntiVirus2003」が添付されています。購入時には「Norton AntiVirus2003」はインストールされていませんので、インストールを行ってください。インストール方法や詳しい使い方は、『Norton AntiVirus2003をご使用の前に』をご覧ください。

システムの拡張

メモリの増設方法やコンピュータに接続できる装置について説明します。

拡張できる装置

本機内部には、次の装置を増設・交換して、機能を拡張することができます。

■ メモリモジュール

本機にはメモリスロットが2本用意されており、拡張可能なスロットは本機キーボード下の1本です。メモリスロットには、最大512MBのメモリを搭載できます。

p.123「メモリモジュールの増設」

メモリモジュールの増設

メモリモジュールの増設作業はコンピュータ内部の精密部品に触れる可能性があるので十分に注意して作業を行ってください。サービスセンターまたは修理センターでは、お客様に代わってメモリモジュールの増設作業を行います(有償)。

サービスセンターまたは修理センターまでご相談ください。

メモリモジュールの増設

本機には2 本のメモリスロットが用意されており、増設または交換できるメモリスロットは、本機キーボード下にあります。購入時にはもう1本のメモリスロット(拡張不可)にSODIMMが装着されています。
本機に搭載可能な最大メモリ容量は1024MB(1GB)です。ただし、購入時のシステム構成により、実際に搭載可能な容量は異なります。

本機では、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。メインメモリ容量の表示は、ビデオメモリ容量を差し引いて表示されます。ビデオメモリ容量の初期値は32MBです。この値はBIOS Setupユーティリティで設定します。p.141「Displayメニュー画面」

SODIMMを増設する場合は、下記仕様と一致するSODIMMを、弊社のオプション一覧より選択してください。

- PC2100 SODIMM(DDR266 SDRAM使用、200ピン)
- メモリ容量* 256MB、512MB
- Non ECC

*今後、新しい容量のメモリを取り扱う場合があります。

最新のオプション一覧は、ホームページに掲載しています。ホームページのアドレスは『サポートサービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

作業時の注意

SODIMMを増設、交換する場合は、次の点に注意してください。

- 電源コンセントに電源プラグを接続したまま、あるいはバッテリパックをセットしたままで本製品を分解しないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。

- SODIMMの増設・交換は本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所(ぐらついた机の上や、傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

- 本機は電源を切っても、コンピュータ内部に微少な電源が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外し、バッテリを抜いてください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。SODIMMやコンピュータに静電気が流れると、基板上の部品が壊れるおそれがあります。
- SODIMMを持つときは、SODIMMの端子部や素子に触れないでください。SODIMMの破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装着する方向を間違えないでください。SODIMMが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- SODIMMを落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- SODIMMの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

SODIMMの増設

SODIMMの増設は、次の手順で行います。

SODIMMに添付のマニュアルもあわせてご覧ください。

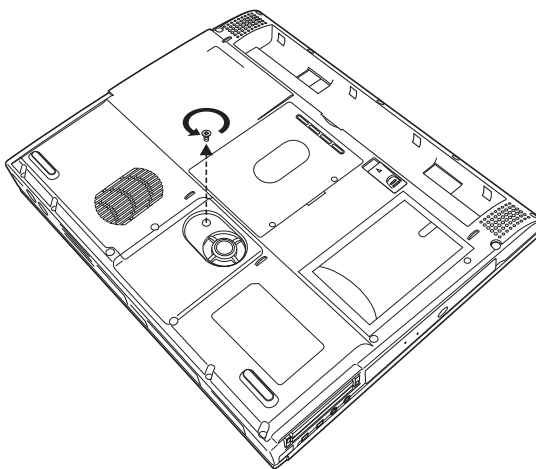
SODIMMの取り付け

1 本機の電源を切ります。

2 接続しているすべてのケーブルを外します。

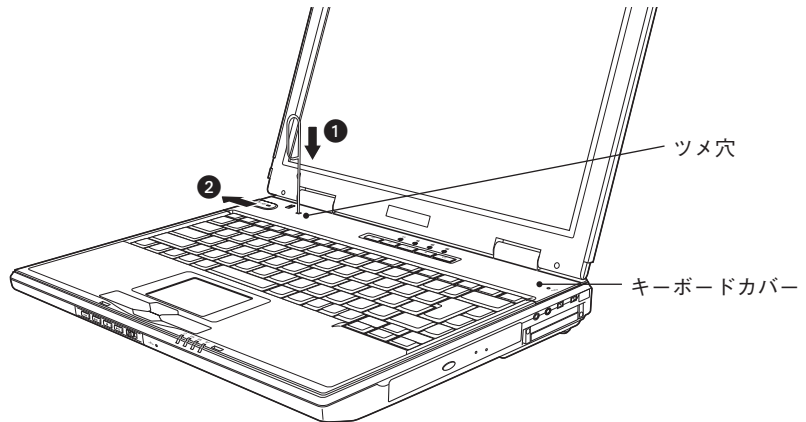
3 本機底面を上にして置き、バッテリを取り外します。

 p.64「バッテリの交換」

4 本機底面からキーボードを固定しているネジ(1本)を外します。

5 本機のLCDユニット側を上にして置き、LCDユニットを開きます。

6 キーボードカバーを取り外します。

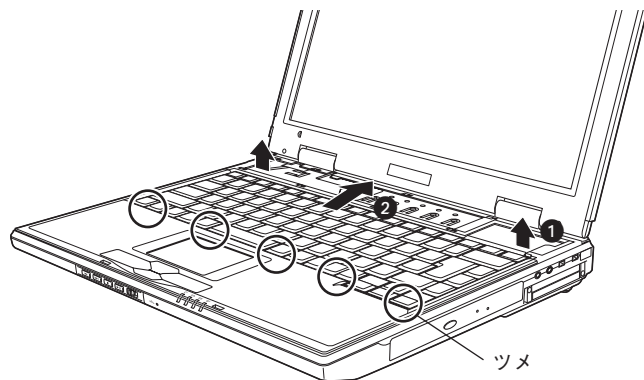
❶ キーボードカバーのツメ穴に先が細く丈夫なもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込み、上から軽く押します。

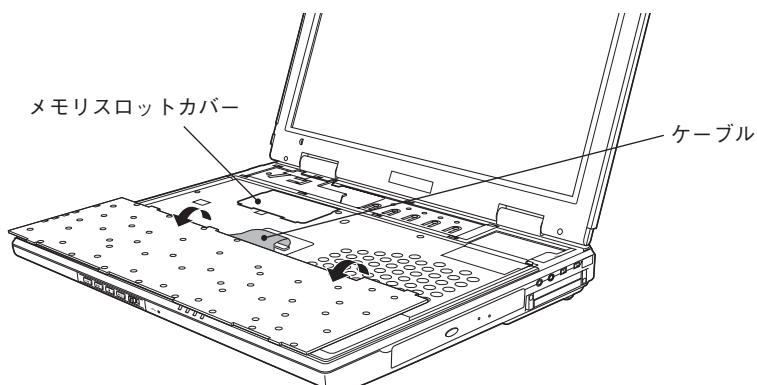
❷ 上から軽く押している状態のまま、キーボードカバーを左に約5mmスライドさせます。

❸ キーボードカバーを持ち上げて、取り外します。

7 キーボードを取り外します。

❶ LCDユニット側からキーボードの両端を軽く持ち、約10mm持ち上げます。

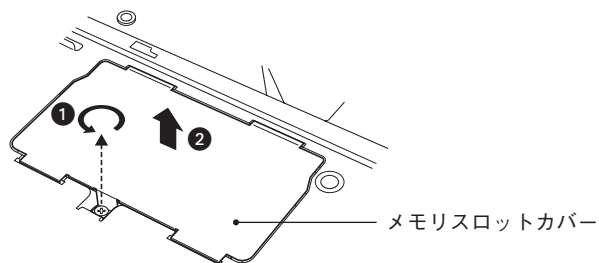
❷ そのままキーボードをLCDユニット側に向かって約5mmスライドします。

5箇所のツメが外れているか確認してください。

❸ キーボードをタッチパッド側に倒して、そのままタッチパッドの上に置きます。

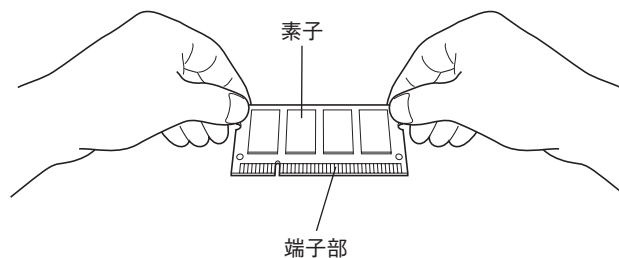
キーボードのケーブルを引っ張り過ぎないように注意してください。

8 メモリスロットカバーを取り外します。

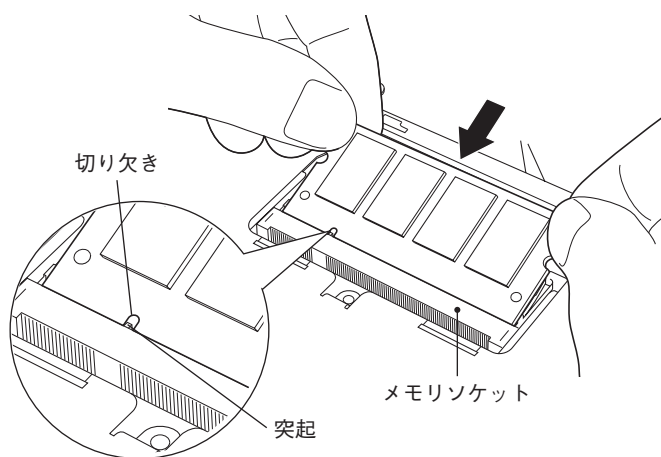
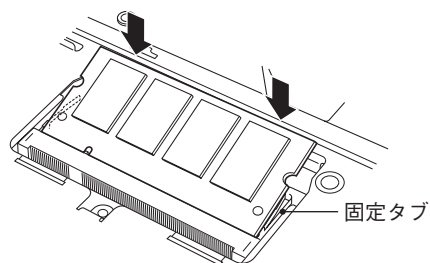
❶ メモリスロットカバーのネジ(1本)をゆるめます。

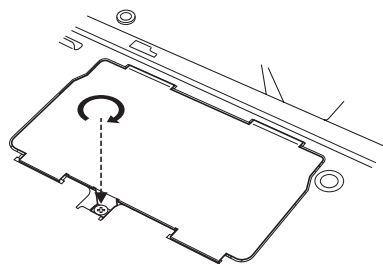
本機内部にネジや金属片などを落とさないように注意してください。

❷ ネジ穴からネジが外れたら、メモリスロットカバーを取り外します。

9 SODIMMを梱包から取り外します。

SODIMMの端子部や素子に触れないように持ちます。

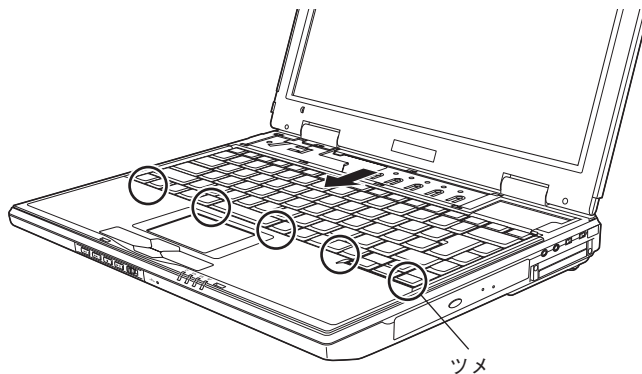
システムの拡張

10 SODIMMを差し込みます。

切り欠きを突起に合わせ、SODIMMを約30度の角度でメモリソケットに差し込みます。

11 SODIMMを静かに倒します。正しく装着すると固定タブがSODIMMを固定して「カチッ」と音がします。

12 メモリスロットカバーを取り付けて、ネジ(1本)で固定します。

本機内部にネジや金属片などを落とさないように注意してください。

13 キーボードを取り付けます。

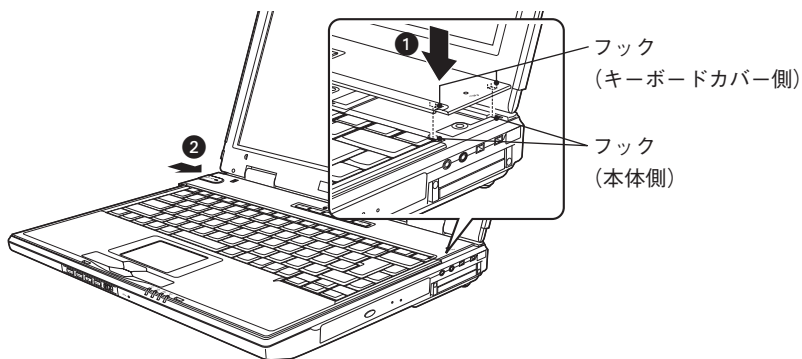
❶ キーボードを起こし、LCDユニット側に倒します。

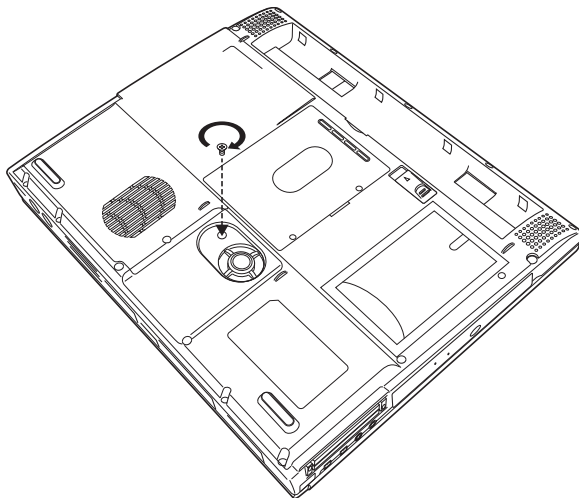
キーボードのケーブルを引っ張り過ぎないように注意してください。

❷ そのままキーボードのツメと本体のツメ穴(5箇所)を合わせて差し込みます。

14 キーボードカバーを取り付けます。

❶ キーボードカバーと本体のフックの位置を合わせて置きます。

❷ キーボードカバーを上から軽く押さえながら、右にスライドして固定します。

カバーが固定されたことを確認してください。

15 LCDユニットを閉じて、本機底面を上にして置きます。

16 本機底面のネジ(1本)でキーボードを固定します。

17 コンピュータを使用できるように、取り外したバッテリと、ケーブル類をもとに戻します。

p.64「バッテリの交換」

18 「BIOS Setupユーティリティ」を起動して、総メモリ容量を確認します。

❶ コンピュータの電源を入れて、[F2]を押し、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。

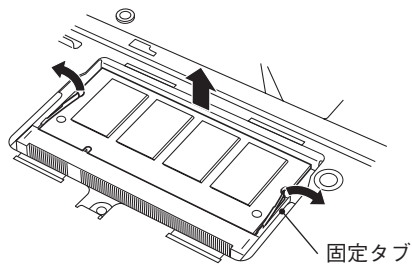
p.135「BIOS Setupユーティリティの起動」

❷ 「Mainメニュー画面」―「Installed Memory」で総メモリ容量を確認します。

本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。装着している総メモリ容量から、ビデオメモリで使用するメモリ容量を引いた容量が表示されます。ビデオメモリの初期値は32MBです。

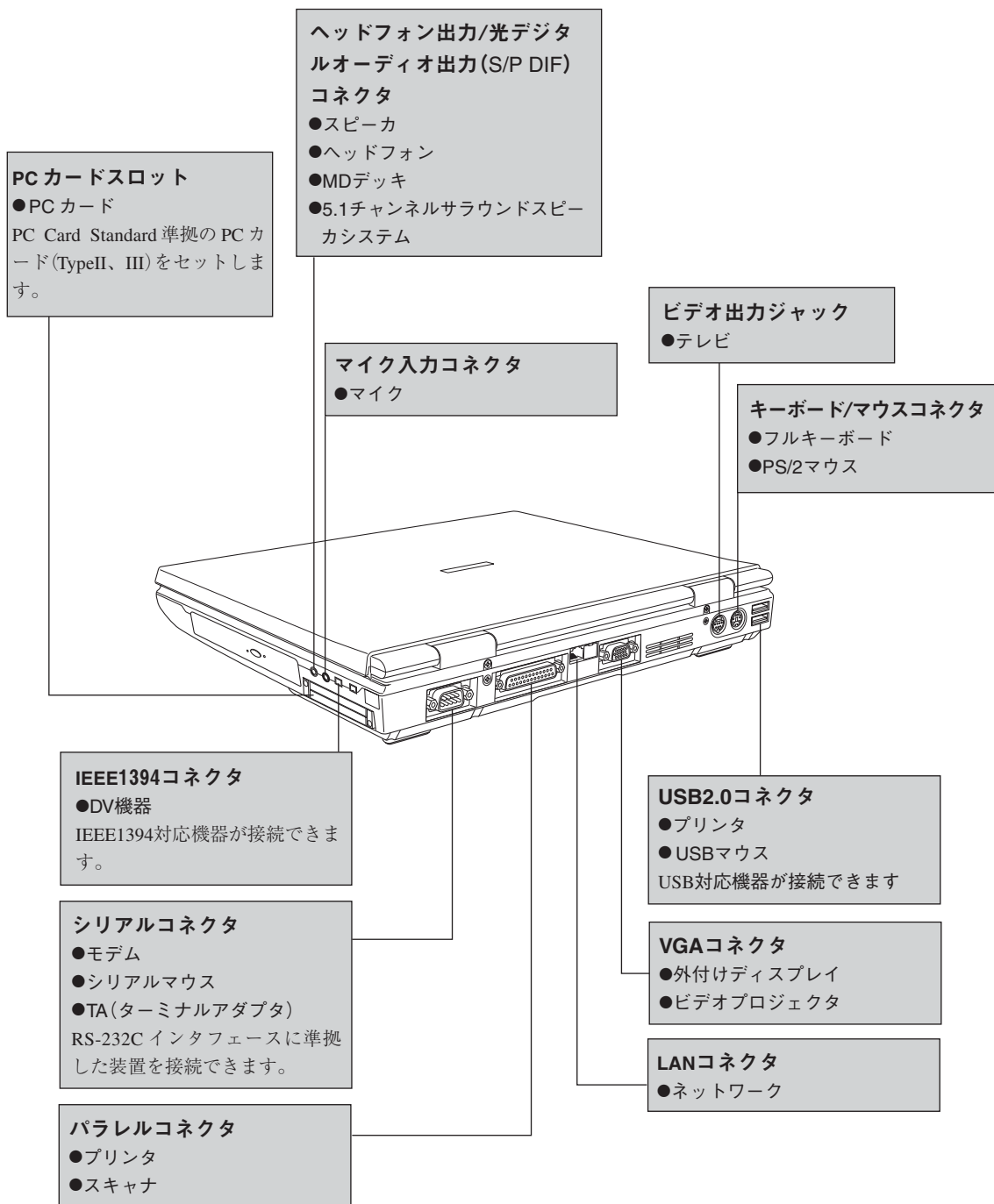
装着した容量だけ、メモリ容量が増えていれば作業は完了です。「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。容量が増えていない場合は、SODIMMが正しく装着されていないことが考えられます。電源を切ってからSODIMMを装着し直してください。

SODIMMの取り外し

1 ソケットの固定タブを外側に広げるとSODIMMが起き上がります。

2 起き上がったSODIMMの両端を持って静かに引き抜きます。

取り外したSODIMMは静電防止袋に入れて保管してください。

外付け可能な周辺機器

本機には、次のような周辺機器を取り付けることができます。各コネクタへの接続方法は、本書または接続する周辺機器のマニュアルをご覧ください。

BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合
- マウスを使う場合
- 音楽CD再生機能を使用しない場合
- パスワードを設定する場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。

設定値をよく確認してから変更を行ってください。BIOS Setupユーティリティで変更した内容は、CMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、リセットしても消去されることはありません。

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。

販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。

- 設定値を変更して、動作が不安定になったり、リチウム電池の寿命で内容を保持できなくなった場合に備えて、必ず購入時の設定と変更後の設定値を記録しておいてください。

  p.148「BIOS Setup ユーティリティの設定値」

- 設定を変更後に、万一動作が不安定になった場合は、「Load Setup Defaults」（初期値に戻す）または「Discard Changes」（前回保存した設定値に戻す）を実行することでもとの値に戻すことができます。

  p.138「設定値をもとに戻すには」

- 弊社製以外のBIOSを使用すると、Windowsが正常に動作しなくなる場合があります。弊社製以外のBIOSへのアップグレードは絶対に行わないでください。

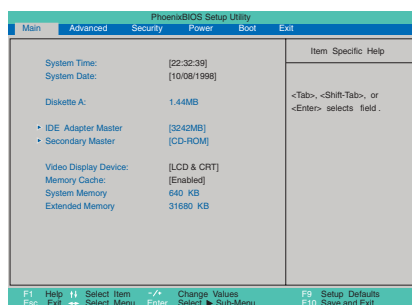
BIOS Setupユーティリティの操作

BIOS Setupユーティリティの起動

1 **コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合はリセットします。**

2 **コンピュータの起動直後、黒い画面の中央にロゴが表示されたら、すぐにキーボードの F2 を押します。**

Windowsが起動してしまった場合は、Windowsを再起動して、手順2をもう一度実行してください。

3 **「BIOS Setupユーティリティ」が起動してMainメニュー画面が表示されます。**

BIOS Setupユーティリティ画面（イメージ）

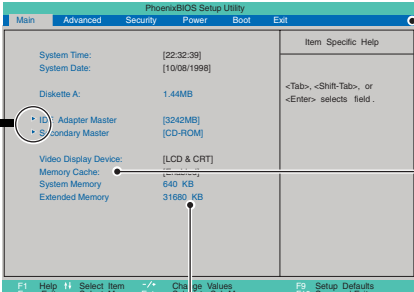
仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には、起動時に次のメッセージが表示されます。

Press F1 to continue, F2 to enter SETUP

このメッセージが表示されたら F2 を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常はそのまま「Exit Saving Changes」を実行して終了します。

p.139「BIOS Setupユーティリティの終了」

F1 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。
操作は、次の順番で行います。

①「処理メニュー」を選択 → ②「設定項目」を選択 → ③「設定値」を選択

詳しい操作方法は、次のとおりです。なお、各設定項目の説明は、p.140をご覧ください。

＜メニュー画面＞

PhoenixBIOS Setup Utility
Main　Advanced　Security　Power　Boot　Exit

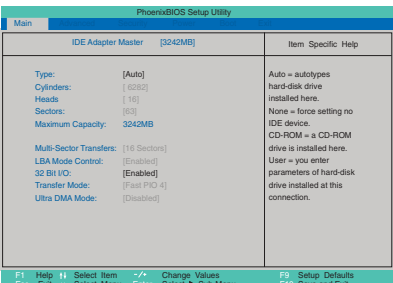
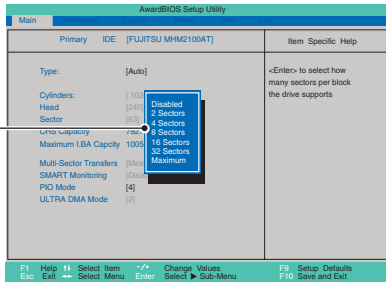
System Time: [22:32:39]
System Date: [10/08/1998]
Diskette A: 1.44MB
▶ IDE Adapter Master [3242MB]
▶ Secondary Master [CD-ROM]
Video Display Device: [LCD & CRT]
Memory Cache: [Enabled]
System Memory 640 KB
Extended Memory 31680 KB

Item Specific Help
<Tab>, <Shift-Tab>, or <Enter> selects field.

F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
Esc Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

①「処理メニュー」を選択
→ ← で変更します。
起動直後は、「Main メニュー画面」が表示されています。

②「設定項目」を選択
↑ ↓ で変更します。

③「設定値」を選択
黒字表示されていると、設定変更可能です。
Fn + ＋ / Fn + － を押すと値が変わります。
↵ を押すと「選択ウィンドウ」が表示されます。

＜選択ウィンドウ＞
選択ウィンドウ内の設定値を ↑ ↓ で変更し、↵ で設定します。

AwardBIOS Setup Utility
Main
Primary IDE [FUJITSU MHM2100AT]
Type: [Auto]
Cylinders:
Head
Sector
CHS Capacity
Maximum LBA Capcity
Multi-Sector Transfers
SMART Monitoring
PIO Mode [4]
ULTRA DMA Mode [2]
Disabled / 2 Sectors / 4 Sectors / 8 Sectors / 16 Sectors / 32 Sectors / Maximum

Item Specific Help
<Enter> to select how many sectors per block the drive supports

F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
Esc Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

▶マークの付いている設定項目を選択して ↵ を押すと、「サブメニュー画面」が表示されます。

＜サブメニュー画面＞

PhoenixBIOS Setup Utility
Main
IDE Adapter Master [3242MB]
Type: [Auto]
Cylinders: [6282]
Heads [16]
Sectors: [63]
Maximum Capacity: 3242MB
Multi-Sector Transfers: [16 Sectors]
LBA Mode Control: [Enabled]
32 Bit I/O: [Enabled]
Transfer Mode: [Fast PIO 4]
Ultra DMA Mode: [Disabled]

Item Specific Help
Auto = autotypes hard-disk drive installed here.
None = force setting no IDE device.
CD-ROM = a CD-ROM drive is installed here.
User = you enter parameters of hard-disk drive installed at this connection.

F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults
Esc Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu F10 Save and Exit

「サブメニュー画面」での設定方法は、「メニュー画面」での設定方法と同様です。
Esc を押すと＜メニュー画面＞に戻ります。

キー操作一覧

キー	操作できる内容
F1 , Alt + H	ヘルプを表示します。
Esc	「EXIT画面」を表示します。 サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
↑ , ↓	設定を変更する項目を選択します。
← , →	処理メニューを選択します。
Fn + - Fn + +	項目の値を変更します。
↲	・メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニューを表示します。 ・選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ・設定値を選択します。
F9	全設定項目の値を初期値に戻します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。
PgUp , Home	表示されているメニューの中の最初の項目に移動します。
PgDn , Fn + End	表示されているメニュー画面の中の最後の項目に移動します。

設定値をもとに戻すには

BIOS Setupユーティリティの設定を間違えてしまい､万一コンピュータの動作が不安定になってしまった場合などには､BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Setup Defaults（初期値に戻す）

BIOS Setupユーティリティの設定を､BIOSの初期値に変更します。

1 F9 を押す､または｢Exit｣メニュー画面－｢Load Setup Defaults｣を選択すると次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation
Load default configuration now ?
［Yes］　　［No］

2 BIOSの設定を変更する場合は､[Yes]を選択して ↵ を押します。
変更しない場合は[No]を選択して ↵ を押します。

Discard Changes（前回保存した設定値に戻す）

BIOS Setupユーティリティを終了せずに､前回保存した設定値に戻します。

1 ｢Exit｣メニュー画面－｢Discard Changes｣を選択すると､次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation
Load previous configuration now ?
［Yes］　　［No］

2 BIOSの設定を前回保存した値に戻す場合は､[Yes]を選択して ↵ を押します。

BIOS Setupユーティリティの終了

Exit Saving Changes(変更した内容を保存し、終了する)

BIOS Setupユーティリティを終了するには、次の2通りの方法があります。

1 Esc を押す、または → ← を押し、「Exit」メニュー画面を選択します。

2 「Exit Saving Changes」を選択し ↵ を押します。次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Save configuration changes and exit now ?	
[Yes]	[No]

3 変更した設定値を保存して終了する場合は[Yes]を選択し、↵ を押します。

Exit Discarding Changes(変更した内容を破棄し、終了する)

1 Esc を押す、または → ← を押し、「Exit」メニュー画面を選択します。

2 「Exit Discarding Changes」を選択し、↵ を押します。

設定値が変更されていなければ、そのままBIOS Setupユーティリティが終了し、システムが起動します。

3 設定値が変更されている場合は次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Discard configuration changes and exit now?	
[Yes]	[No]

変更した設定値を保存せずに終了する場合は[Yes]を選択し、↵ を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の7つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面
- Advancedメニュー画面
- Powerメニュー画面
- Exitメニュー画面
- Displayメニュー画面
- Securityメニュー画面
- Bootメニュー画面

Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、次の設定を行います。

- 日付と時刻の設定
- IDE装置の仕様(転送モードやパラメータ)の設定

設定項目と詳細は、次のとおりです。

※は表示のみ

　　　は初期値

System Time (hh:mm:ss)時間の設定		時刻を設定します。
System Date(mm:dd:yy)日付の設定		日付を設定します。
Primary Master Secondary Master (IDE装置の設定)		接続しているIDE装置の機種を表示します。 表示される項目や選択できる値はIDE装置やTypeの値によって異なります。
	Type	IDE装置の仕様を設定します。通常は[Auto]を指定します。[Auto]で自動的に仕様が設定されない古いHDDを使用する場合には[User Type HDD]を選択して各項目を設定します。 None :IDE装置を接続しない場合に選択します。 Auto :BIOSが自動的にIDE装置の仕様を設定します。 User Type HDD :HDDに関する仕様を個別に設定することができます。
	Translation Method	HDDの記憶容量のモードを設定します。 Normal :容量が528MB以下のHDDを接続している場合に選択します。 LBA :容量が528MB以上でLBA(Logical Block Addressing)をサポートしているHDDを接続している場合に選択します。 LARGE :容量が528MB以上でLBAをサポートしていないHDDを接続している場合に選択します。 Match Partition Table : HDDの記憶容量のモードを自動的に判別して設定します。 Manual :「Cylinders」、「Head」、「Sector」項目を個別に設定します。
	Cylinders	HDDのシリンダ数を設定します。
	Head	HDDのヘッド数を設定します。
	Sector	HDDのセクタ数(1シリンダ当たり)を設定します。
	CHS Capacity※	HDDの最大容量(CHS)を表示します。

	Maximum LBA Capacity※	HDDの最大容量(LBA)を表示します。
	Multi-Sector Transfers	一度に何セクタ転送するかを設定します。最適でない設定にすると、HDD転送速度が落ちる可能性があります。 Disabled　:複数のセクタを転送しません。 Maximum　:HDDがサポートする最大セクタサイズを設定します。 2 4 8 16 32 Sectors :転送セクタを設定します。
	SMART Monitoring	初期設定[Disabled]のまま使用します。
	PIO Mode	IDE装置の転送モード(PIO)を設定します。 0 1 2 3 4 :転送モードを設定します。
	ULTRA DMA Mode	Ultra DMA対応装置の転送モードを設定します。 Disabled　:使用しません。 0 1 2 3 4 5　:転送モードを設定します。
Installed Memory※		メモリ容量を起動時に自動的に計算して表示します。
CPU Type※		コンピュータに搭載されているCPUのタイプを自動的に表示します。
CPU Speed※		コンピュータに搭載されているCPUの周波数を自動的に表示します。
BIOS Revision ※		コンピュータに搭載されているBIOS のバージョンを表示します。
MAC Address ※		本機のネットワーク機能に割り当てられているMAC アドレスを表示します。

Displayメニュー画面

「Display」メニュー画面では、ビデオメモリのサイズを設定します。

Display Memory Size (ビデオメモリの設定)	メインメモリの一部をビデオメモリとして使用するサイズを設定します。 16M 32M 64M

Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、次のような内容に関する設定を行います。

- タッチパッドの設定
- 音楽CD再生機能の設定
- パラレルポートの設定

設定項目と詳細は、次のとおりです。

Internal Touchpad		本機のタッチパッドを使用するかどうかを設定します。 PS/2マウスを使用する場合は、[Disabled]を選択します。 Disabled　：タッチパッドを使用しません。 Enabled　：タッチパッドを使用します。
Audio DJ Function		音楽CD再生機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled　：音楽CD 再生機能を使用しません。 Enabled　：音楽CD 再生機能を使用します。
I/O Device Configuration		周辺デバイスの設定を行います。
	Parallel Port Mode （パラレルポートの設定）	パラレルポートの動作モードを設定します。本機に接続する周辺機器で指定がある場合は、指示にしたがって設定します。 Normal　：標準の設定です。 EPP　：EPPモードに設定します。 ECP　：ECPモードに設定します。 ECP+EPP：ECP+EPPモードに設定します。

Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、システム起動時や「BIOS Setupユーティリティ」起動時などのパスワードに関する設定を行います。
設定項目と詳細は、次のとおりです。
パスワード機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。システム起動時または「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワードの入力を要求し、正しいパスワード入力が行われないとコンピュータを使用することができません。

Supervisor Password User Password （パスワードの設定）	パスワードを設定します。「BIOS Setupユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。 ↵を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
HDD Password （HDDパスワードの設定）	HDDを認識するためのパスワードを設定します。「BIOS Setupユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。 ↵を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。

パスワード入力時の注意

パスワード設定時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

パスワードの設定･変更

パスワードの設定･変更方法は次のとおりです。

1 **｢Supervisor Password｣または､｢User Password｣､｢HDD Password｣を選択して [↵] を押すと､次のメッセージが表示されます。**

```
Enter Password:
```

2 **パスワードを入力し､ [↵] を押します。**

｢＊｣が表示されない文字は､パスワードとして使用できません｡アルファベットの大文字と小文字は区別されません｡パスワードは8文字まで入力可能です。

3 **続いて次のメッセージが表示されます｡確認のためにもう一度同じパスワードを入力し､ [↵] を押します。**

同じパスワードを入力しないと､手順1のメッセージに戻ります。

```
Confirm Password
```

<HDDパスワードを変更した場合>

HDD Passwordを変更した場合は､次のメッセージが表示されます。
変更前のHDDパスワードを入力して [↵] を押します。

```
Old HDD Password:
```

4 **パスワードの設定が完了すると､設定したパスワード項目の値が｢Enabled｣に変わります。**

登録したパスワードは､書き移して保管するなどして忘れないようにしてください｡パスワードを忘れると､Windowsの起動およびBIOSの設定変更ができなくなります。
万一､パスワードを忘れた場合は､本製品を購入した販売店､サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。

パスワードの削除

1 「Supervisor Password」または「User Password」選択して [↵] を押すと、次のメッセージが表示されます。

```
Enter Password:
```

2 何も入力せずに [↵] を押すと、選択したパスワード項目の値が「Disabled」に変わります。これでパスワードが削除されます。

HDDパスワードの削除

1 「HDD Password」を選択して [↵] を押すと、次のメッセージが表示されます。

```
Enter Password:
```

2 何も入力せずに [↵] を押します。次のメッセージが表示されます。

```
Old HDD Password:
```

3 HDDパスワードを入力し、[↵] を押すと「HDD Password」の値が「Disabled」に変わります。これでパスワードが削除されます。

Powerメニュー画面

「Power」メニュー画面では、バッテリのリフレッシュを行います。

Start Battery Refreshing (バッテリのリフレッシュの実行)	バッテリのリフレッシュを行う場合に実行します。 p.63「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムを起動するドライブの順番を設定します。コンピュータが[1.…]のドライブから順番にシステムを検出して、システムが見つかったドライブから起動します。初期設定は、[1.Removable Device]、[2.ATAPI CD-ROM]、[3.IDE Hard Drive]、[4.Other Boot Device]です。

ドライブを選択して Fn ＋ ＋ を押すと、そのドライブの順番が1つ上がります。

ドライブを選択して Fn ＋ - を押すと、そのドライブの順番が1つ下がります。

1. Removable Device	この項目で設定したドライブから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled, Legacy Floppy
2. ATAPI CD-ROM	ATAPI CD-ROM から起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled, 接続しているCD-ROMドライブの型番
3. IDE Hard Drive	IDE HDDから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled, 接続しているHDDの型番
4. Other Boot Device	ネットワーク機能から起動するかどうかを設定します。ネットワークから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled, INT18 Device(Network)
Onboard LAN Boot ROM	リモートブートを行う場合にEnabledに設定します。 Disabled　：無効にします。 Enabled　：有効にします。

Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面は、BIOS Setupユーティリティをどのように終了するかを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Exit Saving Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit Discarding Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期値に戻します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Save Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した内容(設定値)を保存します。

BIOS Setup ユーティリティの設定値

BIOS Setupプログラムで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定および変更した内容は必ず記録しておいてください。

Mainメニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
	Primary Master	Secondary Master	Primary Master	Secondary Master
Type				
Translation Method				
Cylinders				
Head				
Sector				
Multi-Sector Transfers				
SMART Monitoring				
PIO Mode				
ULTRA DMA Mode				

Displayメニュー画面

項目	購入時の設定	変更内容
Display Memory Size	16M 32M 64M	16M 32M 64M

Advancedメニュー画面

項目		購入時の設定	変更内容
Internal Touchpad		Disabled Enabled	Disabled Enabled
Audio DJ Function		Disabled Enabled	Disabled Enabled
I/O Device Configuration	Parallel Port Mode	Normal EPP ECP ECP+EPP	Normal EPP ECP ECP+EPP

Bootメニュー画面

項目	購入時の設定	変更内容
(　) Removable Device	Disabled Legacy Floppy	Disabled Legacy Floppy
(　) ATAPI CD-ROM	Disabled (　　)	Disabled (　　)
(　) IDE Hard Drive	Disabled (　　)	Disabled (　　)
(　) Other Boot Device	Disabled INT18 Device (Network)	Disabled INT18 Device (Network)
Onboard LAN Boot ROM	Disabled Enabled	Disabled Enabled

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

再インストールする前に必ずお読みください

ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。
本書では、HDDをフォーマットして、Windowsやデバイスドライバなどのソフトウェアを新しくインストールしなおす作業のことを、「再インストール」と記載します。

再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなった場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

- 弊社製以外のBIOSに、絶対にアップデートしないでください。弊社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

- Norton AntiVirus2003で、90日経過後に更新権を購入してウィルス定義ファイルの購読サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新権が無効になります。更新権が無効になってしまった場合は、シマンテックストアまでご連絡ください。
  『Norton AntiVirus2003をご使用の前に』

- バックアップディスクを作成していない場合は、必ず作成しておいてください。再インストールすると、バックアップディスクを作成することができなくなります。
  p.44「バックアップディスクの作成」

- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

● HDD上の重要なデータは、FDなどの別のメディアに、必ずバックアップしておいてください。再インストールするときは、HDDをフォーマットするため、Cドライブのデータはすべて消去されます。

ソフトウェアの再インストールを行う

本章では、再インストールの方法について記載しています。

必要なメディア

再インストールするには、次のメディアが必要です。

● リカバリCD

Windowsが登録されているCD-ROMです。
Windows XPは、Disc1とDisc2の2枚組になっています。

● ドライバCD

各種デバイスドライバ、Adobe Acrobat Reader、Norton AntiVirus2003が登録されているCD-ROMです。

● バックアップFD作成ユーティリティで作成したFD

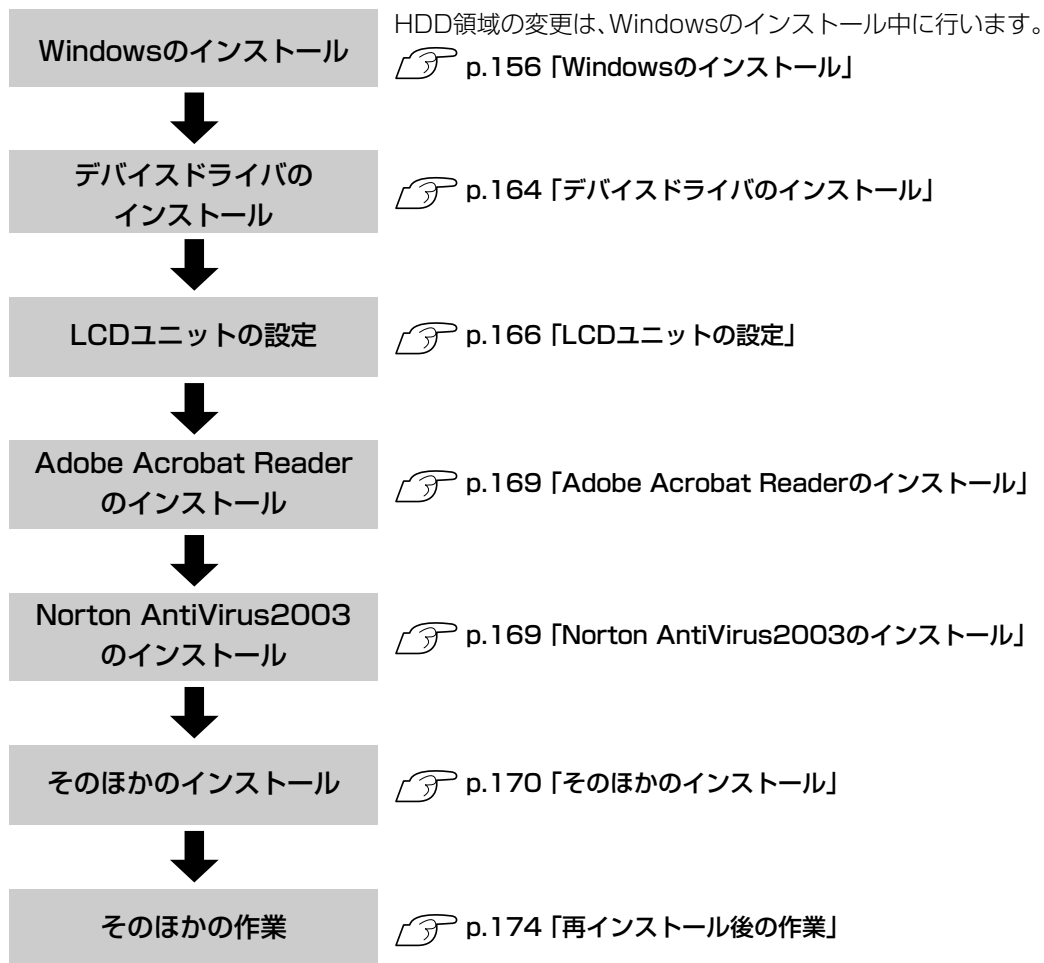
作成していない場合は、必ず作成してください。作成する必要がない場合もあります。

p.44「バックアップディスクの作成」

● そのほか必要なメディア

お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。

インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点をご確認ください。

インストール全般

インストール作業は、ACアダプタを接続して行ってください。

Administrator権限でログオン

インストール作業は、Administrator権限(または同等の権限を持つユーザーアカウント)でログオンして行ってください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

HDDのファイルシステム

購入時のHDDは、NTFSを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしています。Windowsのインストールは、必ずNTFSを使用してください。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。
CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ:FDD
Cドライブ:HDD
Dドライブ:CD-ROMドライブ

入力文字

インストール手順中の入力文字の表記は、すべて大文字で記載していますが、入力する際は大文字・小文字のどちらで入力してもかまいません。

Windows CD-ROMを要求されたら

デバイスドライバ類のインストール時に「Windows CD-ROM」を要求されることがあります。本書でなにも記載がない場合は、リカバリCD Disc1(Windows 2000ではリカバリCD)をセットしてください。

スリムドライブのマニュアル

CD-R/RWドライブ、コンボドライブなどのスリムドライブをお使いの場合は、スリムドライブのPDFマニュアルがデスクトップ上に登録されています。Windowsの再インストールを行うと、PDFマニュアルが消去されてしまいます。必要に応じて、別のメディアにバックアップを作成しておいてください。なお、スリムドライブのPDFマニュアルは弊社ホームページよりダウンロードすることも可能です。

p.174「スリムドライブマニュアルのダウンロード」

メーカー情報

Windowsの再インストールを行うと、次の場所に表示されているメーカーロゴとサポート情報は消去されますので、あらかじめご了承ください。

Windows XP　：［スタート］−「コントロールパネル」−「パフォーマンスとメンテナンス」−「システムのプロパティ」

Windows 2000：［スタート］−「設定」−「コントロールパネル」−「システムのプロパティ」

各種設定の確認

ネットワークやインターネットなどを使用している場合は、Windowsを再インストールすると、設定が消えてしまいます。再インストールする前に、設定を書き移しておいてください。

Windowsのインストール

インストールの流れ

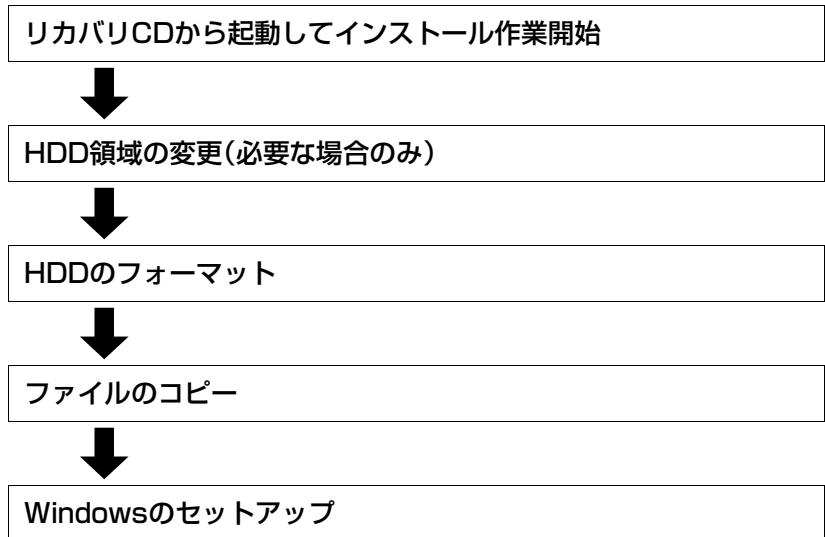
Windowsのインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は、次ページからの手順に従ってください。

リカバリCDから起動してインストール作業開始

HDD領域の変更(必要な場合のみ)

HDDのフォーマット

ファイルのコピー

Windowsのセットアップ

HDD領域の変更

HDDを分割して使用したい場合や、すでに分割してある領域の容量を変更したい場合は、「Windowsのインストール」作業中にHDD領域の変更を行います。Windowsをインストールする領域は、作業中にフォーマット、インストールを行いますが、残りの領域(未設定領域)はインストール終了後にWindowsの「ディスクの管理」で設定します。

p.199「HDD領域の作成」

Windows XPインストールモデルの場合

Windows XPのインストールは、次の手順で行います。

1 **コンピュータの電源を入れ、「リカバリCD Disc1」をCD-ROMドライブにセットします。**

「Microsoft Windows…」画面が表示された場合は[終了]をクリックします。

2 **[スタート]－[終了オプション]－[再起動]をクリックして、コンピュータを再起動します。**

3 **起動時に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。手順4の画面が表示されるまで少し時間がかかります。**

一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。

HDDを分割していない場合は、手順5に移ります。

4 **HDDを分割している場合は、次の画面が表示されます。この場合は、Escを押します。**

次の画面で↵を押してしまうと、Dドライブに Windowsがインストールされるため、Dドライブに登録されているデータは消えてしまうので注意してください。必ずEscを押して、CドライブにWindowsをインストールしてください。

Windows XP XXXX セットアップ

○○MBディスク ××××××××××のパーティション
D:パーティション2: [NTFS]　　××MB（××MB空き）
にWindows XPをインストールします。・・・

Dドライブ

ソフトウェアの再インストール

5 **「次の一覧にはこのコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。･･･」と表示されます。**
HDD領域を変更しない場合は、Cドライブが選択されている状態で ↵ を押します。手順6に移ります。
HDD領域を変更する場合は、Cドライブが選択されていることを確認し D（削除）を押して、下記の手順❶～❻を行います。

＜HDD領域を変更する場合＞

❶「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、↵ を押します。
❷「○○MBディスク××から次のパーティションを削除します。…」と表示されたら L を押します。
❸「次の一覧にはこのコンピュータ上の･･･」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。

- 一覧の中に、まだパーティション（「D」や「E」など）が存在する場合
  HDD領域を変更するには、すべてのパーティションを削除する必要があります。削除したいパーティションを選択して D を押し、上記手順❶～❷を実行します。すべてのパーティションを削除したら、手順❹に移ります。
- 一覧の中に、「未使用の領域」の表示のみの場合
  C を押して、手順❹に進みます。パーティションを作成します。

❹「○○MBディスク××に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ」に任意の数値を入力して、↵ を押します。
❺「次の一覧にはコンピュータ上の…」と表示されたら、「C:パーティション1（未フォーマット）」を選択して ↵ を押します。
「未設定領域」はインストール終了後「管理ツール」で領域の作成を行ってください。
p.174「領域の作成」
❻「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「ＮＴＦＳ ファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して ↵ を押します。
手順9に移ります。

6 「別のオペレーティングシステムのあるパーティションに…」と表示された場合は、[C]を押します。

7 「…にWindows XPをインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して[↵]を押します。

「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択すると、上書きインストールになります。

8 「警告:このドライブをフォーマットすると･･･」と表示されたら、[F]を押します。

9 フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的にコンピュータが再起動します。

10 「Windows XP ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するか、しないかを設定します。

「同意しない」を選択するとWindows XPのインストールが中止されます。

11 「Windows XP セットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従って設定を行います。

- ソフトウェアの個人用設定

  ここでは「名前」を必ず入力してください。
- コンピュータ名(Windows XP Home Edition)または
  コンピュータ名とAdministratorのパスワード
  (Windows XP Professional)

  コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力します。
- 日付と時刻の設定

  コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。
- ワークグループまたはドメイン名(Windows XP Professional)

  ネットワークに関する詳しい知識をお持ちの方の指示に従って必要事項を入力します。

12 再起動後に「ディスプレイの設定」画面が表示されたら、[OK]をクリックします。

13 「モニタの設定」画面が表示された場合は、[OK]をクリックします。

14 「Microsoft Windowsへようこそ」と表示されたら、画面右下の ⇨ をクリックします。

15 インターネット接続に関する画面が表示されたら、画面右下にある ▷▷(省略)をクリックします。

16 「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」と表示されたら、「いいえ、今回はユーザー登録しません。」にチェックを付けて ⇨ をクリックします。

17 「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、ユーザー名を入力して ⇨ をクリックします。

18 「設定が完了しました」と表示されたら、⇨ をクリックします。

19 Windows XPのデスクトップ画面が表示されたら、CD-ROMを取り出します。これでWindows XPのインストールは終了です。

Windows 2000インストールモデルの場合

Windows 2000のインストールは、次の手順で行います。

1 **コンピュータの電源を入れ、「リカバリCD」をCD-ROMドライブにセットします。**

「Microsoft Windows…」画面が表示された場合は、[終了]をクリックします。

2 **[スタート]－「シャットダウン」－「再起動」を選択して、コンピュータを再起動します。**

3 **起動時に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。手順4の画面が表示されるまで少し時間がかかります。**

一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。

HDDを分割していない場合は、手順5に移ります。

4 **HDDを分割している場合は、次の画面が表示されます。この場合は、[Esc]を押します。**

次の画面で[↵]を押してしまうとDドライブにWindowsがインストールされるため、Dドライブに登録されているデータは消えてしまうので注意してください。必ず[Esc]を押して、CドライブにWindowsをインストールしてください。

5

「次の一覧にはこのコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。･･･」と表示されます。
HDD領域を変更しない場合は、Cドライブが選択されている状態で［↵］を押します。手順6に移ります。
HDD領域を変更する場合は、Cドライブが選択されていることを確認し［D］（削除）を押して、下記の手順❶～❻を行います。

<HDD領域を変更する場合>

❶「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、［↵］を押します。

❷「○○MBディスク××から次のパーティションを削除します。…」と表示されたら［L］を押します。

❸「次の一覧にはこのコンピュータ上の･･･」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。

● 一覧の中に、まだパーティション（「D」や「E」など）が存在する場合
HDD領域を変更するには、すべてのパーティションを削除する必要があります。削除したいパーティションを選択して［D］を押し、上記手順❶～❷を実行します。すべてのパーティションを削除したら、手順❹に移ります。

● 一覧の中に、「未使用の領域」の表示のみの場合
［C］を押して、手順❹に進みます。パーティションを作成します。

❹「○○MBディスク××に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ」に任意の数値を入力して、［↵］を押します。

❺「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、「C:新規（未フォーマット）」を選択して［↵］を押します。
「未設定領域」はインストール終了後「管理ツール」で領域の作成を行ってください。
p.174「領域の作成」

❻「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して［↵］を押します。
手順9に移ります。

6 **「別のオペレーティングシステムがあるパーティションに…」と表示された場合は、[C]を押します。**

7 **「…にWindows 2000をインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択し、[↵]を押します。**

「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択すると、上書きインストールになります。

8 **「警告:このドライブをフォーマットすると･･･」と表示されたら、[F]を押します。**

9 **フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的にコンピュータが再起動します。**

10 **「ライセンス契約」と表示されたら、契約内容に同意するかしないかを設定します。**

「同意しません」を選択するとWindows 2000のインストールが中止されます。

11 **「Windows 2000 Professionalセットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従ってセットアップを行います。**

- ソフトウェアの個人用設定
  ここでは「名前」を必ず入力してください。
- コンピュータ名とAdministratorのパスワード
  コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力します。
- 日付と時刻の設定
  コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。

12 **「Windowsへログオン」画面が表示されます。設定したAdministratorのパスワードを入力します。**

手順11でパスワードを設定しなかった場合は、そのまま[OK]をクリックします。

13 **Windows 2000のデスクトップが表示されたら、CD-ROMを取り出します。これでWindows 2000のインストールは終了です。**

デバイスドライバのインストール

本機のメインボード上に搭載しているデバイスのドライバを一括してインストールします。
インストール手順は次のとおりです。

1. **「ドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。**
   表示されない場合は、[スタート]−「マイコンピュータ(Windows 2000の場合は「マイコンピュータ」をダブルクリック)」−「CDドライブ(Windows 2000 はCD-ROM)」を右クリックして「自動再生」を選択します。

2. **表示された項目から「一括インストール」を選択して[開始]をクリックします。**

3. **「ご注意」画面が表示されます。内容をよくお読みになり[OK]をクリックします。**

4. **表示されたドライバを確認して[インストール開始]をクリックします。**
   インストールするドライバが自動的に検出されます。

5. **「確認」画面が表示されたら[OK]をクリックします。**
   各ドライバが自動的にインストールされます。インストールには数分かかります。

6. **「インストールの完了」画面が表示されます。内容をよくお読みになり[OK]をクリックします。**

7. **「Windowsの再起動」画面が表示されたら[はい]をクリックします。**

8. **Windowsが再起動します。Windows 2000インストールモデルの場合は、これでデバイスドライバのインストールは終了です。**

   Windows XPインストールモデルの場合は、以降の手順が必要です。
   Windows 2000インストールモデルの場合は必要ありません。

9 [スタート]－「マイコンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

10 表示された項目から「Microsoft.NET Frameworkのインストール」を選択して、[開始]をクリックします。

11 「セットアップ」画面で[今すぐインストール]をクリックします。
「マイコンピュータ」画面の下に隠れている場合があります。

12 「セットアップはコンピュータが再起動された後に再開します。」と表示されたら、[今すぐ再起動]をクリックします。

13 Windows XP再起動後に「セットアップ完了」画面が表示されます。[完了]をクリックします。
これでデバイスドライバのインストールは終了です。

LCDユニットの設定

本機で使用しているLCDユニットの種類を設定します。

Windows XPの場合

Windows XPで本機のLCDユニットを設定する方法は、次のとおりです。

1. [スタート]−「コントロールパネル」−「デスクトップの表示とテーマ」−「画面解像度を変更する」をクリックします。
2. [詳細設定]−「モニタ」タブ−[プロパティ]をクリックします。
3. 「ドライバ」タブ−[ドライバの更新]をクリックします。
4. 「ハードウェアの更新ウィザードの開始」画面で「一覧または特定の場所から…」を選択して[次へ]をクリックします。
5. 「検索しないで、インストールするドライバを選択する」を選択して[次へ]をクリックします。
6. 「互換性のあるハードウェアを表示」のチェックを外します。
7. 一覧から次のディスプレイを選択して[次へ]をクリックします。
   製造元:「標準モニタの種類」
   モデル:「Digital Flat Panel (1024×768)」
8. 「ハードウェアの更新ウィザードの完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。
9. 「Digital Flat Panel(1024×768)のプロパティ」画面が表示されたら、[閉じる]をクリックします。
10. 「モニタ」タブ−[OK]をクリックします。

11 「画面のプロパティ」を閉じます。これでLCDユニットの設定は終了です。

必要に応じて、「画面のプロパティ」画面で解像度と表示色の変更を行ってください。

購入時の設定は、次のとおりです。

解像度： 1024×768

表示色： 最高（32ビット）

p.99「解像度や表示色の変更方法」

Windows 2000の場合

Windows 2000で本機のLCDユニットを設定する方法は、次のとおりです。

1 [スタート]－「設定」－「コントロールパネル」－「画面」をダブルクリックします。

2 「設定」タブ－[詳細]－「モニタ」タブをクリックします。

3 [プロパティ]をクリックします。

4 「ドライバ」タブ－[ドライバの更新]をクリックします。

5 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」画面で[次へ]をクリックします。

6 「このデバイスの既知のドライバを表示して…」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。

7 「このデバイスクラスのハードウェアをすべて表示」にチェックを付けます。

8 一覧から次のディスプレイを選択して[次へ]をクリックします。

製造元：「標準モニタの種類」

モデル：「Digital Flat Panel（1024×768）」

9 「次のハードウェアデバイスのドライバをインストールします。」と表示されたら、[次へ]をクリックします。

10 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」画面が表示されます。[完了]をクリックします。

11 「Digital Flat Panel(1024×768)のプロパティ」画面が表示されたら、[閉じる]をクリックします。

12 「モニタ」タブ－[OK]をクリックします。

13 「画面のプロパティ」を閉じます。これでLCDユニットの設定は終了です。

必要に応じて、「画面のプロパティ」画面で、解像度と表示色の変更を行います。

購入時の設定は、次のとおりです。

解像度：　1024×768

表示色：　HighColor（32ビット）

p.99「解像度や表示色の変更方法」

Adobe Acrobat Readerのインストール

Adobe Acrobat Readerのインストールは、次の手順で行います。

1. **「ドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。**
   表示されない場合は、「マイコンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。
2. **表示された項目から「Adobe Acrobat Readerのインストール」を選択して[開始]をクリックします。**
3. **「Acrobat Readerのセットアップ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。**
4. **「インストール先の選択」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。**
5. **「情報」画面が表示されたら、[OK]をクリックします。これでAdobe Acrobat Readerのインストールは終了です。**

Norton AntiVirus2003のインストール

Norton AntiVirus2003をインストールします。本機に添付の『Norton AntiVirus2003をご使用の前に』をご覧ください。

そのほかのインストール

Power Gearユーティリティのインストール

Power Gear（パワーギア）ユーティリティをインストールすると、4段階のパフォーマンス（CPU速度とLCD輝度）を切り替えて、本機の処理能力を上げたり下げたりできます。必要に応じてインストールを行ってください。

p.116「Power Gear（パワーギア）機能」

Power Gearユーティリティのインストールは次のとおりです。

1. **「ドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。**
2. **正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。**
   表示されない場合は、［スタート］－「マイコンピュータ」（Windows 2000の場合は、「マイコンピュータ」をダブルクリック）－「EPSON_CD」をダブルクリックします。
3. **表示された項目から「そのほかのインストール」を選択して［開始］をクリックします。**
4. **「…インストールするドライバソフトウェアを選択してください。」と表示されたら、「Power Gear」を選択して［インストール開始］をクリックします。**
5. **「Welcome」画面が表示されたら［Next］をクリックします。**
6. **「Choose Destination Location」画面が表示されたら［Next］をクリックします。**
7. **「Select Program Folder」画面が表示されたら［Next］をクリックします。**
8. **「Setup Complete」画面が表示されたら、［Finish］をクリックします。**
9. **［スタート］からWindowsを再起動します。これでPower Gearユーティリティのインストールは終了です。**

メールユーティリティのインストール

メールユーティリティをインストールすると、「Outlook Express」または「Outlook」を起動している間、未開封メールがあるとメールLED（ ）が点灯します。必要に応じてインストールを行ってください。

「メールユーティリティ」のインストールは、次の手順で行います。

1 「ドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。

2 正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。

表示されない場合は、[スタート]－「マイコンピュータ」（Windows 2000の場合は、「マイコンピュータ」をダブルクリック）－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

3 表示された項目から「そのほかのインストール」を選択して[開始]をクリックします。

4 「…インストールするドライバソフトウェアを選択してください。」と表示されたら、「メールユーティリティ」を選択して[インストール開始]をクリックします。

5 「Welcome」画面が表示されたら、[Next]をクリックします。

6 「Choose Destination Location」画面が表示されたら、[Next]をクリックします。

7 「Select Program Folder」画面が表示されたら、[Next]をクリックします。

8 「Setup Complete」画面が表示されたら、[Finish]をクリックします。

9 [スタート]からWindowsを再起動します。これでメールユーティリティのインストールは終了です。

SBSIのインストール（Windows XPのみ）

Windows XPの使い方の詳細がデスクトップ上でいつでも見られるように、「SBSI（ステップバイステップインタラクティブ）」をインストールします。

インストール中に「警告」が表示された場合には

Norton AntiVirus2003がインストールされている場合は、インストール中に「警告」画面が表示されることがあります。このような場合は、インストール作業を続行してください。メッセージ内の「処理」欄から、「スクリプト全体を1回実行する」を選択して、インストール作業を続行します。

SBSIのインストールは、次の手順で行います。

1. 「リカバリCD Disc2」をCD-ROMドライブにセットします。
2. [スタート]－「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
3. 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
   D:¥SBSI¥SETUP¥SETUP
   （CD-ROMドライブがDドライブの場合）
4. 「ようこそ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
5. 「製品ライセンス契約」画面が表示されたら、[はい]をクリックします。
6. 「Microsoftインタラクティブトレーニング」画面が表示されたら、「名前」と「会社名」を入力して[次へ]をクリックします。
7. 「この登録情報は正しいですか？」と表示されたら、入力した「名前」と「会社名」を確認して[はい]をクリックします。
8. 「セットアップが完了しました。・・・」と表示されたら、[完了]をクリックします。
9. 「Readme」ファイルが表示されます。内容を確認したら右上にある☒をクリックします。
10. [スタート]－[終了オプション]－[再起動]からWindowsを再起動します。Windowsが再起動したら、SBSIのインストールは終了です。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、アプリケーションなどのインストールが必要です。インストールは、バックアップFD作成ユーティリティで作成したFDや、あらかじめオプション類に添付されていたメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション類に添付のマニュアルをご覧ください。

インストールが必要なドライバの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- USB対応機器を使用する場合　:USB機器に添付のドライバ
- プリンタを使用する場合　:プリンタに添付のドライバ

再インストール後の作業

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、未設定領域は、そのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。

p.199「HDD領域の作成」

スリムドライブマニュアルのダウンロード

マニュアルのダウンロードを行うには、インターネットに接続できる環境が必要です。

CD-R/RWドライブ、コンボドライブなどのスリムドライブをお使いの場合、必要に応じて、スリムドライブ(CD-ROMを除く)のPDFマニュアルを弊社ホームページからダウンロードしてください。
マニュアルは、スリムドライブの種類(型番)ごとに異なります。あらかじめ、スリムドライブの型番検索ツールで、お使いのドライブの種類を確認してから、該当するマニュアルをダウンロードしてください。

スリムドライブの型番検索ツールを実行する手順は、次のとおりです。

1. **「ドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。**
   「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示された場合は、[終了]をクリックして画面を閉じてください。

2. **[スタート]－「ファイル名を選択して実行」をクリックします。**

3. **名前に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。**
   D:￥DRIVE￥CHECK

4. **以降は、画面の指示に従ってください。**

マイク録音時の設定

内蔵マイクを使用して録音をする場合は、録音音質の設定が必要です。

1 **次の方法で、「サウンドとオーディオのプロパティ」(Windows 2000の場合は、「サウンドとマルチメディアのプロパティ」)を開きます。**

Windows XP　：［スタート］－「コントロールパネル」－「サウンド、音声およびオーディオデバイス」－「サウンドとオーディオデバイス」をクリックします。

Windows 2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「サウンドとマルチメディア」をダブルクリックします。

2 **「オーディオ」タブを開きます。**

3 **「録音」項目の［音量］をクリックします。**

4 **「オプション」メニュー－「トーン調整」をクリックします。**

5 **「マイク」項目の［トーン］をクリックします。**

6 **「1 マイクブースト」にチェックを付けて［閉じる］をクリックします。**
これで、マイク録音時の設定は終了です。

S/P DIFの設定(Windows 2000のみ)

光デジタルオーディオ出力(S/P DIF)コネクタを使用して、音声を再生・録音する場合は、次の設定を行ってください。

1. [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「システム」をダブルクリックします。

2. 「ハードウェア」タブ-[デバイスマネージャ]をクリックします。

3. 「CD-ROMドライブ」項目をダブルクリックし、表示されたデバイス名をダブルクリックします。
   デバイス名は使用しているモデルにより異なります。

4. 「プロパティ」タブをクリックします。

5. 「デジタルCD再生」の「このCD-ROMデバイスで、デジタル音楽CDを使用可能にする」にチェックを付けます。

6. [OK]をクリックします。

7. 「…今コンピュータを再起動しますか?」と表示されたら、[はい]をクリックします。Windowsが再起動すると、S/P DIFの設定は終了です。

こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法について
説明します。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。

ホームページのサポート情報について

弊社ホームページには、お客様からよく寄せられる質問や技術情報などを掲載しています。本章とあわせてご覧ください。アドレスは『サポートサービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

コンピュータ本体の不具合

電源を切ってからもう一度入れ直す場合には、20秒程度の間隔を開けてください。20秒以内に電源を入れ直すと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

現象　**起動時に電源ランプが点灯しない。**

確認と対処

- バッテリだけで使用している場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。ACアダプタを接続してください。
- バッテリ、ACアダプタが正しく接続されているか確認します。
  p.31「ハードウェアをセットアップしましょう」
- 電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品の電源コードを電源コンセントに接続して確認してください。
- バッテリ、AC アダプタ、電源コンセントに問題がない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象　**起動時に画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。**

確認と対処

● 現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行った場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。

● 起動時の自己診断テスト終了後（Windowsの起動中）に警告メッセージが表示されている場合には、Windowsが正常に動作していない可能性があります。警告メッセージの内容をメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

● 起動時に警告メッセージが表示される場合には、警告メッセージを確認してください。起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。問題が解決できない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

p.195「警告メッセージが表示されたら」

● BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期値に戻してください。

p.138「設定値をもとに戻すには」

● ビープ音が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

● コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合は、次のようなメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to continue, F2 to enter SETUP

F2 を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常は、そのまま「Exit Saving Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

p.136「BIOS Setupユーティリティの操作」

F1 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

現象　**起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。**

```
Enter Password:
```

確認と対処
- 「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードを設定してあります。正しいパスワードを入力してください。
  p.143「Securityメニュー画面」
- パスワードを正しく入力しているか確認します。Num LKの状態により一部のキーが数値キーとして働きます。
  p.71「キーボードを使う」
- パスワードを忘れてしまった場合には、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

現象　**起動時に次のようなメッセージが表示されて、Windowsが起動しない。**

・Operating System not found
・DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
・Invalid system disk Replace the disk, and then press any key

確認と対処
- システムが登録されたFDをセットして、HDDが正常に認識されているか確認してください。
  p.189「HDDの不具合」
- システムが登録されていないFDがFDDにセットしてある場合は、FDを抜いてどれかキーを押してください。

現象　**ハングアップしてしまい何も反応しない。**

確認と対処
- タスクマネージャで応答のないプログラムを終了させます。
  応答のないプログラムを終了させる手順は、次のとおりです。

1. **Ctrl＋Alt＋Deleteを押します。**
2. **「Windowsのセキュリティ」画面が表示されたら「タスクマネージャ」をクリックします。**

3 **「Windows タスクマネージャ」画面－「アプリケーション」タブで、「応答なし」と表示されているタスクを選択して、[タスクの終了]をクリックします。**

プログラムが終了します。

4 **画面右上の☒をクリックして、「Windows タスクマネージャ」を終了します。**

- 応答のないプログラムを終了させることができない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってください。
- 電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。

現象　**「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。**

確認と対処

- 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。

省電力機能に関する不具合

現象 **正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない**

確認と対処

- 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。
- バッテリ残量が少なくなり、ローバッテリ省電力モードに入った場合は、ACアダプタを接続してから復帰させてみてください。
- 省電力モードから復帰できない場合は、Ctrl+Alt+Deleteを押してコンピュータを再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。
- 省電力モード時にPCカードを抜き差しすると、正しく復帰できません。Ctrl+Alt+Deleteを押して、本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存データは、すべて消失します。

バッテリパック使用時の不具合

現象　**充電されない**

確認と対処

- バッテリパックが正しく装着されているか確認します。
- バッテリ残量を正しく認識していない可能性があります。完全放電してから充電し直してください。
  p.63「バッテリ残量が正しく表示されないときは」
- 充電時にバッテリ充電LEDが橙色に点灯しているか確認します。点灯していない場合は、電源コンセントに電源が供給されているかを確認します。ほかの電気製品を電源コンセントに接続してみます。
- 電源コンセントに問題がない場合は、ACアダプタまたはコンピュータに問題があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

現象　**すぐにバッテリが終ってしまう。バッテリでの使用時間が短い。**

確認と対処

- バッテリ残量を正しく認識していない可能性があります。完全放電してから充電し直してください。
  p.63「バッテリ残量が正しく表示されないときは」
- バッテリが寿命に達したと考えられます。新しいバッテリと交換してください。なお使用済みのバッテリは、所定の方法でリサイクルしてください。
  p.66「使用済みバッテリの取り扱い」

キーボードの不具合

現象　**どのキーを押しても応答がない。**

確認と対処

- タッチパッドを操作してください。タッチパッドで操作できる場合もあります。
- アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。
- プログラムがハングアップしている可能性もあります。このような場合には、タスクマネージャでプログラムを終了してください。
  p.178「コンピュータ本体の不具合」

現象　**キートップにある文字や記号が入力できない。**

確認と対処

- 直接入力モードで日本語を入力することはできません。
  p.72「文字を入力するには」
- Windows上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。
  Windows上で次のキーボードが選択されていることを確認します。
  101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2キーボード

  確認方法は、次のとおりです。
  Windows XP　：［スタート］-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「キーボード」をクリック
  Windows 2000：［スタート］-「設定」-「コントロールパネル」-「キーボード」アイコンをダブルクリック

タッチパッドの不具合

現象　**ポインタの動きが悪い。**

確認と対処

- 手が濡れていたり、湿気を帯びていたりしないか確認してください。
- LCDユニットを長時間閉じたままにしていた場合や、使用環境により湿度や温度の急激な変化があった場合に正常に動作しなくなることがあります。一度電源を切って入れ直してください。
- タッチパッドユーティリティを起動し、ポインタの動作の設定を変更してみてください。
  p.69「タッチパッドユーティリティを使う」

LCDユニットの不具合

現象　**LCD画面に何も表示されない。**

確認と対処

- 画面の明るさを調節してください。Fn+F5/Fn+F6で調節できます。
  p.91「表示装置を使う」
- バックライトが消灯していないか確認します。Fn+F7を押してみてください。
- 省電力モードになっている可能性があります。キーボードまたはタッチパッドを操作してください。
  p.114「復帰方法」
- バッテリ使用時に、バッテリ残量が低下してもそのまま放置すると、スタンバイモードに移行します(購入時の設定)。ACアダプタを接続してください。
- コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

● 起動時の自己診断テストにて異常が発見されました。ビープ音が鳴った場合は、音の種類、音の長さなどを確認した上で、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象　**画面がちらつく。**

確認と対処
● LCD画面が明るくなったり、暗くなったりしてちらつく場合には、BIOS Setupユーティリティ画面でも同様の現象が発生するか確認してみてください。BIOS Setupユーティリティ画面でも同様の現象が発生する場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象　**画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示されなくなった。**

確認と対処
● 使用中のディスプレイでは、表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで起動し直し、解像度を正しく選択してください。セーフモードの起動方法は、次のとおりです。

Windows XPの場合

Windows XPをセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

1. **コンピュータの電源を切り、20秒程放置した後、電源を入れます。**
2. **電源を入れた直後に、F8を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。**
3. **「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、↵を押します。**

   以降は画面の指示にしたがってください。

Windows 2000の場合

Windows 2000をセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

1 **コンピュータの電源を切り、約20秒間放置したあとに電源を入れます。**

2 **画面下に、次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に F8 を押します。押さない場合は通常モードでWindowsが起動します。**

Windows 2000の問題解決と拡張オプションについてはF8を押してください。

3 **「Windows 2000拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、↵ を押します。**

以降は画面の指示にしたがってください。

FDDの不具合

現象 FDに正常にアクセスできない。

確認と対処

● 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

```
A:¥にアクセスできません。
デバイスの準備ができていません。
  [再試行]        [キャンセル]
```

```
ディスクの挿入
A:ドライブにディスクを挿入してください。
            [キャンセル]
```

● 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性があります。

```
ドライブAのディスクはフォーマットされていません。
今すぐフォーマットしますか？
    [はい]                [いいえ]
```

● 使用している FD が本機で使用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。

● 別の FD で読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、読み書きできないFDに異常があることが考えられます。

● システムが登録されたFDから起動できるか確認してください。起動できない場合、FDDが故障している可能性があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

現象　　FDに書き込みできない。

確認と対処
- ライトプロテクトされていないか確認します。

p.79「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

現象　　FDDから異常な音がする。

確認と対処
- 販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

HDDの不具合

現象　　それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。

確認と対処
- HDDに問題が発生している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行してHDDの設定を確認してください。

p.140「Mainメニュー画面」

現象　　特定のファイルのみ読み書きできなくなった。

確認と対処
- ファイルのデータが壊れているおそれがあります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してください。

CD-ROMドライブの不具合

CD-ROMドライブの代わりに、CD-R/RWドライブやコンボドライブが装着されている場合は、デスクトップに登録されているPDFマニュアルも参照してください。

現象　**セットしたCDにアクセスできない。**

確認と対処

- CD-ROMなどのメディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は読み込み準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
- CD-ROMなどのメディアの表面に傷などがないか確認してください。
- 別の CD-ROM(データが登録されているもの)にアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないCD-ROMメディアに問題がある可能性があります。
- 特殊なフォーマット形式のCD-ROMメディアの場合、アクセスできない可能性があります。本機で扱えるフォーマット形式を確認してください。
- セットしたCDが、書き込み済みのCD-Rメディアまたは CD-RWメディアの場合、CD-ROMドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。
- CDには、CD-ROM、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどがあります。コンピュータの記録メディアとしてそのまま利用可能なのはCD-ROMだけです。そのほかのCDをアクセスするためには専用のソフトウェアが必要になります。Windowsには音楽CDを再生するソフトウェアとして「Windows Media Player（CDプレーヤー）」が標準で添付されています。

現象　**CDをセットすると画面が開いてしまう。**

確認と対処

- セットしたCDに自動再生機能があると、自動的に画面が開きます。CDに登録されている内容を見たい場合は、[キャンセル]や図をクリックして、画面を閉じます。そのあと[スタート]−「マイコンピュータ」(Windows 2000の場合は、「マイコンピュータ」をダブルクリック）−CD-ROMドライブを右クリックして、[開く]を選択します。

現象　**音楽CD再生機能が使用できない。**

確認と対処

- BIOS Setupユーティリティを実行し、「Advancedメニュー」画面－「Audio DJ Function」の設定値が、「Enabled」になっているか確認してください。

  p.136「BIOS Setupユーティリティの操作」

- Windows 2000の場合は、Windows Media Player7.0以上がインストールされているか確認してください。Windows 2000で音楽CD再生機能を使用するには、Windows Media Player7.0以上が必要です。
  Windows Media Player7.0以上は購入時にインストールされています。Windowsを再インストールした場合は、「デバイスドライバのインストール」でWindows Media Player7.0以上がインストールされます。

現象　**音楽用CDの音が聞こえない。**

確認と対処

- 内蔵スピーカの音量が小さくなっているまたはミュートになっている可能性があります。ボリュームを調節してください。

  p.103「サウンド機能を使う」

アプリケーションソフトの不具合

現象　**アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。**

確認と対処

- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。

- ケーブルの接続不良や、キーボード内のごみやホコリ、電源の出力不安定、もしくはその他の部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

- HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

現象　**アプリケーションソフトが起動しない。**

確認と対処

- アプリケーションソフトの起動に必要とされるシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。
- アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。
- 実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCDから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。
- アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。
- アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。それでもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

メモリの不具合

現象　**メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。**

確認と対処

- Windows 上ではメモリ容量が正しく表示されないことがあります。BIOS Setupユーティリティを実行し、「Mainメニュー」画面－「Installed Memory」でメモリ容量を確認してください。

  p.135「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。メモリ容量の表示は、ビデオメモリ容量を差し引いて表示されます。ビデオメモリ容量の初期値は32MBです。この値はBIOS Setupユーティリティで設定します。

  p.141「Displayメニュー画面」

- メモリモジュールを増設または交換した場合は、メモリモジュールのタイプが合っているか、ソケットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。
- 購入時から不具合がある場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

PCカードの不具合

現象　**PCカードを装着しても、使用できない。**

確認と対処

- 本機で使用可能なPCカードかどうか確認してください。
p.84「PCカードを使う」
- PCカードスロットに正しく装着され、認識されているか確認してください。
p.84「PCカードを使う」
- PCカードを使用するために必要なドライバやアプリケーションソフトがインストールされているか確認してください。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。
- 外部機器を追加するためにPCカードを装着した場合、外部機器とPCカードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

プリンタの不具合

現象　**印刷できない。**

確認と対処

- プリンタの電源および印刷するための準備が完了しているか確認してください。
- プリンタの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。
- Windowsではプリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法についてはプリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

内蔵スピーカの不具合

現象　**システムは正常に動作しているのに音がしない。**

確認と対処

- 内蔵スピーカの音声出力音量が小さくなっている、またはミュートになっている可能性があります。ボリュームを調節してください。
  p.103「サウンド機能を使う」
- 内蔵スピーカの不良が考えられます。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

インストール時の不具合

現象　**インストールがマニュアルどおりにできない。**

確認と対処

- 本書では、インストール手順中のCD-ROMドライブのドライブレターを「D:」と記載しています。CD-ROMドライブのドライブレターは、HDD領域の数によって変わります。CD-ROMドライブのドライブレターを確認してください。
  CD-ROMドライブのドライブレターの確認は「マイコンピュータ」で行うことができます。
- 本書のインストール手順は購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定と、システム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。
- 本書の手順は、HDDのフォーマット後にインストールを行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点はインフォメーションセンターまたはテクニカルセンターにお問い合わせください。
- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。それでも直らない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明および対処方法
System CMOS checksum bad - configuration used	CMOS RAMのデータが壊れているか、不正な値が設定されています。BIOS Setup ユーティリティを起動して値を再設定してください。
Diskette drive A error	FDDが正しく接続されていないか、FDDが故障している可能性があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
Failure Fixed Disk	HDDが動作していないか、正しく認識されていません。BIOS Setup ユーティリティを起動してHDDが正しく認識されているか確認します。
Keyboard error	キーボードにエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Keyboard controller Failed	キーボードコントローラにエラーが発生しました。外付けキーボードが正しく接続されているか確認し、電源を入れ直します。外付けキーボードを取り外しても問題が解決しない場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
Operating system not found	オペレーティングシステムが見つかりません。HDDから起動する場合は、BIOS Setup ユーティリティを起動してHDDが正しく認識されているか確認します。FDDから起動する場合は、挿入したフロッピーディスクがシステムディスクではない可能性があります。
System RAM Failed at offset	システムRAMのオフセットアドレスでエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Shadow RAM Failed at offset	シャドウRAMのオフセットアドレスでエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Extended RAM Failed at address line	拡張メモリに不具合があるか、正しく認識されていません。BIOS Setup ユーティリティを起動してメモリを再検出します。
Previous boot incomplete - Default configuration used	前回の自己診断テストで、値にエラーが発見されています。セットアップには前回の値を使用するため、値が不正確な場合、このまま起動しても再度エラーになります。BIOS Setup ユーティリティを起動して設定値を確認します。設定に誤りがあれば設定し直します。
System cache error - Cache disabled	キャッシュメモリにエラーが発生しました。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
System timer error	システムタイマーでエラーが発生しました。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
Real time clock error	内蔵クロックにエラーが発生しました。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

付　録

お手入れ方法やHDD領域の作成方法、仕様
などについて説明しています。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体

コンピュータ本体の外装の汚れを拭き取るときは､柔らかい布に中性洗剤をしたたらない程度に染み込ませて､軽く拭き取ってください。

ベンジン､シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

LCD画面のお手入れ

LCD画面は乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

HDD領域の作成

HDDは、未割り当ての領域にHDD領域を作成することで、使用できるようになります。購入時の内蔵HDDはあらかじめHDD領域が作成されていますので、HDD領域の作成は必要ありません。
次のような場合にHDD領域の作成が必要です。

- Windowsの再インストール中に内蔵HDDのHDD領域を変更した場合
  Windowsがインストールされていない領域は未割り当ての領域になります。HDD領域を作成すると、内蔵HDDのすべての領域が使用できるようになります。

HDD領域の概要

HDDの未割り当ての領域には、HDD領域(パーティション)を作成します。パーティションを作成すると、そのパーティションの領域は、新しいドライブとしてWindowsに認識されます。
作成できるパーティションは、次のとおりです。

- プライマリパーティション
  プライマリパーティションは1つのドライブとしてWindowsに認識されます。
- 拡張パーティション
  拡張パーティションには論理ドライブを作成する必要があります。論理ドライブは、複数作成でき、1つ1つがドライブとしてWindowsに認識されます。

1つのHDDには、これらのパーティションを最大4つまで作成できます。そのうち、拡張パーティションは、1つのHDDに対して1つのみ作成できます。
プライマリパーティション、拡張パーティションを組み合わせて作成すると、1つのHDDに新しいドライブを5つ以上作成することもできます。

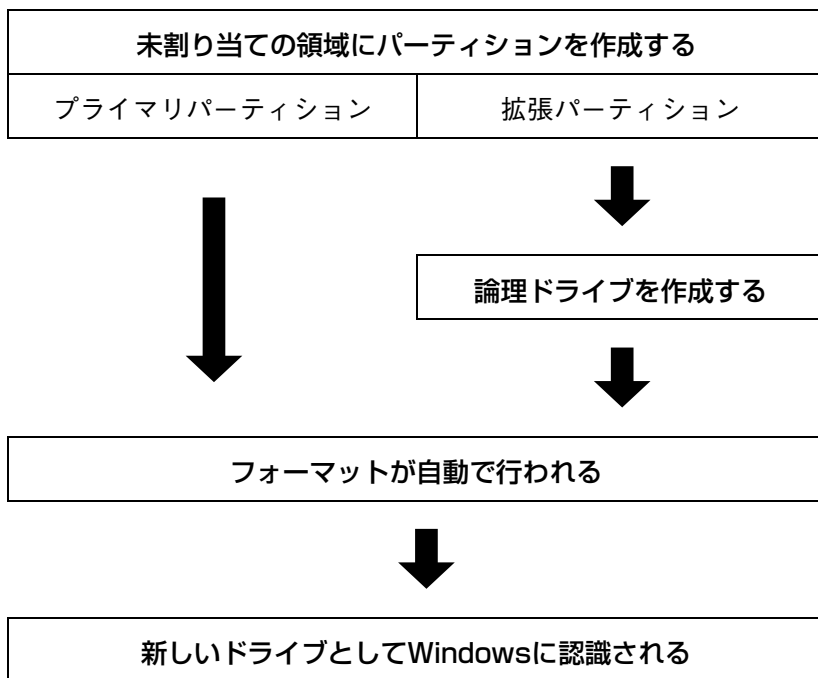
HDD領域の作成手順

HDD領域(パーティション)の作成は、Windowsの「ディスクの管理」で行います。

Cドライブ(Windowsがインストールされている領域)のHDD領域を変更する場合

「ディスクの管理」では、「Cドライブ(Windowsがインストールされている領域)」のHDD領域は変更できません。HDD領域を変更したい場合は、Windowsを再インストールする必要があります。

HDD領域の作成の流れ

HDD領域の作成の流れは次のとおりです。

HDD領域の作成手順

HDD領域を作成する手順は、次のとおりです。

1. **[スタート]−「コントロールパネル」−「パフォーマンスとメンテナンス」−「管理ツール」−「コンピュータの管理」をダブルクリックします。**

   Windows 2000の場合は、[スタート]−「設定」−「コントロールパネル」−「管理ツール」−「コンピュータの管理」をダブルクリックします。

2. **「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」をクリックします。画面右下のウィンドウにHDD領域の状態が表示されます。**

   Windows 2000の場合は、画面左下の「ディスクの管理」をクリックすると「ディスクのアップグレードと署名ウィザード」画面が表示されます。[キャンセル]をクリックすると、画面右下のウィンドウにHDD領域の状態が表示されます。

   ＜ Windows XPの場合＞

3. **パーティションを設定したい「未割り当て」の領域を右クリックして、表示されたメニューから「新しいパーティション(Windows 2000では「パーティションの作成」)」をクリックします。**

4. **「新しいパーティションウィザード(Windows 2000では「パーティションの作成ウィザード」)」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。**

付録

5 「パーティションの種類を選択」と表示されたら、パーティションの種類を選択して[次へ]をクリックします。

6 「パーティションサイズの指定」と表示されたら、「パーティションサイズ(Windows 2000の場合は、「使用するディスク領域」)」に任意の値を入力して[次へ]をクリックします。

複数のパーティションを作成する場合は、画面に表示されている「最大ディスク領域」以下の値を入力します。

手順5でプライマリパーティションを作成した場合は、手順8に移ります。

7 手順5で拡張パーティションを作成した場合は、「新しいパーティションウィザードの完了」と表示されます。[完了]をクリックします。続いて拡張パーティション内に論理ドライブを作成します。

p.203「論理ドライブの作成」

8 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、「ドライブ文字の割り当て:」に任意のドライブレターを選択して、[次へ]をクリックします。

「ドライブレター」は、ドライブの識別記号になります。

9 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、「このパーティションを以下の設定でフォーマットする」が選択された状態で [次へ]をクリックします。

表示されている設定値を変更する必要はありません。

10 「新しいパーティションウィザードの完了(Windows 2000 の場合は、「パーティションの作成ウィザード」)」と表示されたら、[完了]をクリックします。

11 [完了]をクリックすると自動的にフォーマットが行われます。フォーマットが終了するとHDD領域の作成は終了です。

複数のパーティションを作成する場合は、手順3～11の作業を繰り返します。

論理ドライブの作成

拡張パーティションを作成した領域は、「空き領域」として表示されます。拡張パーティションの「空き領域」に論理ドライブを作成する手順は、次のとおりです。

1 **「空き領域」を右クリックして、表示されたメニューから「新しい論理ドライブ(Windows 2000では「論理ドライブの作成」)」をクリックします。**

2 **「新しいパーティションウィザード(Windows 2000 では「パーティションの作成ウィザード」)」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。**

3 **「パーティションの種類を選択」と表示されたら、「論理ドライブ」が選択された状態で、[次へ]をクリックします。**

4 **「パーティションサイズの指定」と表示されたら、「パーティションサイズ(Windows 2000の場合は、「使用するディスク領域」)」に任意の値を入力して[次へ]をクリックします。**

複数の論理ドライブを作成する場合は、画面に表示されている「最大ディスク領域」以下の値を入力します。

5 **「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、「ドライブ文字の割り当て:」に任意のドライブレターを選択して、[次へ]をクリックします。**

「ドライブレター」は、ドライブの識別記号になります。

6 **「パーティションのフォーマット」と表示されたら、「このパーティションを以下の設定でフォーマットする」が選択された状態で [次へ]をクリックします。**

表示されている設定値を変更する必要はありません。

7 **「新しいパーティションウィザードの完了(Windows 2000 の場合は、パーティションの作成ウィザード)」と表示されたら、[完了]をクリックします。**

8 **[完了]をクリックすると自動的にフォーマットが行われます。フォーマットが終了すると論理ドライブの作成は終了です。**

複数の論理ドライブを作成する場合は、手順1〜8の作業を繰り返します。

リチウム電池の交換

BIOS セットアップユーティリティで設定した情報は、本体内部のリチウム電池によって保持されています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。
販売店、サービスセンターまたは修理センターへご連絡ください。

機能仕様一覧

CPU		モバイルインテルPentium 4プロセッサ-Mまたはモバイルインテル Celeronプロセッサ
メモリ	ROM	AWARD BIOS
	メインメモリ	SODIMM（DDR SDRAM）を使用して 最大1GBまで増設可能（SODIMMソケット×2）
	ビデオメモリ	メインメモリより最大64MBを使用（初期値：32MB）
ビデオ	コントローラ	SiS 650 AGP set Integrated 2D/3D graphics
画面表示	液晶タイプ	14.1型XGAカラー液晶　1024×768ドット　True Color（32ビット）*1
		15型XGAカラー液晶　1024×748ドット　True Color（32ビット）*1
	外部ディスプレイ接続	1600 × 1200ドット、True Color（32ビット）
サウンド	コントローラ	SiS 650 Integrated AC'97対応
	バス	PCIバス
キーボード		OADG準拠日本語対応90キー（Windowsキー付き）、インスタントキー4個
ポインティングデバイス		タッチパッド（スクロールボタン付き）
記憶装置	FDD	3.5型FDD1基内蔵
	HDD	2.5型IDE HDD1基内蔵
	CD-ROMドライブ	CD-ROMドライブ1基内蔵
インタフェース	パラレル	1（セントロニクス社準拠　D-SUB　25ピン　マルチモード双方向 ECP/EPPサポート）
	シリアル	1（RS-232C 準拠　D-SUB　9ピン）
	VGA	1（アナログRGB　ミニD-SUB　15ピン）
	キーボード／マウス	1（IBM PS/2互換　ミニDIN　6ピン）
	サウンド	ステレオスピーカ、モノラルマイク内蔵 ヘッドフォン出力/光デジタルオーディオ出力（S/P DIF）コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1
	IrDA	IrDA1.1準拠　FIR（4Mbps）、SIR（115.2Kbps）対応
	USB	2（USB2.0対応）
	IEEE1394	2（4ピン）
	TV出力	1（S端子）
	ネットワーク	1（RJ-45 10Base-T/100Base-TX自動認識）
PCカードスロット		2スロット　TypeII ×2または TypeIII ×1 PC Card Standard準拠（CardBus 対応）
カレンダ時計		内蔵（内蔵電池によりバックアップ）
電源	ACアダプタ	入力AC100V～240V±10V*2、1.5A（50/60Hz）、出力19V、4.74A 重量540g
	バッテリパック	容量 4400mAh　Li-ion 14.8V 動作時間 約2.5時間 JEITA測定方法Ver1.0
温湿度条件		温度：10～35℃ 湿度：20～80％（ただし、結露しないこと）
外形寸法		本体：約326（幅）× 267（奥行）× 49（高さ）mm（突起部除く）
質量		本体：約3.3Kg（バッテリ装着時）
消費電力	定格消費電力	110WAC
	待機時消費電力	3.3WAC

*1 グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現しています。

*2 標準添付されている電源コードはAC100V用（日本仕様）です。本製品は国内専用ですので海外でお使いの場合は保証対象外となります。

付録

用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

● ACPI
Advanced Configuration and Power Interfaceの略。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

● AGP
CPUとビデオチップを接続するための拡張ポート。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化しています。

● BIOS（バイオス）
Basic Input Output Systemの略。コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたもの。コンピュータ内部にROMで提供されています。またBIOS Setupユーティリティで設定する内容を含める場合もあります。
類義語　CMOS RAM

● BIOS Setupユーティリティ
コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラム。BIOSとセットで ROM で提供されています。BIOSSetupユーティリティで設定した値はCMOSRAMに保存されます。

● Boot（ブート）
コンピュータの電源を入れてコンピュータを使用できる状態にすることです。「起動する」とも言います。

● CPU
Central Processing Unitの略。コンピュータの処理の中心を担う頭脳のようなものです。

● DDR SDRAM
「DDR」とは、「Double Data Rate」の略で、従来のSDRAMよりもデータ転送が2倍速くなります。

● DMA転送
Direct Memory Accessの略。CPUを介さずに、周辺装置とメモリ間で直接データ転送を行うことです。

● DMAチャネル
DMAでデータを転送する場合の通り道のこと。複数のDMA転送を行う装置が接続されている場合には、別々のチャネルを使用するように設定する必要があります。

● DRAM（ディーラム）
メモリの種類。Dynamic Random Access Memoryの略。コンピュータで最も一般的に使用されるメモリです。
メインメモリには、DRAMが使用されます。コンピュータの電源を切ると、DRAM のデータは消失します。

● FAT32ファイルシステム

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を32ビットに拡張したファイルシステム。2GB以上のディスク容量を1つのドライブとして使用することができます。

● HDD領域

HDDの容量を用途に合わせて確保したスペースのことで、パーティションとも呼びます。HDD1台にHDD領域は複数作成することができ、それぞれドライブとして利用できます。

● I/Oポート(Input/Outputポート)

CPUとデバイスの間でデータをやりとりするポートです。

● IDE

Integrated Device Electronicsの略。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。

● IEEE1394

コンピュータと周辺機器をシリアル通信で接続するための規格のことです。USBインタフェースより、データ転送速度が速く、大容量のデータ転送も可能です。

● IRQ

Interrupt Requestの略。周辺装置からCPUに対して処理を依頼するための信号。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張カードなどで使用されます。

● IRQ番号

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0～IRQ15の16種類が用意されています。

● LAN

Local Area Networkの略で、会社内や学校内など比較的限られたエリア内のコンピュータ同士をつなげた状態のことです。

● MIDI

演奏データをやり取りするためのインタフェース、または規格のことです。現在では、多くの電子楽器がMIDI規格の端子を装備しています。

● NTFS

NTFSは、FATファイルシステムに比べて信頼性が高く、セキュリティに優れています。障害が発生したファイルの構造を復旧したり、ユーザーやグループごとにアクセス権を設定することができます。

● OS

Operating Systemの略。コンピュータ全体を管理するソフトウェアのことです。WindowsやMS-DOSなどのことです。

● PCIバス
拡張バスの一種。一般的に採用されている拡張バス。ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応など多くのメリットがあります。高速性を要求される拡張カードに使用されます。

● RAM(Random Access Memory)
RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

● ROM(Read Only Memory)
読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持しつづけます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

● RS232C
シリアルインタフェースとして採用されている規格のことです。外付けモデムやTA(ターミナルアダプタ)などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

● SDRAM
外部バスインタフェースが、一定周期のクロック信号に同期して動作するように改良されたDRAMです。

● SODIMM
Single Outline Dual Inline Memory Moduleの略。メインボードの所定のソケットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。

● S/P DIF
Sony Philips Digital InterFaceの略です。デジタル信号に変換された音声データをやりとりするためのインタフェースのことです。

● TA(ターミナルアダプタ)
コンピュータ、モデム、電話機やFAXなど、本来ISDN対応機能を持たない通信機器をISDN回線に接続するためのアダプタのことです。

● USB
Universal Serial Busの略。周辺機器をシリアル通信で接続するための規格。USB対応機器を接続します。USB2.0はUSB1.1と完全互換ですが、USB2.0の動作速度で動作するには、コンピュータ、周辺機器の両方がUSB2.0に対応している必要があります。

● アカウント
ネットワーク上で利用者を識別するための名前(記号や番号)のことです。

● アクセス
データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

● アクセスポイント

インターネットに接続するために、プロバイダが用意している電話番号のことです。

● アクセスランプ

HDDやFDDにアクセスしていることを示すランプのことです。

● アップロード

手元のコンピュータにあるデータを、通信回線を利用して、遠隔地のコンピュータに転送することです。

● アドレス

メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のことです。一般的に16進数で示されます。

● アプリケーションソフト

プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算などのようにユーザーが作業目的に応じて使うソフトウェアのことです。

● インストール

ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

● インタフェース

コンピュータと周辺装置の間でデータを入出力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

● オフライン

コンピュータがネットワークとつながっていない状態のことです。オンラインの反対語として用いられています。

● オンライン

他のコンピュータとつながっている状態や、電話回線でインターネットに接続している状態などのことです。オンライン・ショッピングなどの表現で、幅広く用いられています。

● 解像度

画面表示の細かさのことです。

● 外部キャッシュメモリ

CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。

類義語　キャッシュRAM、L2 キャッシュ、2次キャッシュ

● カーソル

文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

● 起動する

コンピュータの電源スイッチを入れて、コンピュータを使用できる状態にすることを「起動する」と言います。

類義語　立ち上げる。

● キャッシュ処理、キャッシュ機能

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

● コマンド
コンピュータに与える命令です。命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

● サーバ
ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

● システム
コンピュータ（ハードウェア）、OS、アプリケーションソフト（ソフトウェア）など全体のことを示します。

● ダイヤルアップ接続
モデムを用い、電話回線を通じて離れた場所にある別のコンピュータに接続することです。主に、インターネットを利用するために、プロバイダに接続することを言います。

● ダウンロード
遠隔地のコンピュータのデータなどを、通信回線を利用して、手元のコンピュータに転送することです。

● ディザリング
複数の画素を組み合わせて、1つの画素とみなすことにより、人間に中間色のように見せかける方法のことです。

● ディスプレイ
表示装置のことです。
類義語　CRTディスプレイ、モニタ

● ドット
表示画面のひとつひとつの点の単位です。

● ドライブレター
FDD、HDDやCD-ROMドライブに割り当てるアルファベットの1文字のことです。基本的にHDDが1基搭載されている場合は、「A:」がFDD、「C:」がHDD、「D:」がCD-ROMドライブに割り当てられます。

● 内部キャッシュ
CPUから周辺チップへのアクセスを減らし、高速処理をするためにCPU内部に設けられたキャッシュメモリのことです。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で高速処理を行えるようにします。

● バス
コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

● パラメータ
コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

● ハングアップ
コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

● ヒートシンク
放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のこと。CPUの発熱量は大きいため熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回す(強制空冷)のものがあります。

● ファイル
コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

● 物理ドライブ
HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

● ブラウザ
インターネットに接続したときに、ホームページを見るためのソフトウェアで、米ネットエスケープ・コミュニケーションズ社の「NetScape」や、米マイクロソフト社の「Internet Explorer」などがあります。これらのソフトウェアでホームページをみることを「ブラウジング」といいます。

● プラグアンドプレイ
取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)ことです。PnP、Plug and Playなどとも記載されます。
拡張カードや周辺装置などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能のことです。

● プログラム
コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。
類義語　ソフトウェア、アプリケーションソフト

● プロトコル
ネットワークで接続されたコンピュータ同士が、通信を行うための「手段」や「規格」のことです。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

● ポート
コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

● ボリュームラベル
HDDやFDにつけた名称のことです。

● メッセージ
コンピュータが入力されたコマンドに対して出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

● メインメモリ
メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのことです。主記憶。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

● メモリ
実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

● メモリチェック
コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

● モデム
電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

● ワイヤレスLAN
ネットワークケーブルを使わずに、電波などの無線で通信を行うLANのことです。

● リソース
拡張カードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語のことです。
類義語　システム資源

● ログオン
コンピュータシステムにアクセス可能な状態になることです。ログオン時には、ユーザーアカウントとパスワードの入力が求められます。「ログオン」とは逆に、コンピュータシステムの利用を終えて、接続を切り離すことを「ログオフ」と言います。
類義語　ログイン／ログアウト

● 論理ドライブ
OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

索　引

付録

付録

と

な

に

ね

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

み

め

も

ら

り

ろ

付録

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼動システムなどの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがありますが、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

国際エネルギースタープログラムについて

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

漏洩電流自主規制について

本装置は、（社）電子情報技術産業会（（社）日本電子工業振興協会）のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

高調波ガイドライン適合品

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

Macrovision著作権保護技術について（コンボドライブモデル）

本製品が採用しているMacrovision著作権保護技術は、Macrovision Corporationおよび他が所有する知的財産権や米国特許によって保護されています。

この技術の使用にはMacrovision Corporationの認可が必要です。また、Macrovision Corporationの許可なしに、家庭内や限られた範囲での視聴目的以外に使用することはできません。リバースエンジニアリングや、分解は禁止されています。

＊Macrovision著作権保護技術とは、DVDなどの映像コピー防止に関する技術です。

ご注意

(1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
(2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容は万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点 がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
(4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Windowsは 米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

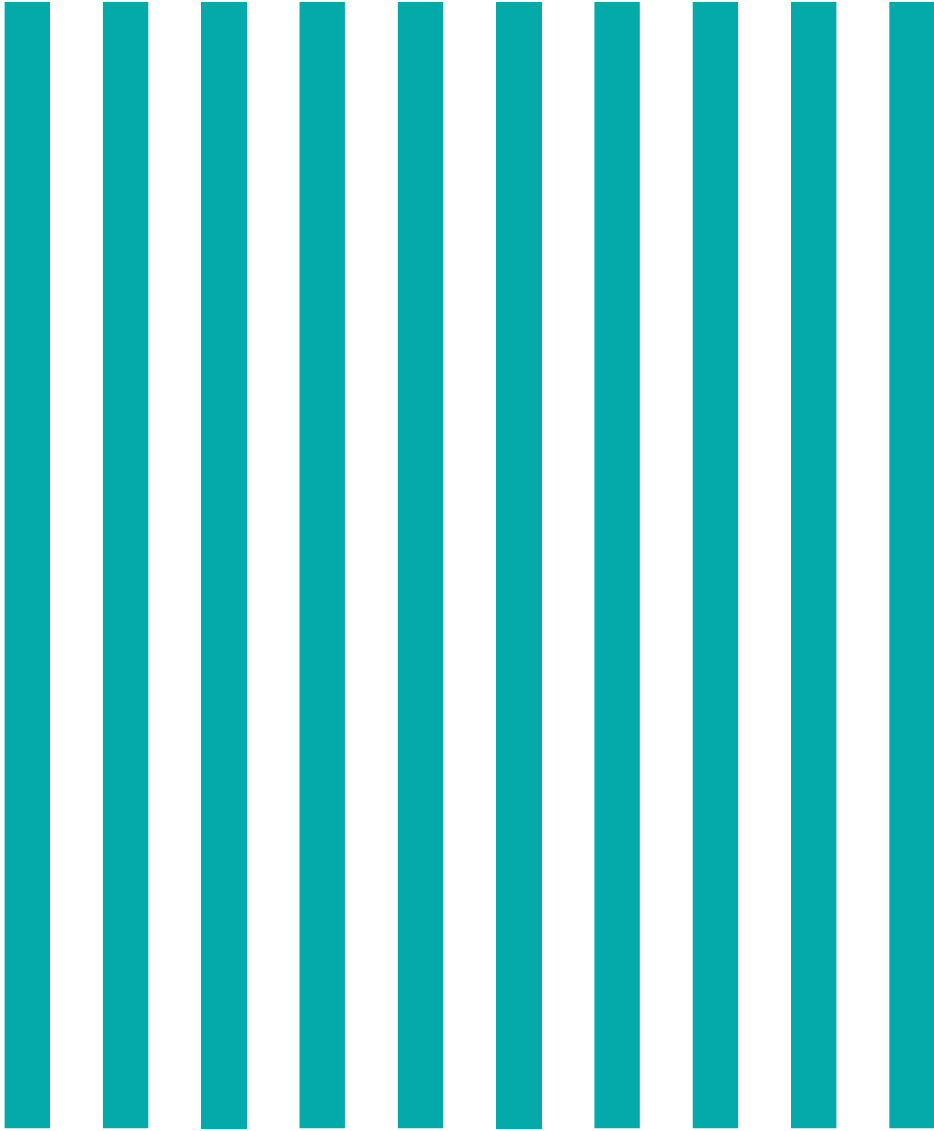
インテル、Pentium、Celeronはアメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

PS/2は International Business Machines の登録商標です。

Symantec、Symantecロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。

Adobe、Acrobat、およびAcrobatロゴはAdobe Systems Incorporatedの商標 (地域によっては登録商標)です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

C77266000　03.07-35.15(SO)

EPSON DIRECT CORPORATION

大豆油インキを
使用しています。

このユーザーズマニュアルは
古紙配合率１００％再生紙を使用しています。